

令和4(2022)年度第3回みよし市男女共同参画審議会 次第

日時 令和5(2023)年2月20日(月)

午後2時から

場所 市役所 6階 601, 602 会議室

1 あいさつ

2 議 題

みよし市男女共同参画社会に関するアンケート調査結果報告書(案)について

3 その他

令和4(2022)年度みよし市男女共同参画審議会 委員名簿

(敬称略)

団体名・役職等	氏名
東海学園大学経営学部教授	田代景子
みよし市区長会代表(明知下行政区区長)	伊藤欽治
みよし市小中学校校長会代表(北中学校校長)	岡本信一郎
みよし市社会教育委員会委員	野口尚子
みよし市民生児童委員協議会副会長	宇賀神光行
連合愛知豊田地域協議会事務局長	湊裕
JAあいち豊田女性部三好支部支部長	久野美知代
みよし商工会女性部副部長	酒井直美
在住外国人(三好丘桜)	宮代カレン
公募委員	岡本和子

(案)

みよし市男女共同参画社会に関するアンケート調査
調査結果報告書

令和5年3月

みよし市

目 次

I 調査の概要	1
1 調査目的	1
2 調査の概要	1
3 配布回収数	1
4 報告書の見方	1
II 調査結果	2
A. あなたの年齢・ご家族などについておたずねします。	2
B. 男女の平等意識についておたずねします。	6
C. 職業生活についておたずねします。	39
D. 地域活動についておたずねします。	48
E. 配偶者や恋人からの暴力（DV）についておたずねします。	55
F. 性の多様性のあり方についておたずねします。	63
G. 男女共同参画プランの推進体制についておたずねします。	77
H. ご意見・ご要望（自由記述）	81

I 調査の概要

1 調査目的

みよし市では、平成 31 (2019) 年 4 月に策定した「みよし男女共同参画プラン『パートナー2019-2023』」に基づき、男女共同参画社会のさらなる推進に向けて各施策を実施しています。

本調査は、プランの見直しにあたり、本市における男女共同参画に関する現状と市民の意識を把握し、計画に反映することを目的に実施しました。

2 調査の概要

調査対象	みよし市内在住の 16 歳以上の男女各 500 名
抽出方法	住民基本台帳より、年代別・地域別で無作為抽出
調査方法	郵送による調査票の配布、回収は郵送方式及び WEB 回答方式
調査期間	令和 4 年 10 月 1 日 (土) から令和 4 年 10 月 31 日 (月) まで

3 配布回収数

配布数	有効回収数			有効回収率
	郵送	WEB	計	
1,000	279	113	392	39.2%

※有効回収数は、回収されたが記入のない調査票を除いて集計した数。(無効票 1 票)

4 報告書の見方

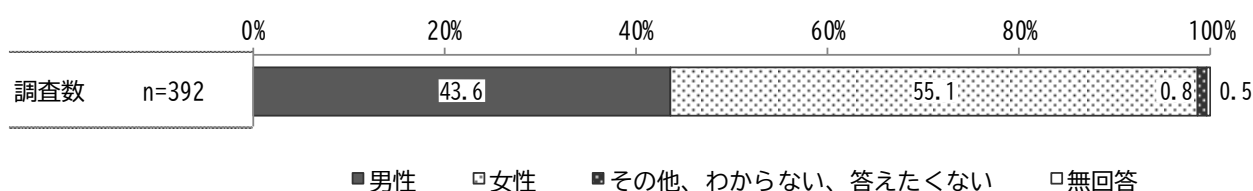
- (1)回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれ回答数の割合を小数点以下第 2 位で四捨五入したものです。そのため、単数回答 (複数の選択肢から 1 つの選択肢を選ぶ方式) であっても合計値が 100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の読み取り文、グラフ、表においても反映しています。
- (2)複数回答 (複数の選択肢から 2 つ以上の選択肢を選ぶ方式) の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が 100.0%を超える場合があります。
- (3)図表中において「無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- (4)図表中の「n (number of case)」は、集計対象者総数 (あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人) を表しています。
- (5)本報告書の表の見出し及び文章中での回答選択肢の表現は、趣旨が変わらない程度に簡略化して掲載している場合があります。

II 調査結果

A. あなたの年齢・ご家族などについておたずねします。

【問1】 あなたの性別についてあてはまる番号に○を付けてください。
※戸籍上の性別ではなく、あなたが自分でそうだと思う性別をお答えください。

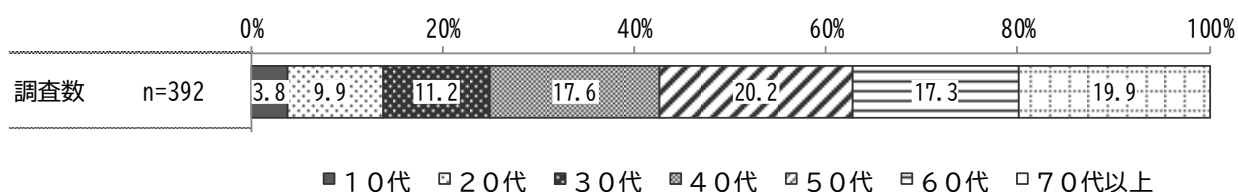
図 1 性別



- 回答者の性別は、「男性」が43.6%、「女性」が55.1%と、「女性」の割合が高くなっています。

【問2】 あなたの年齢(令和4(2022)年10月1日現在の満年齢)は次のうちどれですか。
あてはまる番号に○を付けてください。

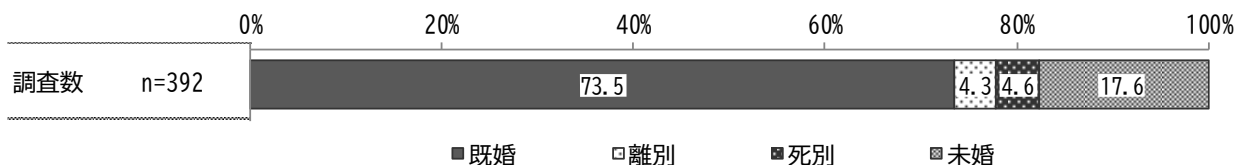
図 2 年代別



- 回答者の年代は、「50代」が20.2%と最も高く、次いで「70代以上」(19.9%)、「40代」(17.6%)、「60代」(17.3%)、「30代」(11.2%)、「20代」(9.9%)、「10代」(3.8%)となっています。

【問3】あなたは結婚していますか。(事実婚を含む)あてはまる番号に○を付けてください。

図3 婚姻の状況

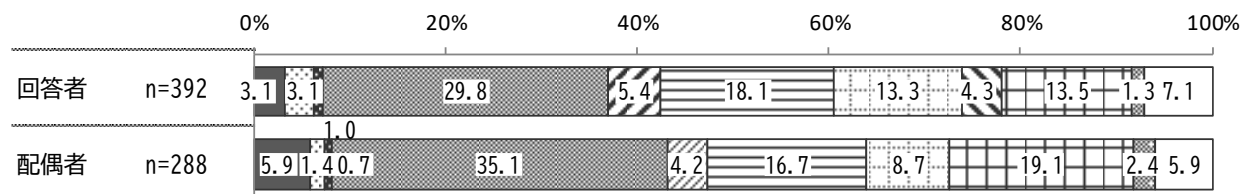


- 婚姻の状況に関しては、「既婚」が73.5%、「未婚」が17.6%、「死別」が4.6%、「離婚」が4.3%となっています。

【問3で「1. 既婚」と回答した方は「回答者」「配偶者」の欄を、「2. 離婚」「3. 死別」「4. 未婚」と回答した方は「回答者」の欄のみお答えください。】

【問4】あなた及び配偶者の職業は何ですか。
あてはまる番号をそれぞれ1つ選んで○を付けてください。

図4 職業

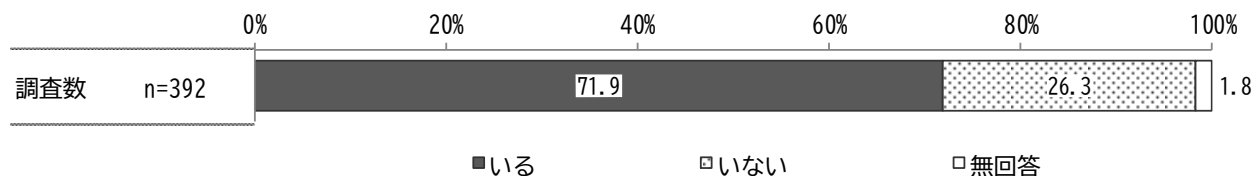


- 自営業 (商工業、農林水産業、製造業、サービス業など)
- 自営業の家族従業者 (商工業、農林水産業、製造業、サービス業など)
- 自由業 (開業医、弁護士、芸術家等)
- 正規社員、職員 (常勤の会社員、公務員等)
- 契約社員・派遣社員
- パートタイム・アルバイト
- 専業主婦・専業主夫
- 学生
- 無職
- その他
- 無回答

- 回答者の職業は、「正規社員、職員(常勤の会社員、公務員等)」が29.8%と最も高く、次いで「パートタイム・アルバイト」が18.1%となっています。
- 配偶者の職業は、「正規社員、職員(常勤の会社員、公務員等)」が35.1%と最も高く、次いで「無職」が19.1%、「パートタイム・アルバイト」が16.7%となっています。

【問5】 お子さんはいますか。あてはまる番号に○を付けてください。

図5 お子さんの有無

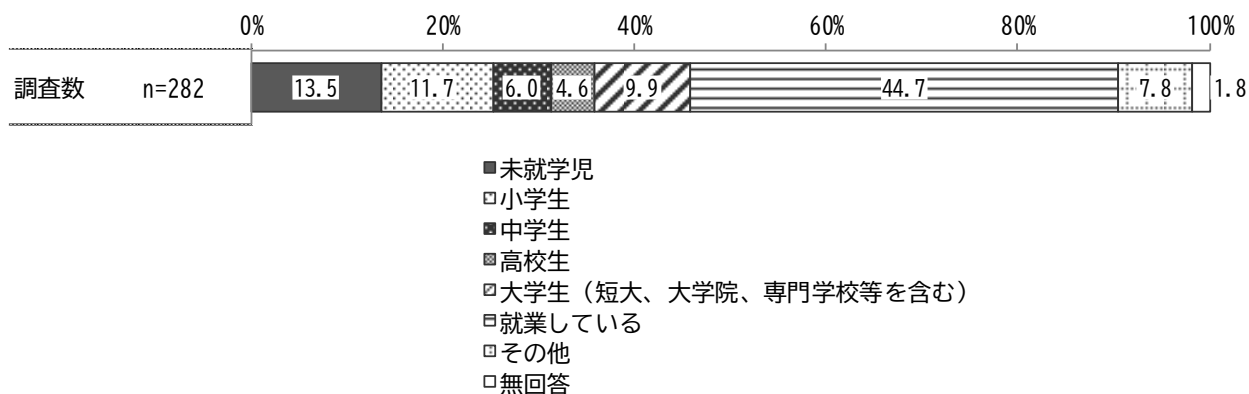


■ お子さんの有無については、「いる」が71.9%、「いない」が26.3%となっています。

【問5で「1. いる」と回答した方のみお答えください。】

【問5-1】 一番下のお子さまは何歳ですか。

図6 一番下の子どもの年齢

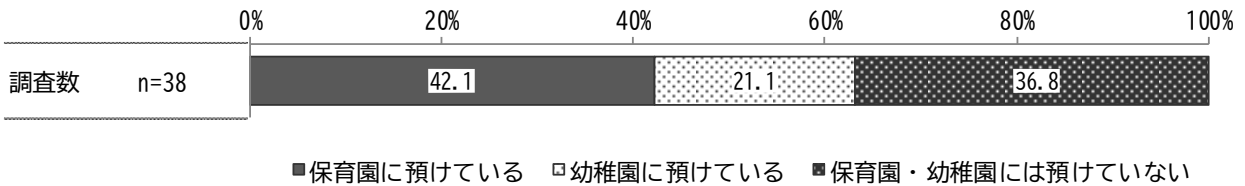


■ 一番下の子どもの年齢は、「就業している」が44.7%と最も高く、次いで「未就学児」(13.5%)、「小学生」(11.7%)、「大学生(短大、大学院、専門学校等を含む)」(9.9%)となっています。

【問5—1で「1. 未就学児」と回答した方のみお答えください。】

【問 5—2】 そのお子さまは保育園・幼稚園に預けていますか。

図 7 未就学児の子どもの預け先

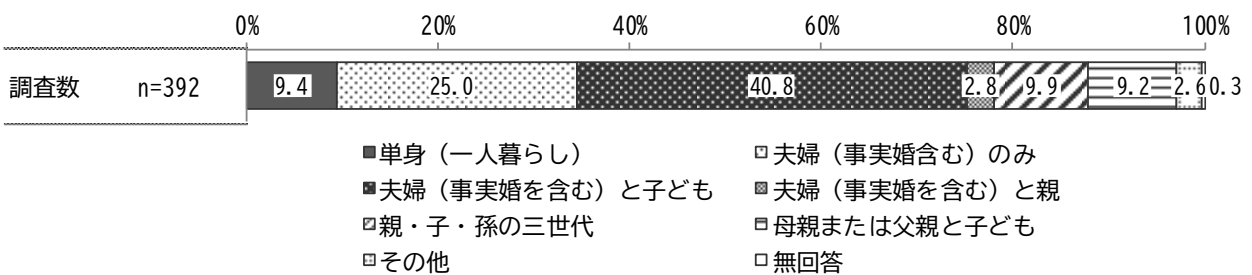


■ 未就学児の子どもを保育園や幼稚園に預けているかについては、「保育園に預けている」が 42.1% (16 人) と最も高く、次いで「保育園・幼稚園には預けていない」が 36.8% (14 人)、「幼稚園に預けている」が 21.1% (8 人) となっています。

【すべての方におたずねします。】

【問6】 あなたが現在、同居しているご家族の構成はどれにあてはまりますか。
あてはまる番号を1つ選んで○を付けてください。

図 8 家族構成

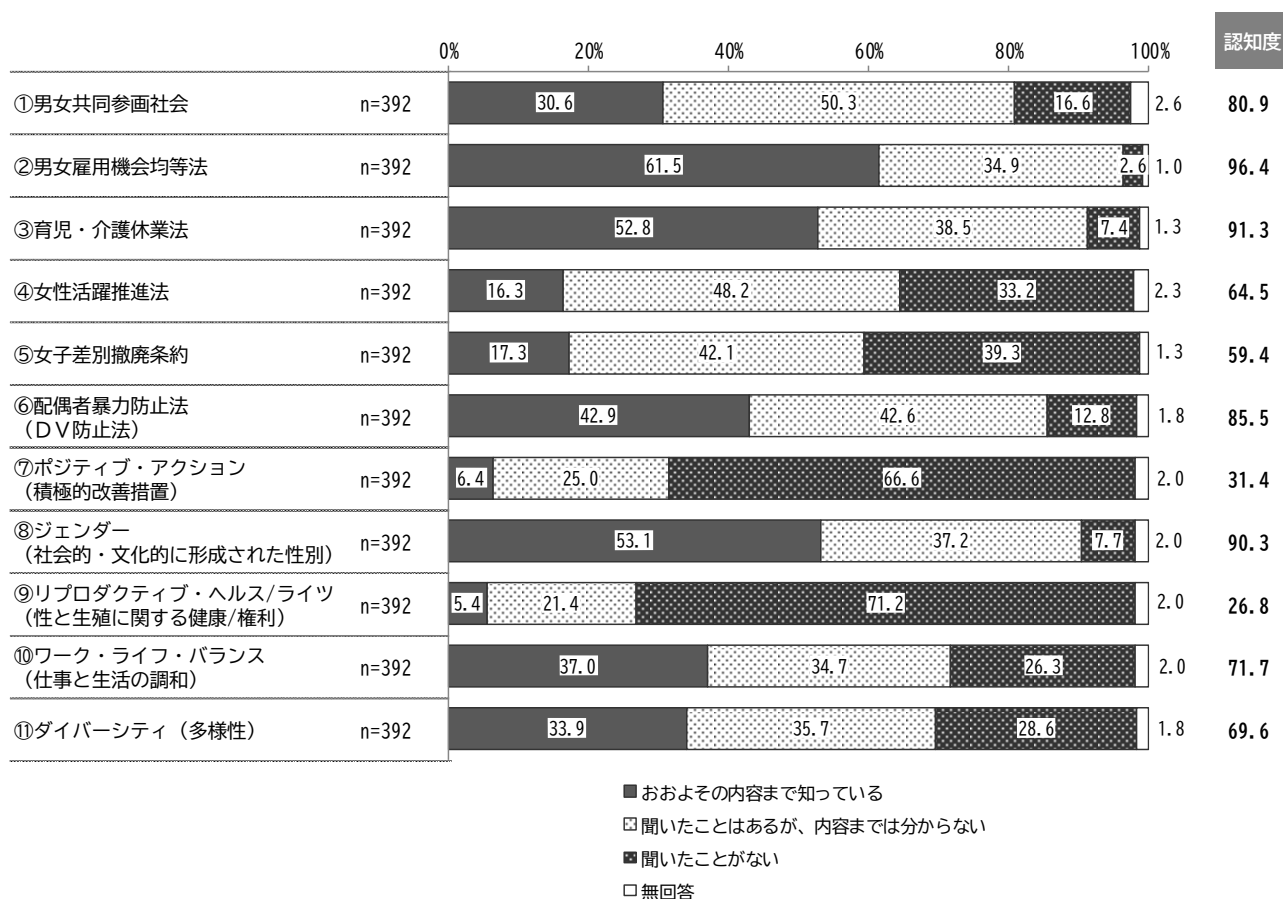


■ 家族構成は、「夫婦(事実婚を含む)と子ども」が 40.8% と最も高く、次いで「夫婦(事実婚を含む)のみ」が 25.0% となっています。

B. 男女の平等意識についておたずねします。

【問7】 次の法律、言葉の中で、あなたが知っている、または聞いたことがあるものはどれですか。
(①～⑪についてそれぞれ○を1つ付けてください)

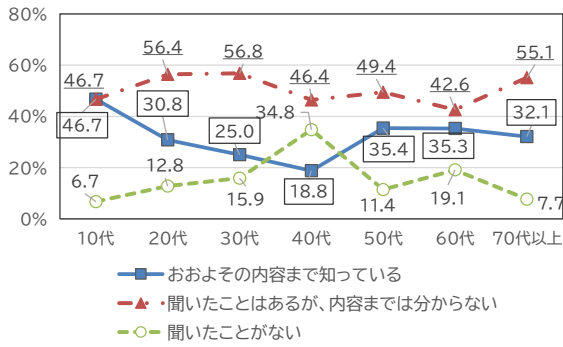
図 9 男女共同参画に関する言葉の認知度



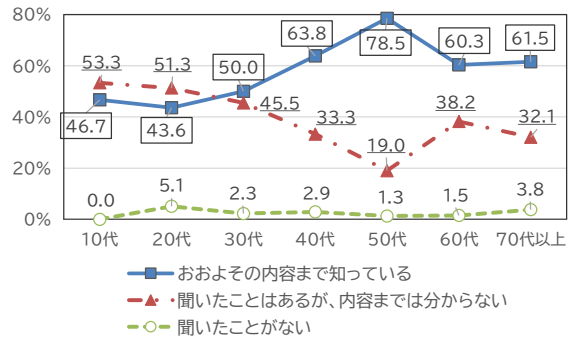
- 男女共同参画に関する言葉の認知度(「おおよその内容まで知っている」+「聞いたことはあるが、内容までは分からない」)については、「②男女雇用機会均等法」は 96.4%、「③育児・介護休業法」は 91.3%、「⑧ジェンダー(社会的・文化的に形成された性別)」は 90.3%と認知度が高くなっており、「おおよその内容まで知っている」の割合も5～6割台と高くなっています。
- 一方で、「⑨リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と生殖に関する健康/権利)」や「⑦ポジティブ・アクション(積極的改善措置)」などは2～3割台にとどまっています。
- 「④女性活躍推進法」や「⑤女子差別撤廃条約」は、「おおよその内容まで知っている」の割合は2割に満たないが「聞いたことはあるが、内容までは分からない」まで加えると6割半ばとなり、一定の認知度はあるものの内容までの認知度は低い傾向です。
- 「⑩ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)」や「⑪ダイバーシティ(多様性)」は、約7割の認知度となっており、一定の浸透がうかがえます。

【年代別】

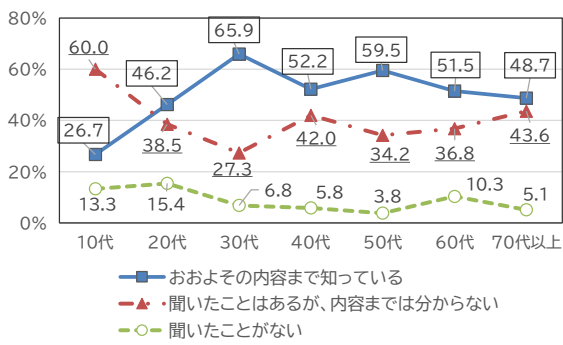
①男女共同参画社会



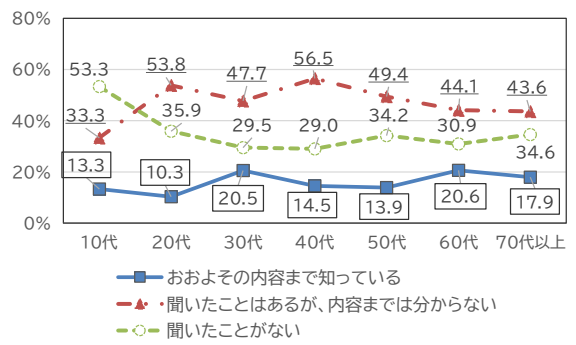
②男女雇用機会均等法



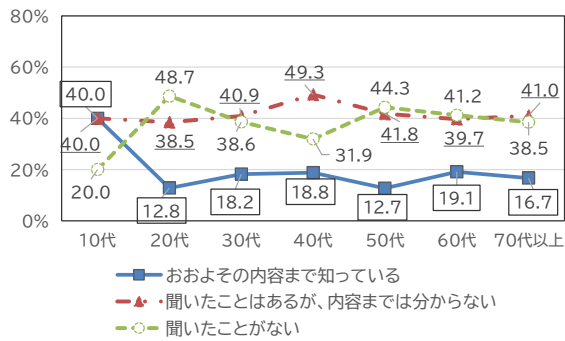
③育児・介護休業法



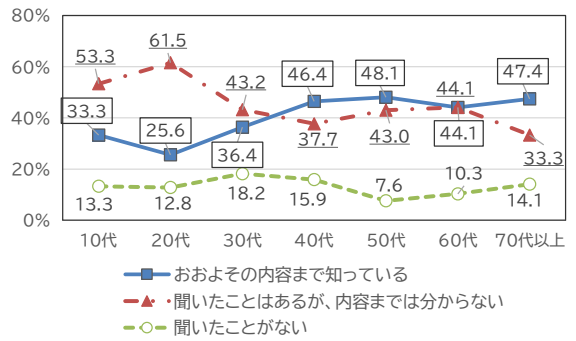
④女性活躍推進法



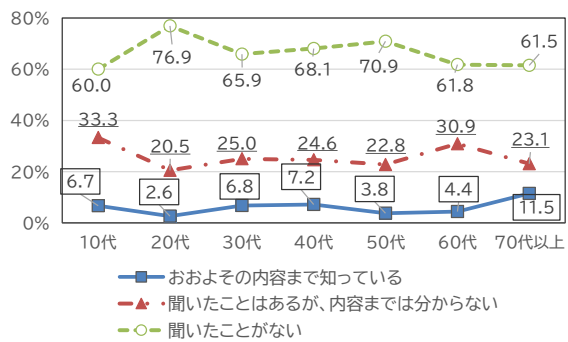
⑤女子差別撤廃条約



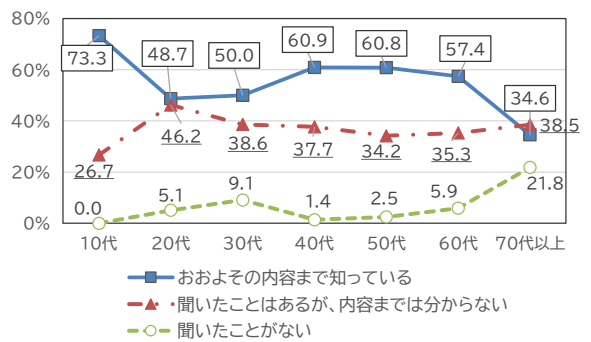
⑥配偶者暴力防止法(DV防止法)



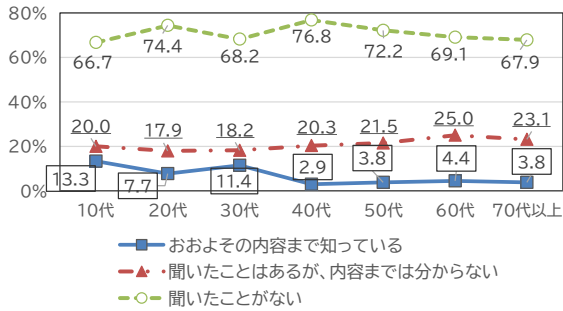
⑦ポジティブ・アクション(積極的改善措置)



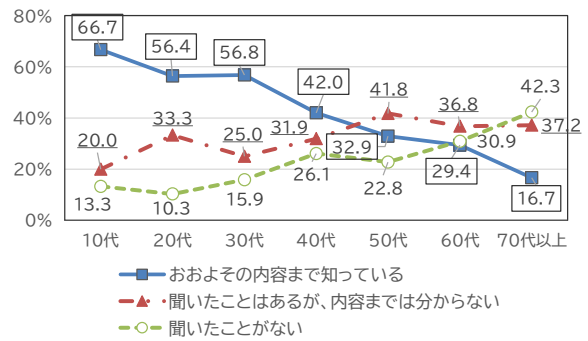
⑧ジェンダー(社会的・文化的に形成された性別)



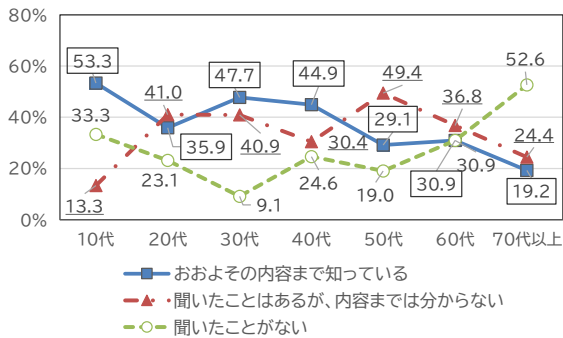
⑨リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と生殖に関する健康/権利)



⑩ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)



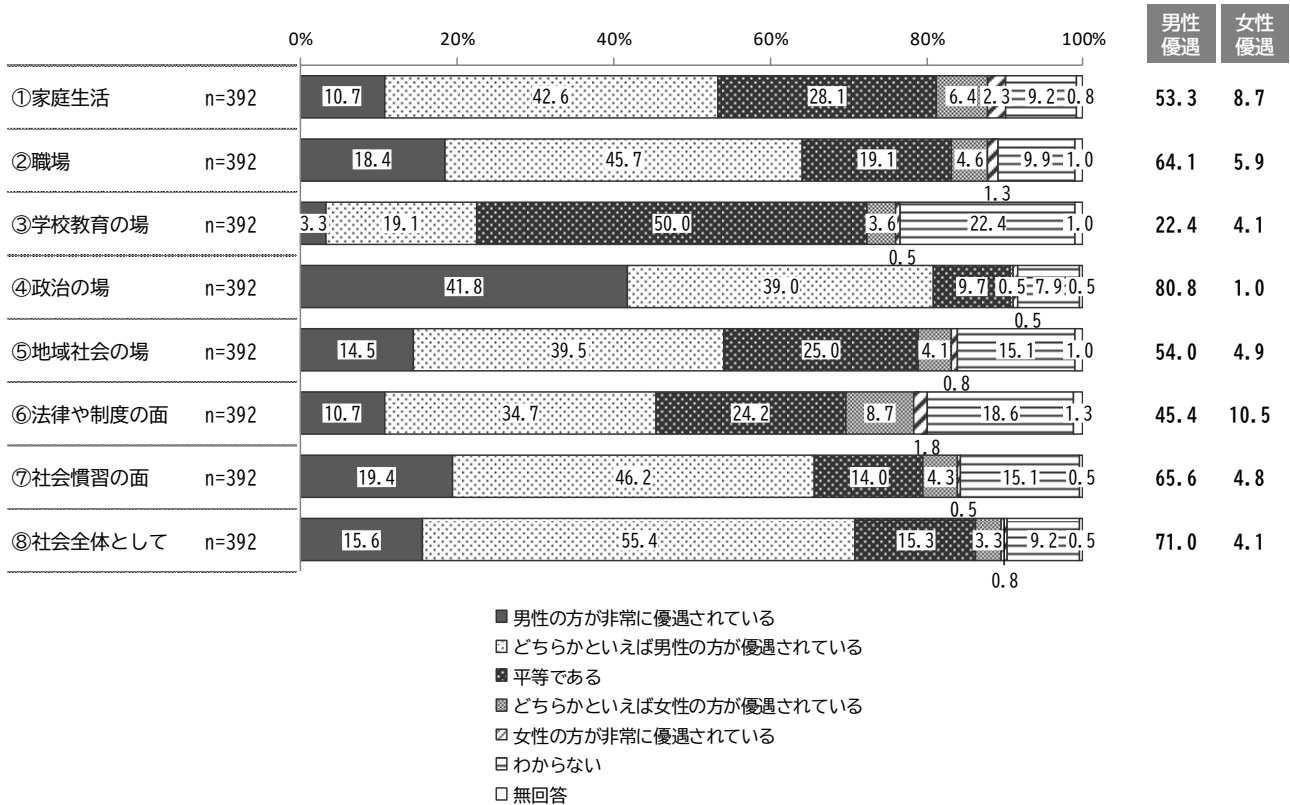
⑪ダイバーシティ(多様性)



- 「②男女雇用機会均等法」は 30～70 代以上まで、「③育児・介護休業法」は 30～60 代、「⑧ジェンダー(社会的・文化的に形成された性別)」は 10～60 代で「おおよその内容まで知っている」の割合が高く、幅広い年代で認知度が高くなっています。
- 「⑦ポジティブ・アクション(積極的改善措置)」「⑨リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と生殖に関する健康/権利)」などは年代に関係なく認知度が低くなっています。
- 「⑩ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)」「⑪ダイバーシティ(多様性)」は、10～30 代の若年層では比較的認知度が高く、60～70 代以上の高齢層では認知度の割合が低い傾向にあります。
- 「⑥配偶者暴力防止法(DV防止法)」は、10～30 代に比べ 40～70 代以上の年齢層で認知度の割合が高い傾向にあります。

【問8】今の社会において、次の各分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。
 (①～⑧についてそれぞれ〇を1つ付けてください)

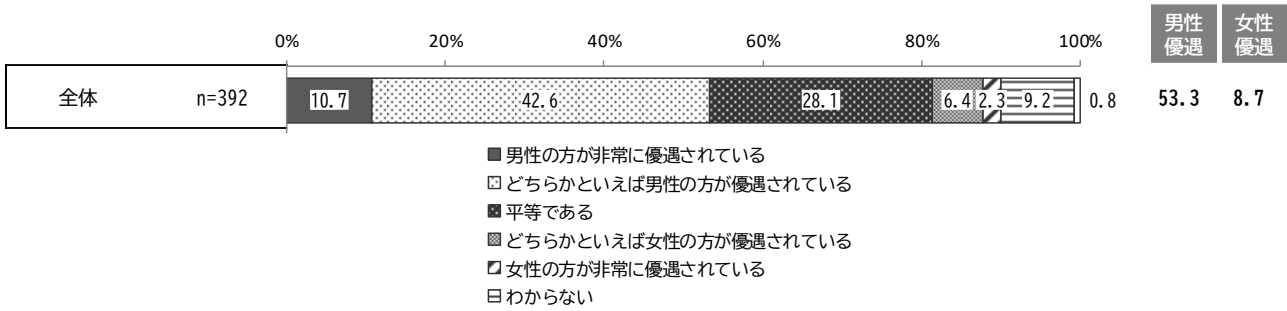
図 10 男女の地位の平等感



- “男性の方が優遇されていると感じている人”（「男性の方が非常に優遇されている」+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」）は、「④政治の場」（80.8%）が最も高く、次いで「⑧社会全体として」（71.0%）、「⑦社会慣習の面」（65.6%）「②職場」（64.1%）となっています。
- 「学校教育の場」では「平等である」が 50.0%となっており、比較的、平等・不平等の感じ方の差が少ない分野となっています。
- 「政治の場」は「男性の方が非常に優遇されている」が 41.8%と高く、他の項目に比べて平等感が低くなっています。

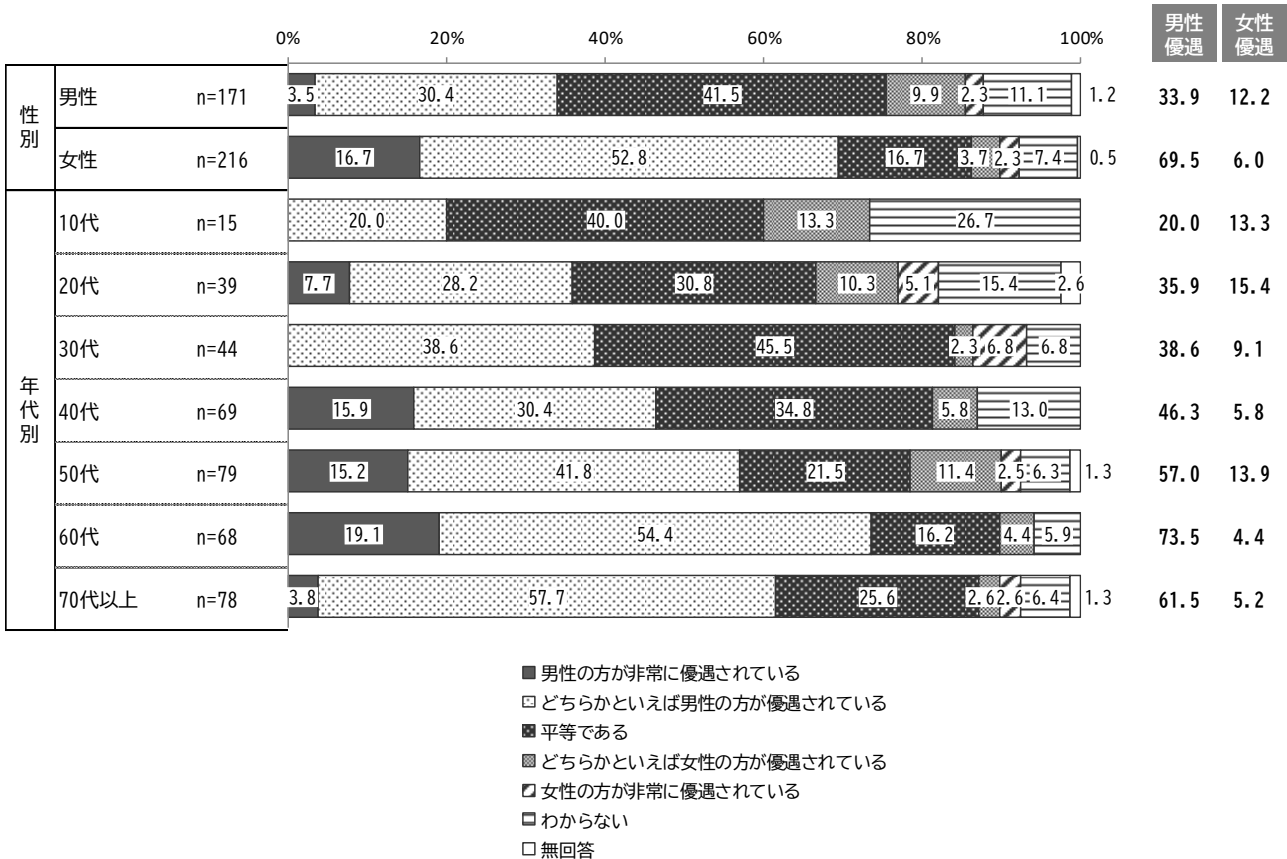
①家庭生活

【全体】



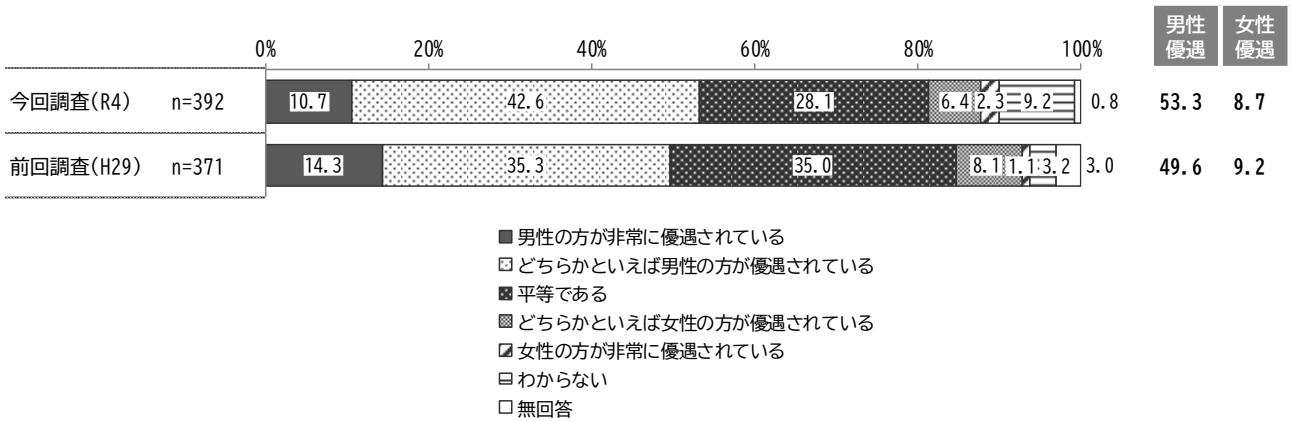
■ 家庭生活については、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が42.6%と最も高く、これに「男性の方が非常に優遇されている」(10.7%)を合わせた“男性の方が優遇されていると感じている人”の割合が53.3%となっています。

【性・年代別】



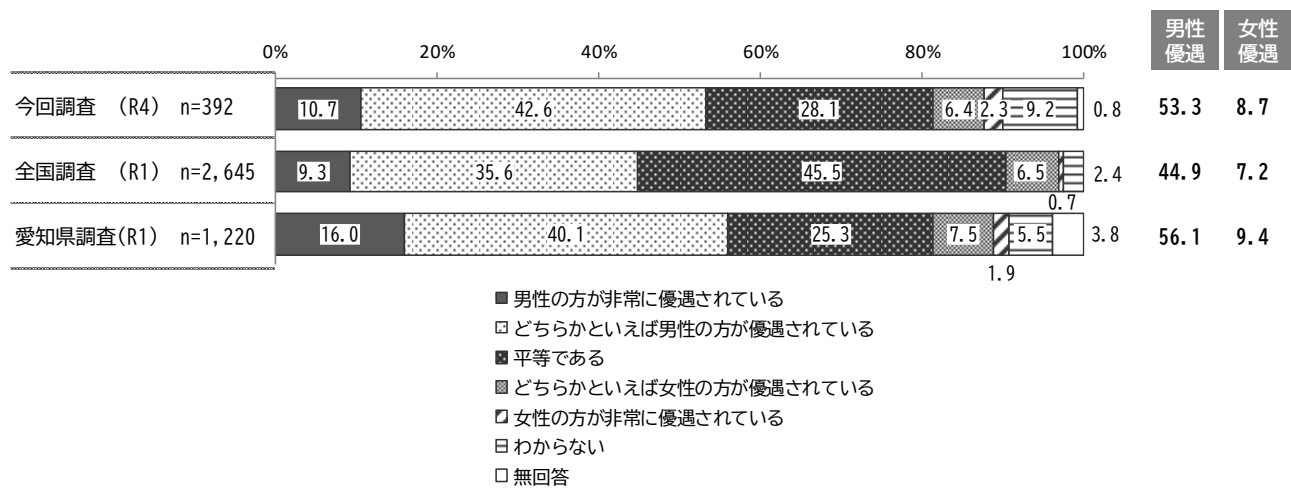
- 「平等である」と回答した人が、男性は41.5%いることに対し、女性は16.7%にとどまっています。
- 性別では、“男性の方が優遇されていると感じている人”の割合が男性で33.9%、女性で69.5%と、女性が35.6ポイント上回っています。
- 年代別では、“男性の方が優遇されていると感じている人”の割合が60代までは年代が上がるにつれ増え、「平等である」という回答が減少するという傾向がみられます。

【前回調査との比較】



- 前回調査と比較すると、“男性の方が優遇されていると感じている人”の割合が 3.7 ポイント増加しています。

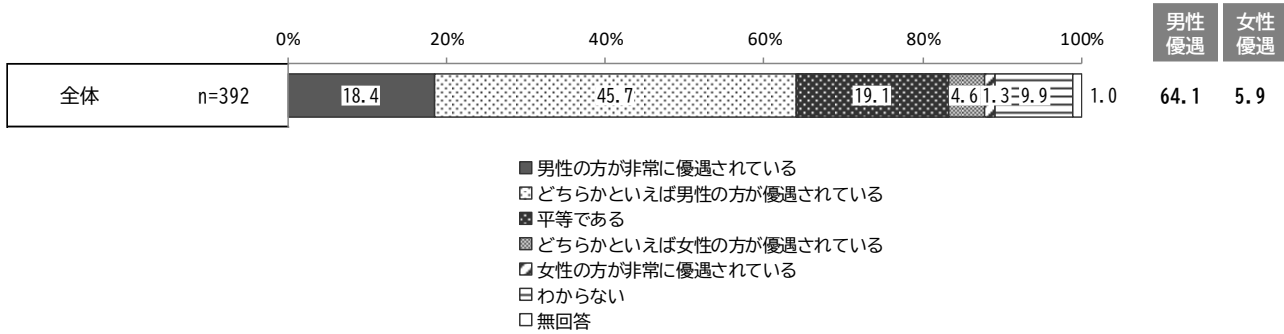
【国・愛知県との比較】



- “男性の方が優遇されていると感じている人”の割合が、全国に比べて 8.4 ポイント高く、県に比べて 2.8 ポイント低くなっています。
- 全体の割合は県に似ている割合となっています。「平等である」と回答した人は、県に比べて 2.8 ポイント高くなっていますが、全国と比べると 17.4 ポイント低くなっています。

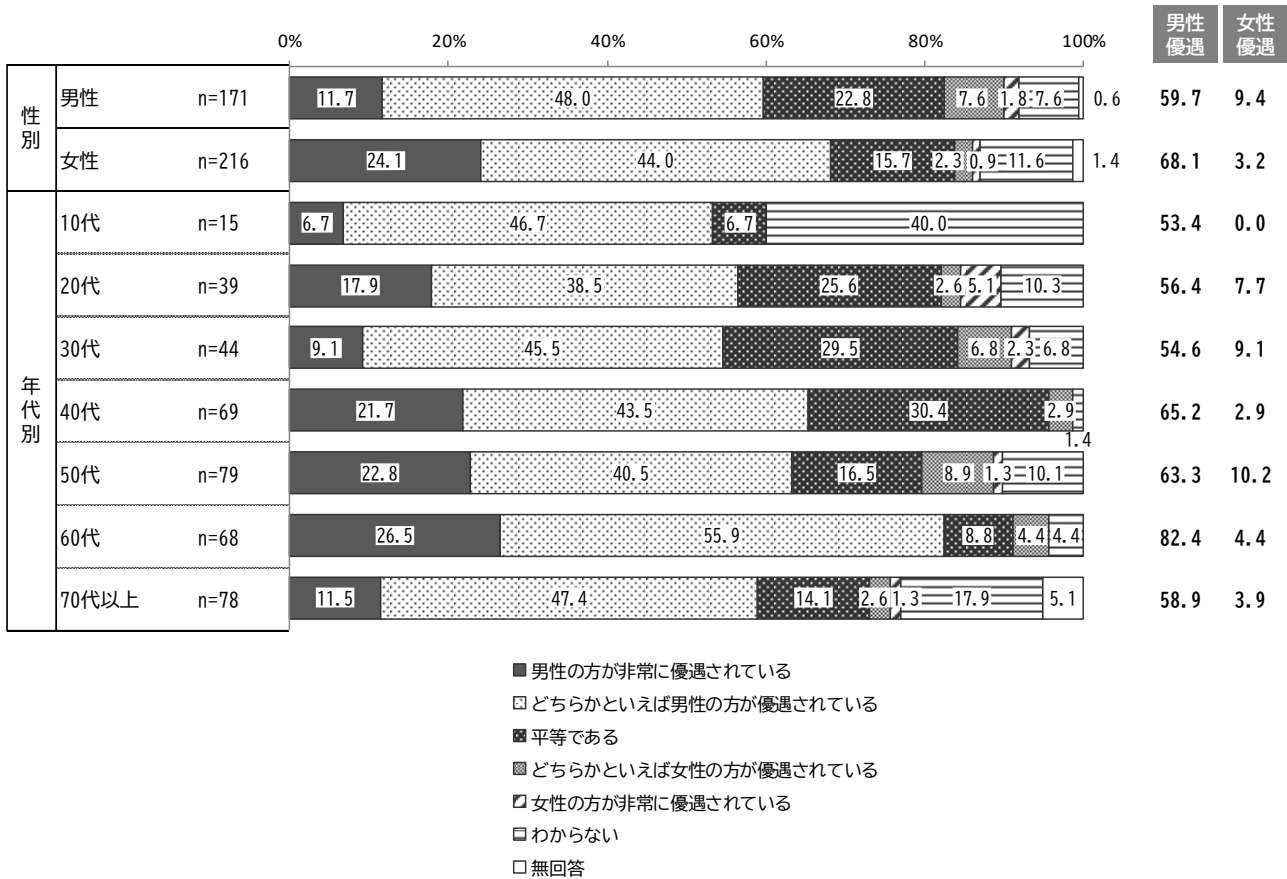
②職場

【全体】



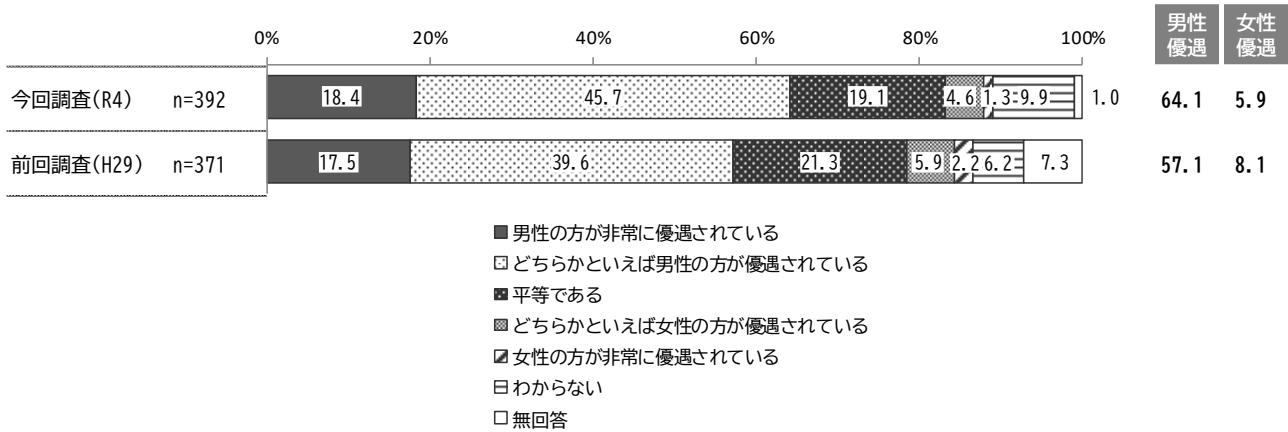
- 職場については、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が45.7%と最も高く、これに「男性の方が非常に優遇されている」(18.4%)を合わせた“男性の方が優遇されていると感じている人”の割合が64.1%となっています。

【性・年代別】



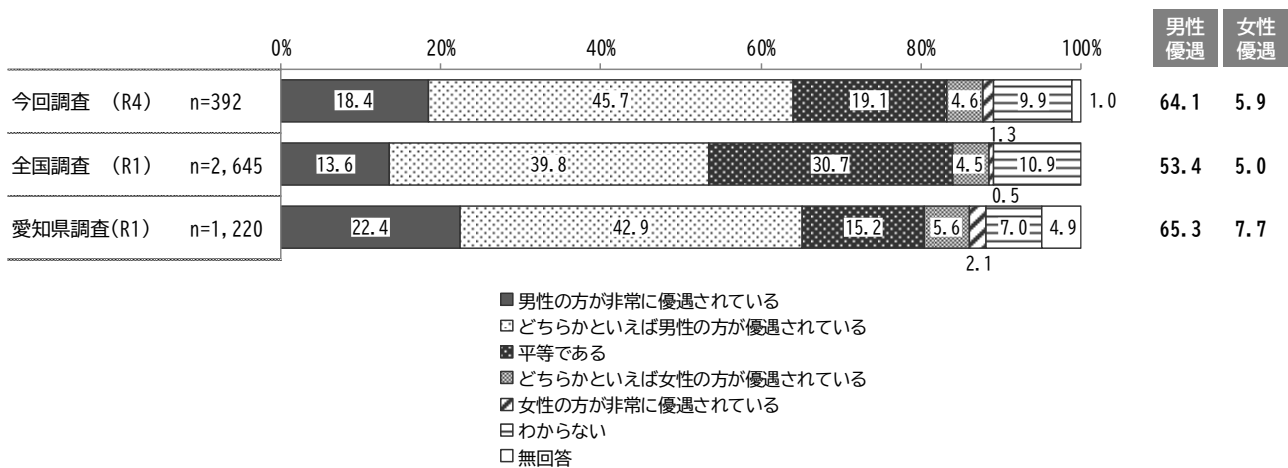
- 性別では、“男性の方が優遇されていると感じている人”の割合が男性で59.7%、女性で68.1%と、女性が8.4ポイント上回っているのに対し、「平等である」と回答した人は、男性で22.8%、女性が15.7%と、男性が7.1ポイント上回っています。
- 年代別では、60代までは年代が上がるにつれて“男性の方が優遇されていると感じている人”の割合は増加傾向にあります。

【前回調査との比較】



- 前回調査と比較すると、“男性の方が優遇されていると感じている人”の割合が 7.0 ポイント増加しています。

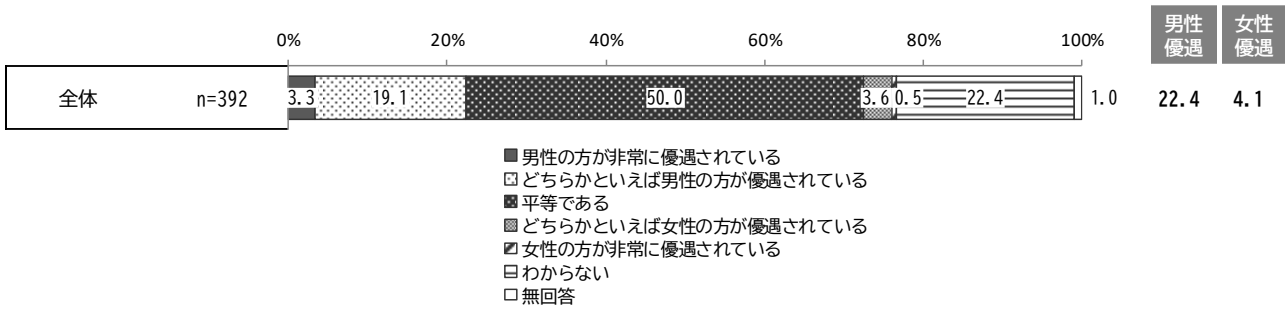
【国・愛知県との比較】



- “男性の方が優遇されていると感じている人”の割合が、全国に比べて10.7ポイント高く、県に比べて1.2ポイント低くなっています。
- 全体の割合は県に似ている割合となっています。「平等である」と回答した人は、県に比べて 3.9 ポイント高くなっていますが、全国と比べると 11.6 ポイント低くなっています。

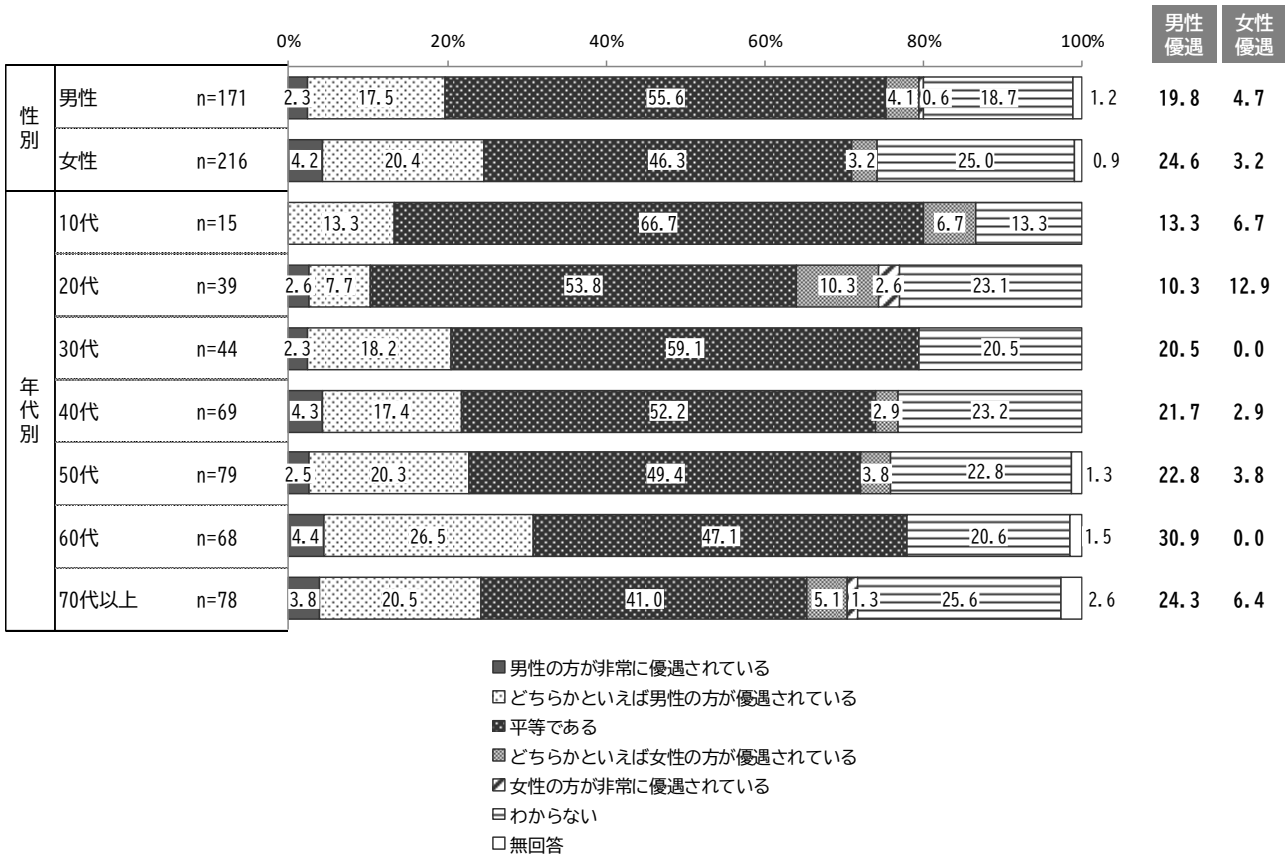
③学校教育の場

【全体】



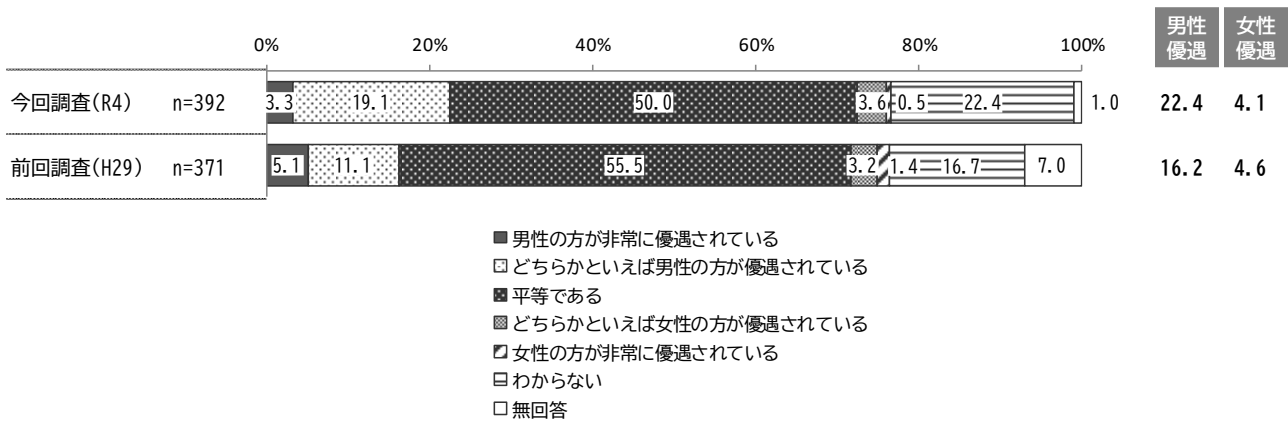
- 学校教育の場については、「平等である」が 50.0%と最も高くなっています。また、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた“男性の方が優遇されていると感じている人”の割合は 22.4%となっています。

【性・年代別】



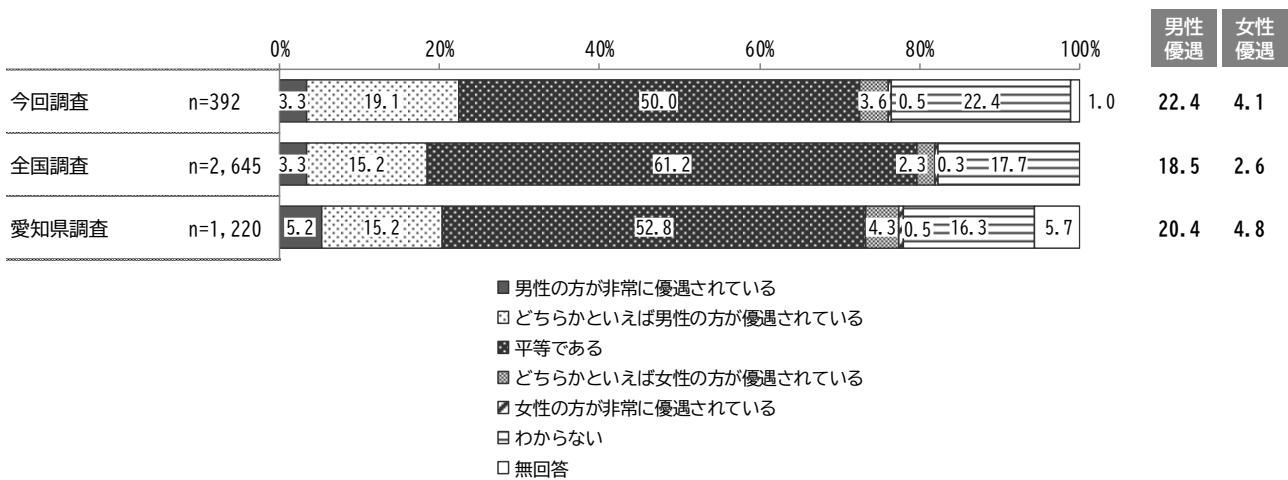
- 性別では、“男性の方が優遇されていると感じている人”の割合が男性で 19.8%、女性で 24.6%と、女性が 4.8 ポイント上回っています。
- 年代別では、60 代までは年代が上がるにつれて“男性の方が優遇されていると感じている人”の割合が増加傾向にあります。

【前回調査との比較】



- 前回調査と比較すると、“男性の方が優遇されていると感じている人”の割合が 6.2 ポイント増加しています。

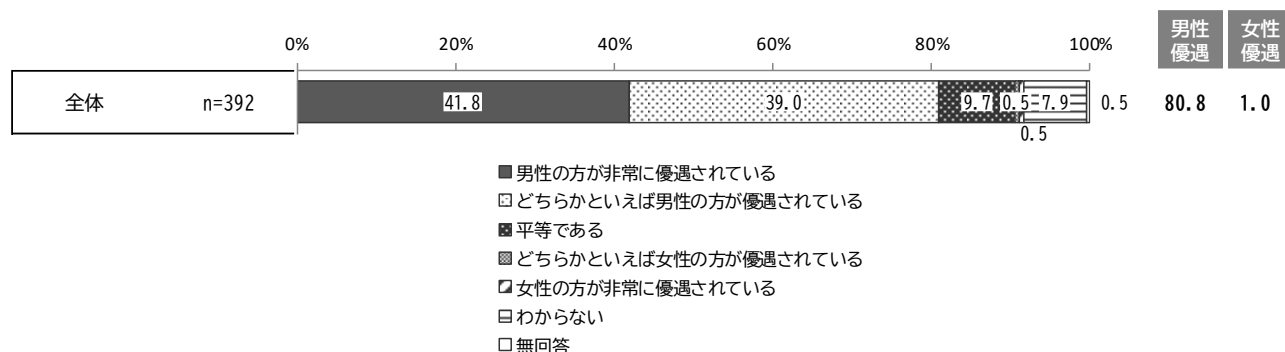
【国・愛知県との比較】



- “男性の方が優遇されていると感じている人”の割合が、全国に比べて 3.9 ポイント、県に比べて 2.0 ポイント高くなっています。
- 「平等である」と回答した人は、県に比べ 2.8 ポイント低く、全国と比べると 11.2 ポイント低くなっています。

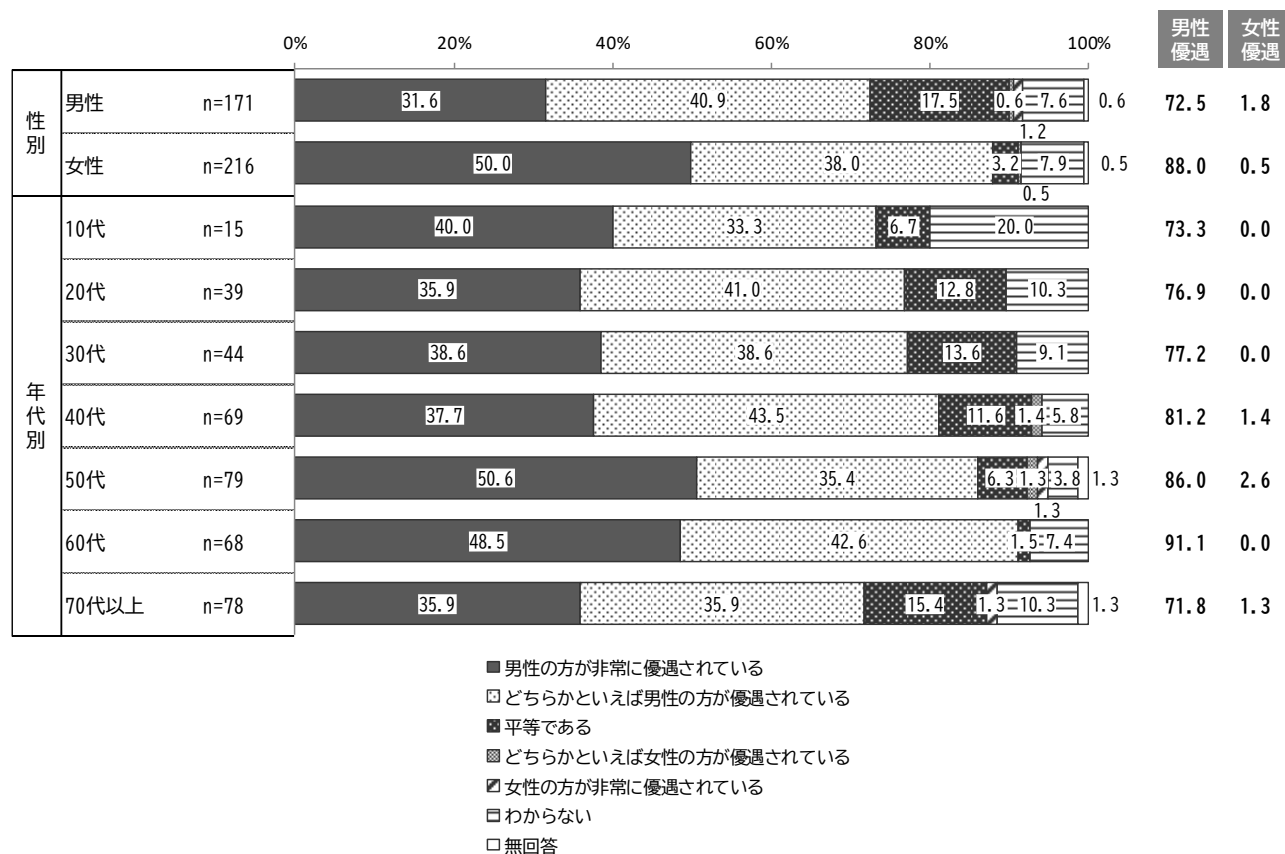
④政治の場

【全体】



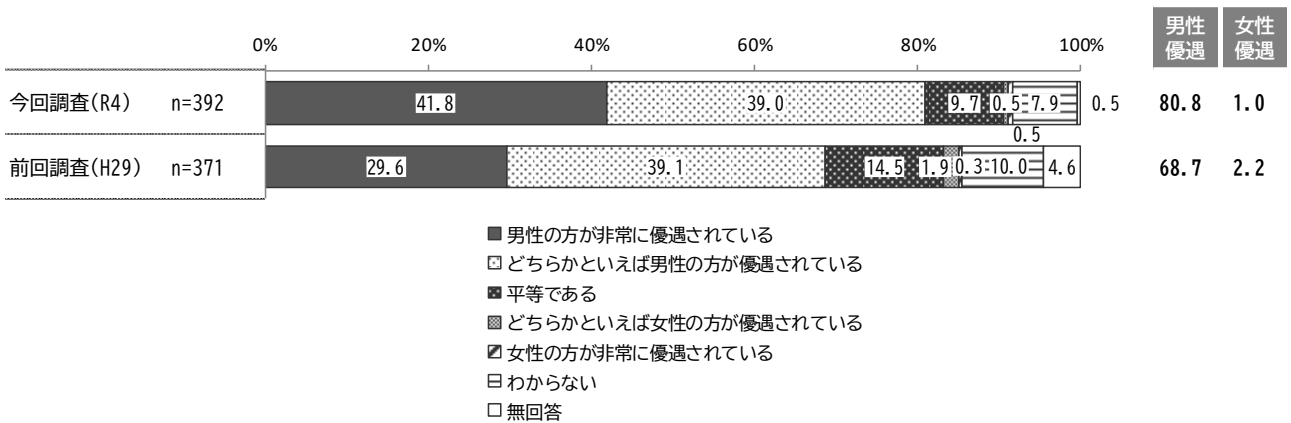
- 政治の場については、「男性の方が非常に優遇されている」が 41.8%と最も高く、次いで「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が 39.0%となっており、これらを合わせた“男性の方が優遇されていると感じている人”の割合が 80.8%となっています。

【性・年代別】



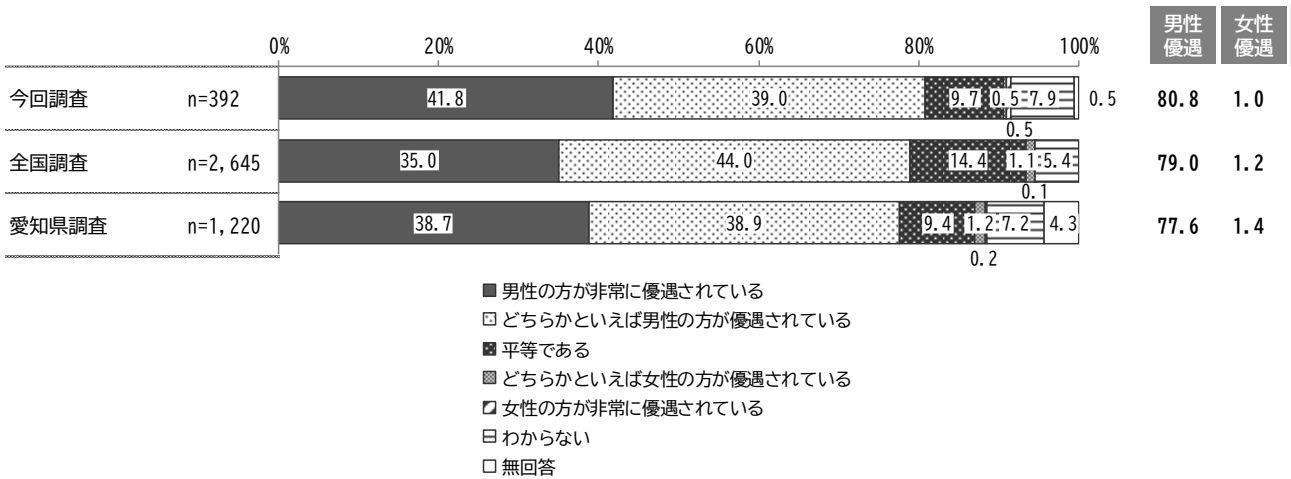
- 性別では、“男性の方が優遇されていると感じている人”の割合が男性で 72.5%、女性で 88.0%と、女性が 15.5 ポイント上回っています。「平等である」と回答した人は、男性が 17.5%で、女性が 3.2%と、男性が 14.3 ポイント上回っています。
- 年代別では、60 代までは年代が上がるにつれて“男性の方が優遇されていると感じている人”の割合が増加傾向にあります。

【前回調査との比較】



- 前回調査と比較すると、“男性の方が優遇されていると感じている人”の割合が 12.1 ポイント増加しています。

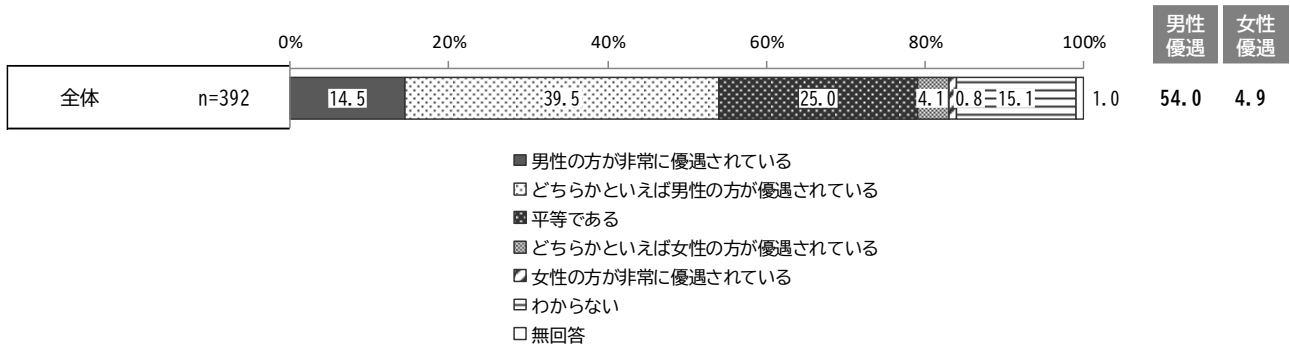
【国・愛知県との比較】



- “男性の方が優遇されていると感じている人”の割合が、全国に比べて 1.8 ポイント、県に比べて 3.2 ポイント高くなっています。
- 「平等である」と回答した人は、全国に比べて 4.7 ポイント低くなっています。

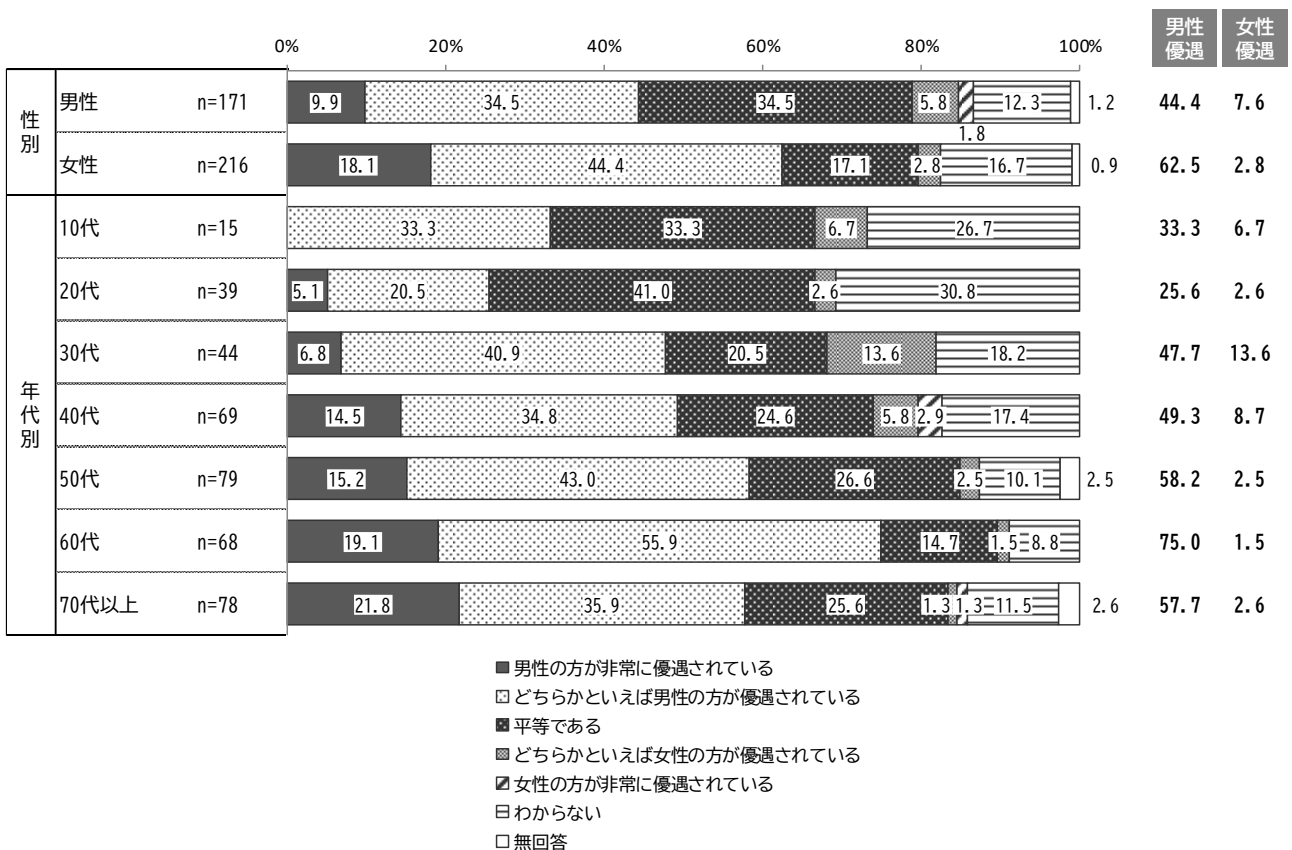
⑤地域社会の場

【全体】



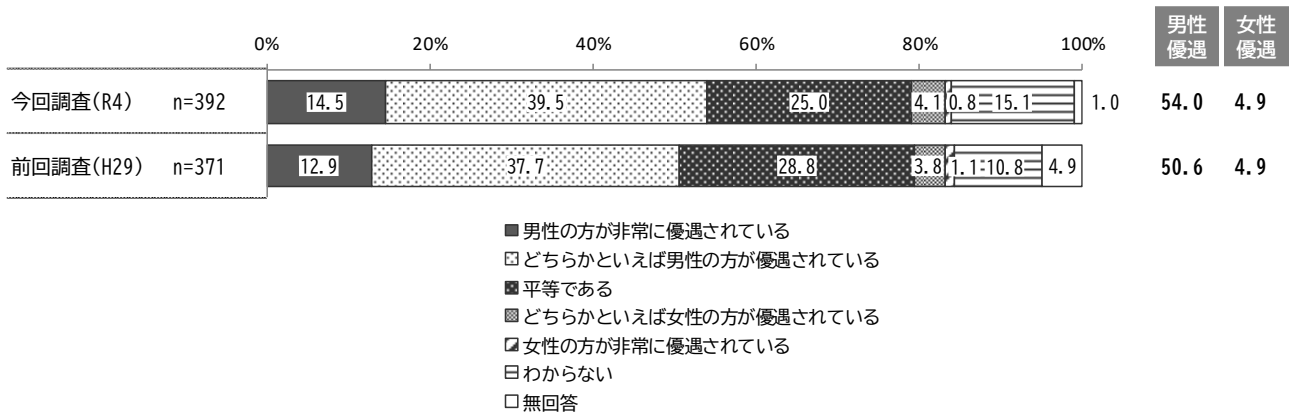
- 地域社会の場については、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が 39.5%と最も高く、これに「男性の方が非常に優遇されている」(14.5%)を合わせた“男性の方が優遇されていると感じている人”の割合が 54.0%となっています。

【性・年代別】



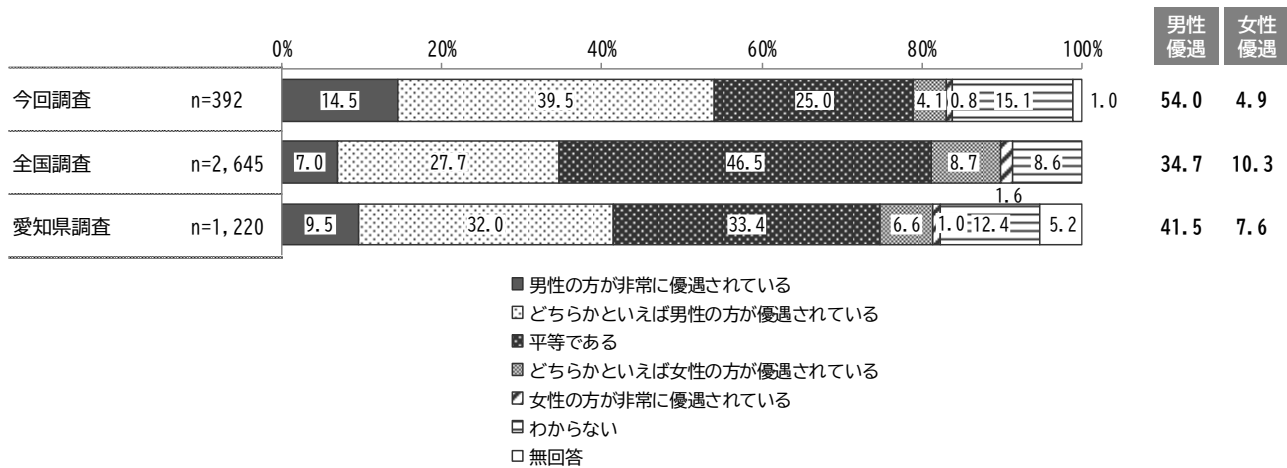
- 性別では、“男性の方が優遇されていると感じている人”の割合が男性で 44.4%、女性で 62.5%と、女性が 18.1 ポイント上回っています。「平等である」と回答した人は、男性が 34.5%で、女性が 17.1%と男性が 17.4 ポイント上回っています。
- 年代別では、60 代までは年代が上がるにつれて“男性の方が優遇されていると感じている人”の割合が増加傾向にあります。

【前回調査との比較】



- 前回調査と比較すると、“男性の方が優遇されていると感じている人”の割合が 3.4 ポイント増加しています。

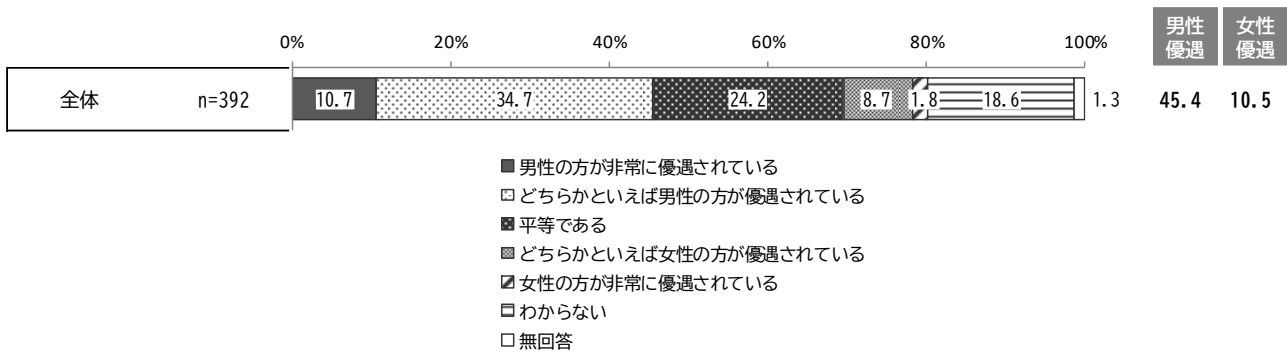
【国・愛知県との比較】



- “男性の方が優遇されていると感じている人”の割合が、全国に比べて 19.3 ポイント、県に比べて 12.5 ポイント高くなっています。
- 「平等である」と回答した人は、県に比べ 8.4 ポイント低く、全国と比べると 21.5 ポイント低くなっています。

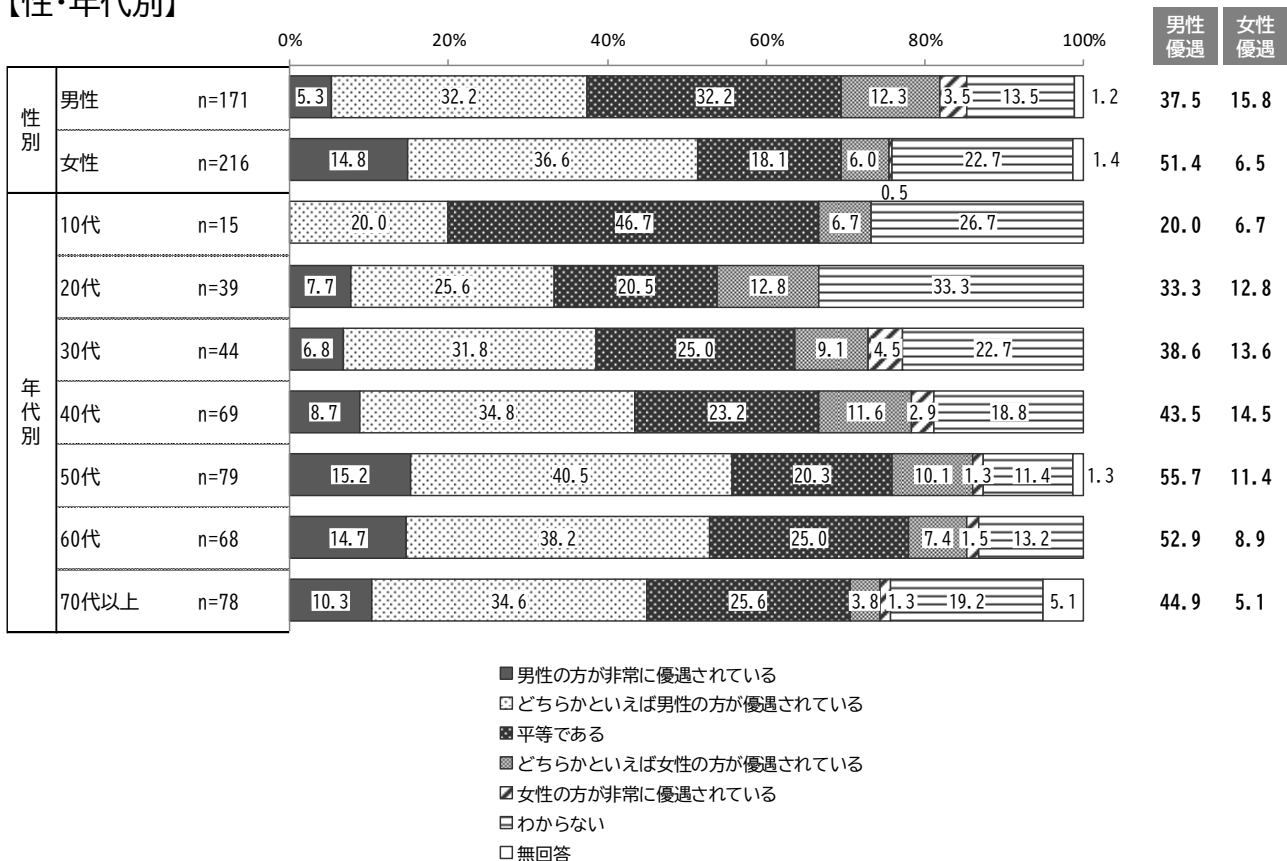
⑥法律や制度の面

【全体】



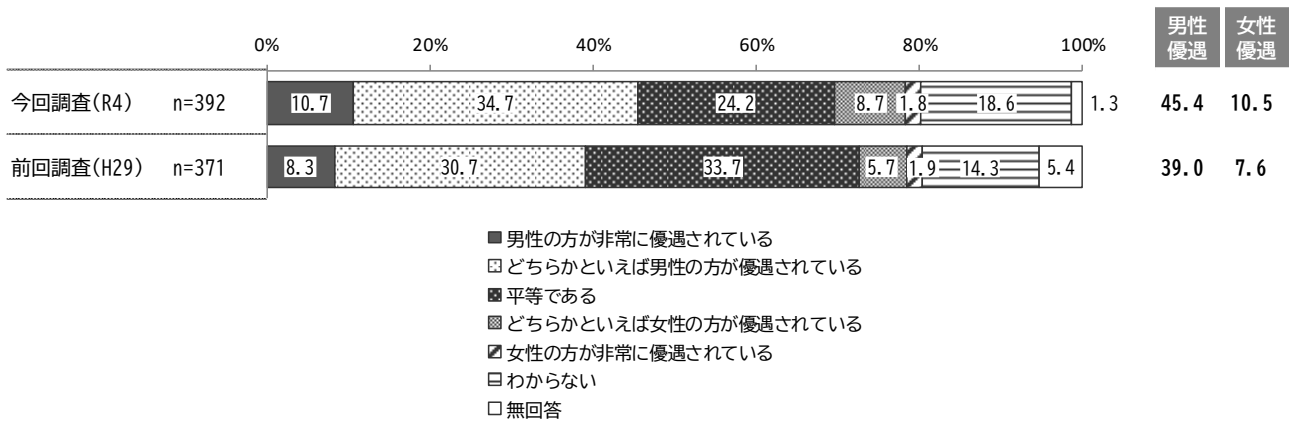
- 法律や制度の面については、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が 34.7%と最も高く、これに「男性の方が非常に優遇されている」(10.7%)を合わせた“男性の方が優遇されていると感じている人”の割合が 45.4%となっています。

【性・年代別】



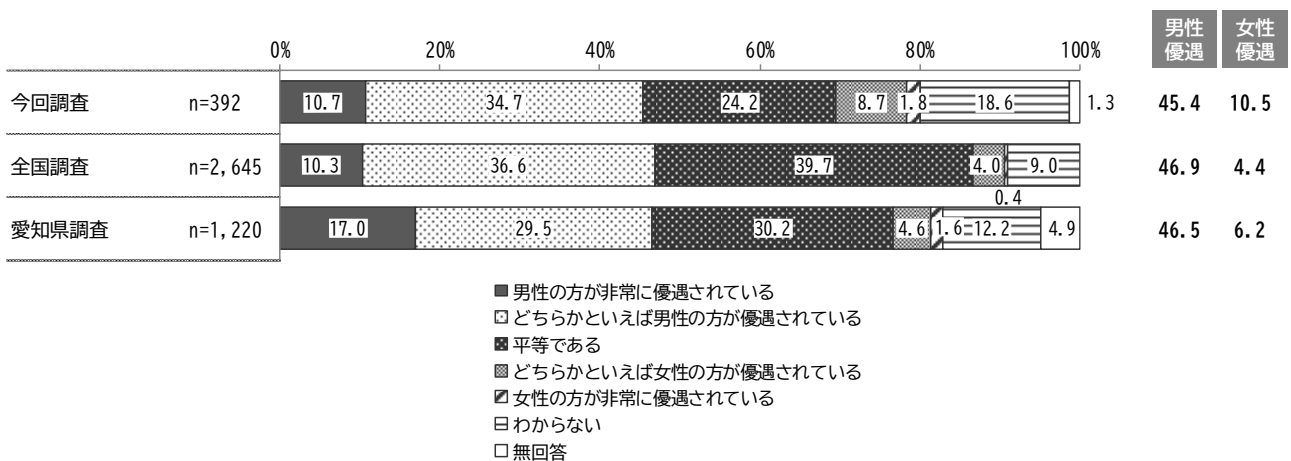
- 性別では、“男性の方が優遇されていると感じている人”の割合が男性で 37.5%、女性で 51.4%と、女性が 13.9 ポイント上回っています。「平等である」と回答した人は、男性が 32.2%で、女性が 18.1%と男性が 14.1 ポイント上回っています。
- 年代別では、50代までは年代が上がるにつれて“男性の方が優遇されていると感じている人”の割合が増加傾向にあります。

【前回調査との比較】



- 前回調査と比較すると、“男性の方が優遇されていると感じている人”の割合が 6.4 ポイント増加しています。

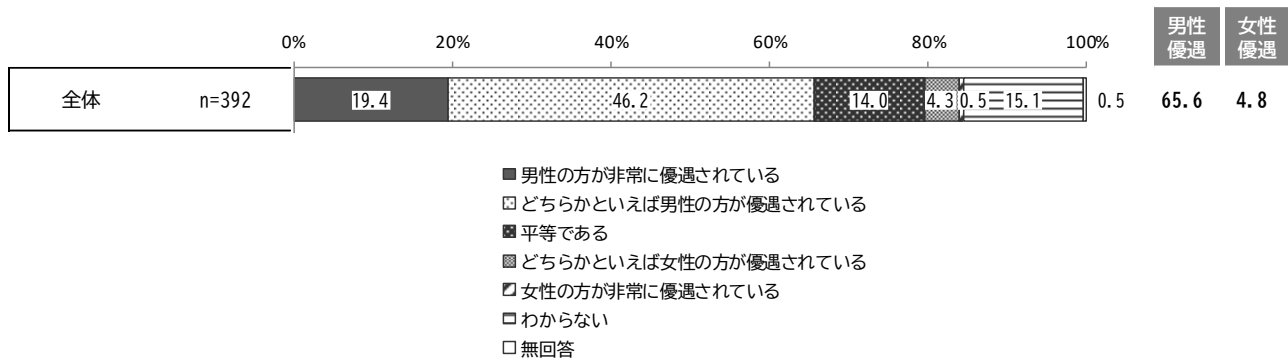
【国・愛知県との比較】



- “男性の方が優遇されていると感じている人”の割合が、全国に比べて 1.5 ポイント、県に比べて 1.1 ポイント低くなっています。
- 「平等である」と回答した人は、県に比べ 6.0 ポイント低く、全国と比べると 15.5 ポイント低くなっています。

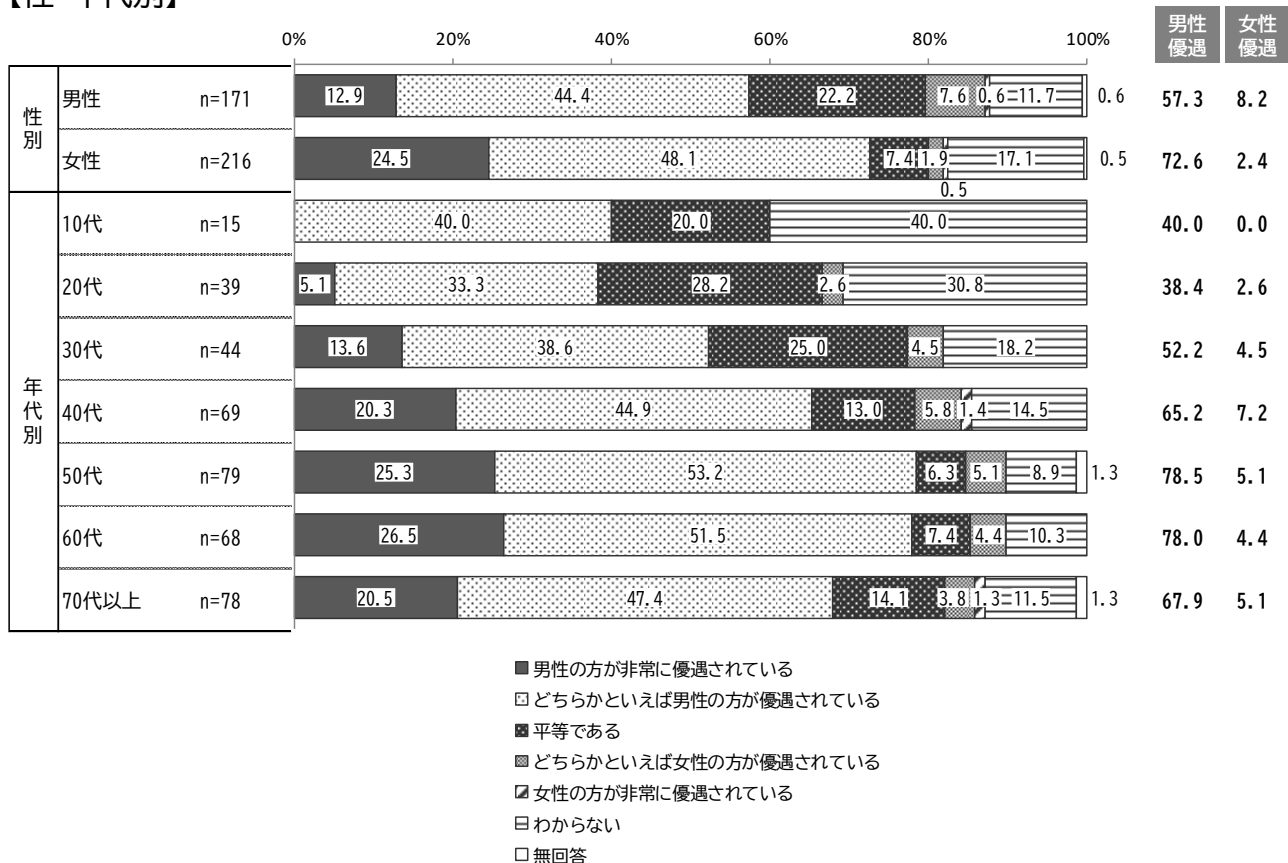
⑦社会慣習の面

【全体】



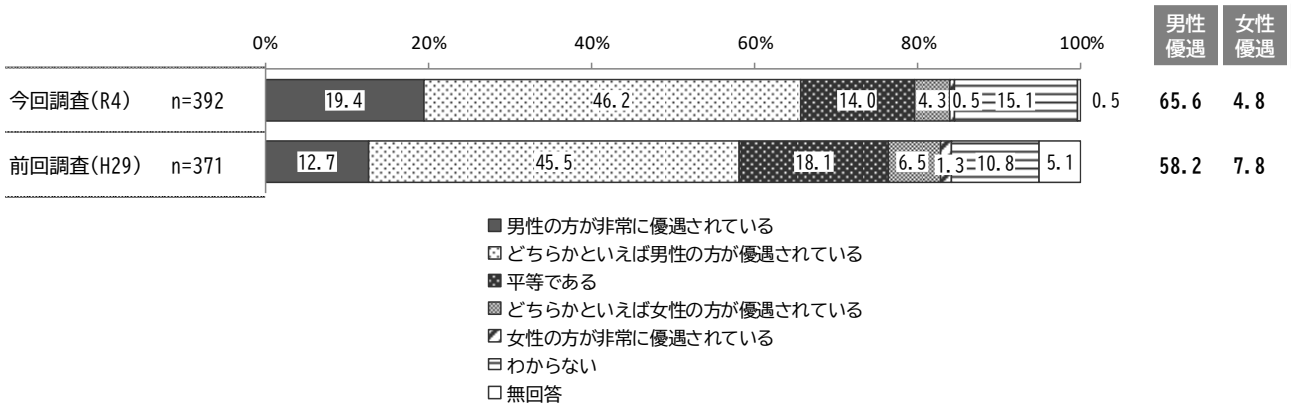
- 社会慣習の面については、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が 46.2%と最も高く、次いで「男性の方が非常に優遇されている」が 19.4%となっており、これらを合わせた“男性の方が優遇されていると感じている人”の割合が 65.6%となっています。

【性・年代別】



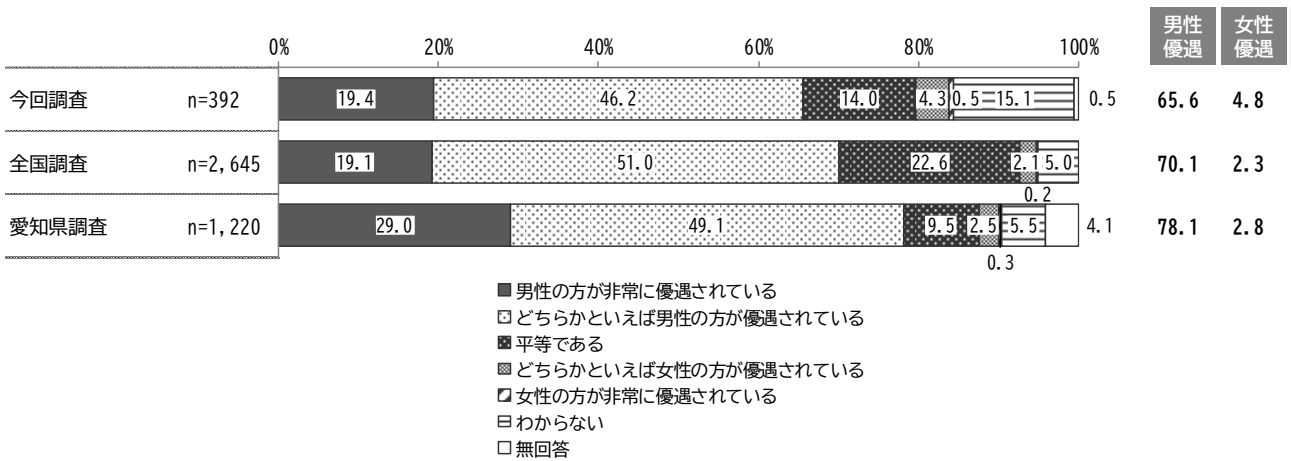
- 性別では、“男性の方が優遇されていると感じている人”の割合が男性で 57.3%、女性で 72.6%と、女性が 15.3 ポイント上回っています。「平等である」と回答した人は、男性が 22.2%で、女性が 7.4%と男性が 14.8 ポイント上回っています。
- 年代別では、50 代までは年代が上がるにつれて“男性の方が優遇されていると感じている人”の割合が増加傾向にあります。

【前回調査との比較】



- 前回調査と比較すると、“男性の方が優遇されていると感じている人”の割合が 7.4 ポイント増加しています。

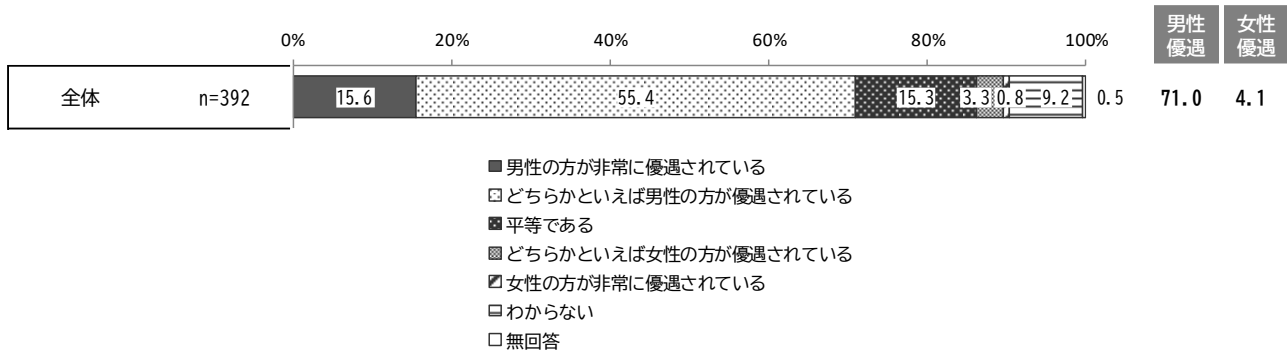
【国・愛知県との比較】



- “男性の方が優遇されていると感じている人”の割合が、全国に比べて 4.5 ポイント、県に比べて 12.5 ポイント低くなっています。
- 「平等である」と回答した人は、県に比べて 4.5 ポイント高くなっていますが、全国と比べると 8.6 ポイント低くなっています。

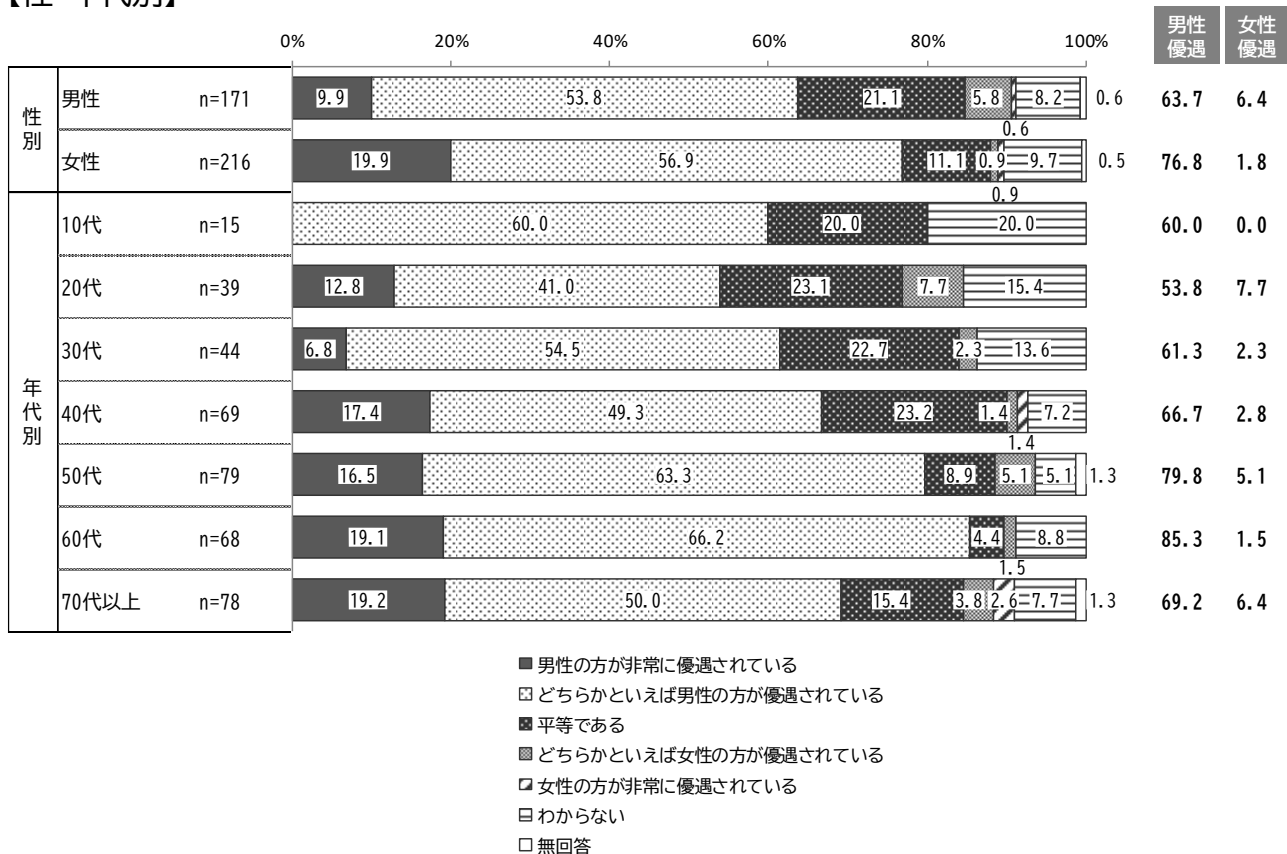
⑧社会全体として

【全体】



- 社会全体としては、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が 55.4%と最も高く、次いで「男性の方が非常に優遇されている」が 15.6%となっており、これらを合わせた“男性の方が優遇されていると感じている人”の割合が 71.0%となっています。

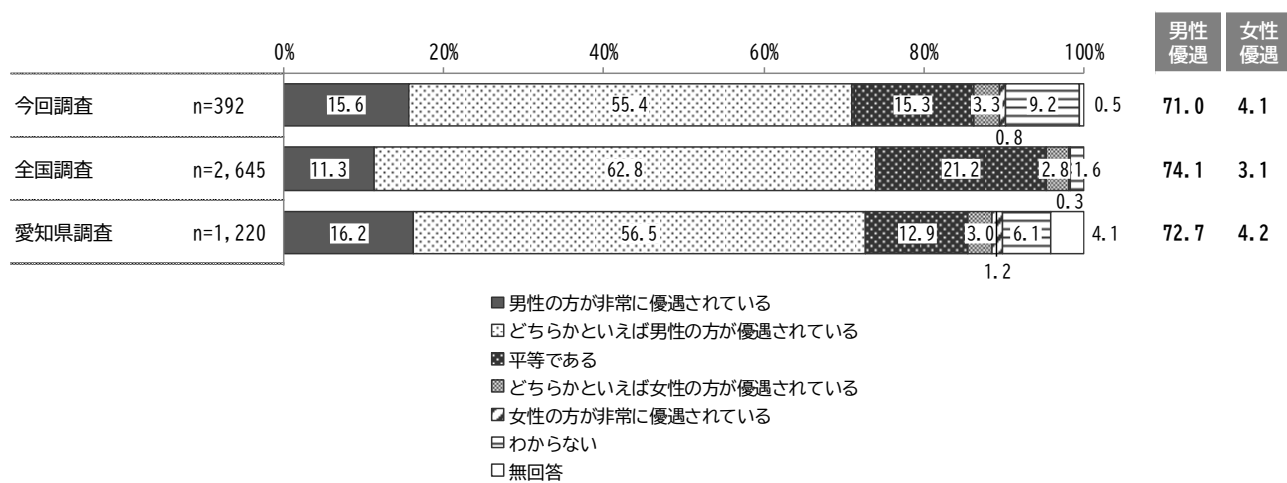
【性・年代別】



- 性別では、“男性の方が優遇されていると感じている人”の割合が男性で 63.7%、女性で 76.8%と、女性が 13.1 ポイント上回っています。
- 年代別では、60 代までは年代が上がるにつれて“男性の方が優遇されていると感じている人”の割合が増加傾向にあります。

※今年度から追加項目のため、前回調査との比較はなし

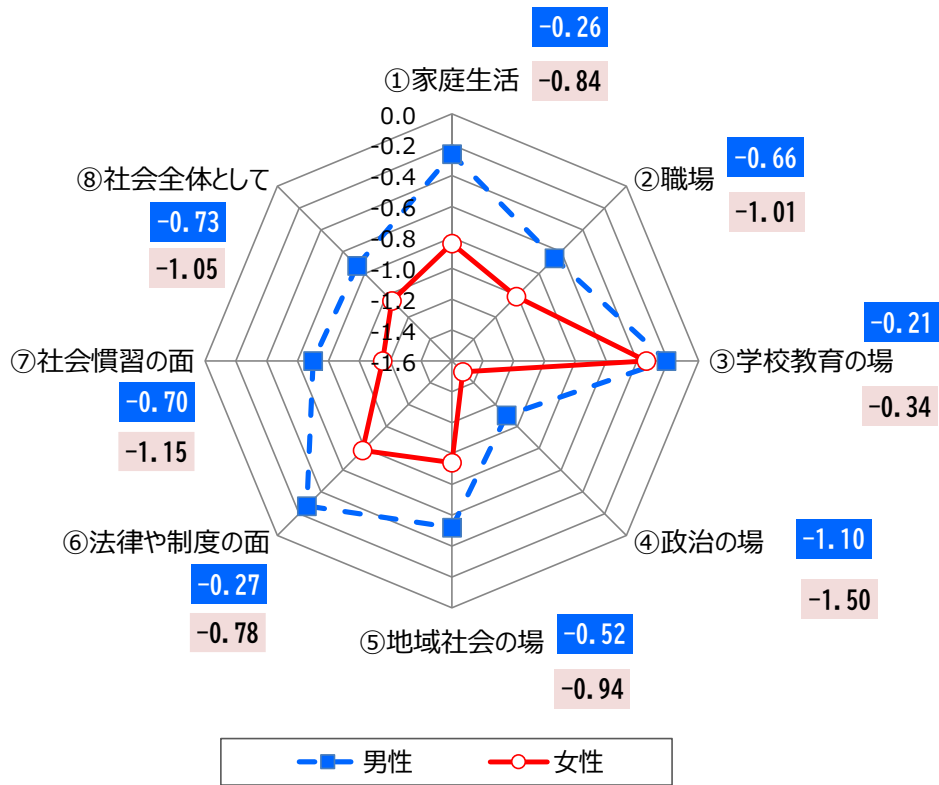
【国・愛知県との比較】



- “男性の方が優遇されていると感じている人”の割合が、全国に比べて3.1ポイント、県に比べて1.7ポイント低くなっています。
- 「平等である」と回答した人は、全国に比べて5.9ポイント低くなっています。

【男女の平等についての男女間の意識の比較】

- 下図は、各分野の平等感について、性別ごとにレーダーチャート図にしたものです。8分野すべてで男性より女性のポイントが下回っており、男性が感じているより、女性の感じている不平等感が大きいことがうかがえます。
- 分野別にみると、「学校教育の場」では性別による平等感の差が最も小さくなっているのに対し、「①家庭生活」「⑥法律や制度の面」では男女の平等感の差が大きくなっています。



(平均得点について)

「家庭生活」や「職場」など8分野の男女の平等感についての回答結果に対して「男性の方が非常に優遇されている」を-2、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を-1、「平等である」を±0、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を+1、「女性の方が非常に優遇されている」を+2、「わからない」「無回答」は除いて男女別に平均得点を算出しました。

平均得点の考え方としては、±0に近くなるほど、男女の平等感が高く、内側に行くほど男性が優遇されているということがいえます。

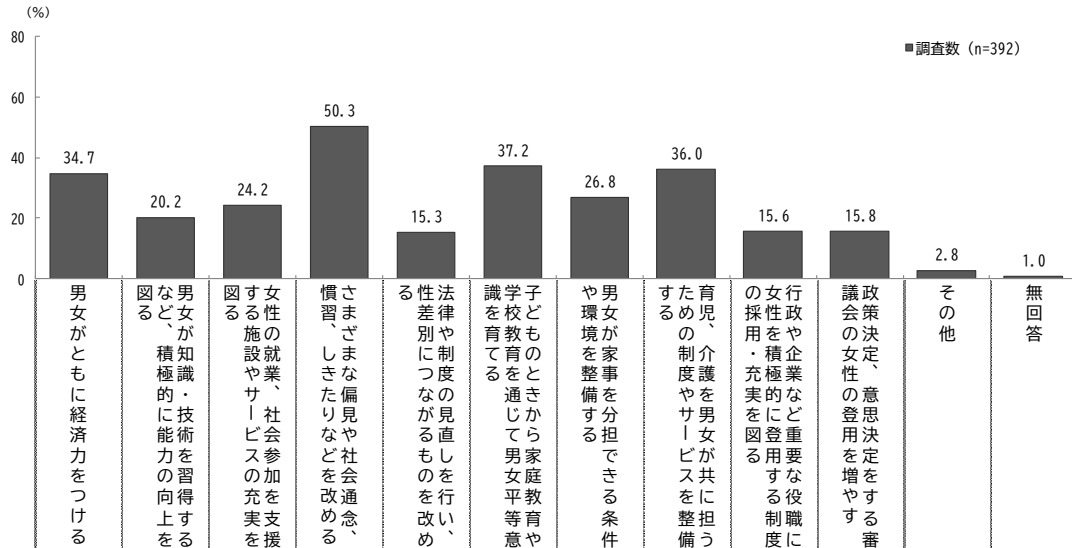
問8 男女の平等についての平均得点算出結果

分野	全体	男性	女性	男女差
① 家庭生活	-0.59	-0.26	-0.84	-0.58
② 職場	-0.85	-0.66	-1.01	-0.35
③ 学校教育の場	-0.28	-0.21	-0.34	-0.13
④ 政治の場	-1.32	-1.10	-1.50	-0.40
⑤ 地域社会の場	-0.75	-0.52	-0.94	-0.42
⑥ 法律や制度の面	-0.55	-0.27	-0.78	-0.51
⑦ 社会慣習の面	-0.94	-0.70	-1.15	-0.45
⑧ 社会全体として	-0.90	-0.73	-1.05	-0.32

【問9】 あなたは、男女が社会のあらゆる分野で平等になるためには、何が重要だと思いますか。重要だと思うもの3つまで選んで○を付けてください。

【全体】

図 11 男女が社会のあらゆる分野で平等になるために重要なこと



- 男女が社会のあらゆる分野で平等になるために重要なことについては、「さまざまな偏見や社会通念、慣習、しきたりなどを改める」が 50.3%と最も高く、次いで「子どものときから家庭教育や学校教育を通じて男女平等意識を育てる」が 37.2%、「育児、介護を男女が共に担うための制度やサービスを整備する」が 36.0%、「男女がともに経済力をつける」が 34.7%の順となっています。

【性・年代別】

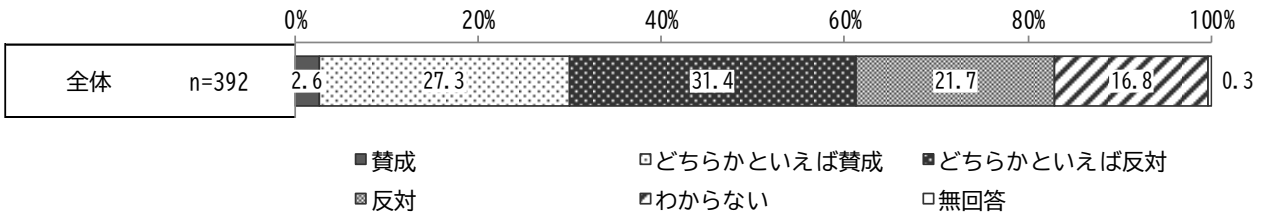
	調査数	問9 男女が社会のあらゆる分野で平等になるために必要なこと												
		男女がともに経済力をつける	男女が知識・技術の向上を図る	女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図る	さまざまな偏見や社会通念、慣習、しきたりなどを改める	法律や制度の見直しを行い、性差別につながるものを改める	子どものときから家庭教育や学校教育を通じて男女平等意識を育てる	男女が家事を分担できる条件や環境を整備する	育児、介護を男女が共に担うための制度やサービスを整備する	行政や企業など重要な役割に女性の採用・充実を図る	政策決定、意思決定を増やす	その他	無回答	
調査数	392	34.7	20.2	24.2	50.3	15.3	37.2	26.8	36.0	15.6	15.8	2.8	1.0	
性別	男性	171	31.0	23.4	20.5	52.0	18.1	34.5	26.3	27.5	15.2	17.0	4.7	0.6
	女性	216	37.0	18.1	27.8	48.6	12.0	39.4	26.9	42.6	16.2	15.3	1.4	1.4
年齢	10代	15	33.3	13.3	26.7	53.3	53.3	33.3	40.0	13.3	6.7	-	-	
	20代	39	51.3	7.7	15.4	51.3	17.9	41.0	25.6	35.9	10.3	10.3	-	-
	30代	44	36.4	18.2	31.8	54.5	4.5	25.0	45.5	31.8	15.9	4.5	4.5	
	40代	69	37.7	24.6	24.6	47.8	14.5	37.7	31.9	43.5	4.3	11.6	2.9	-
	50代	79	26.6	17.7	21.5	55.7	22.8	36.7	22.8	38.0	16.5	20.3	2.5	1.3
	60代	68	30.9	13.2	25.0	52.9	11.8	41.2	26.5	41.2	17.6	20.6	4.4	-
	70代以上	78	34.6	33.3	25.6	41.0	19.2	35.9	15.4	24.4	25.6	21.8	2.6	3.8

- 性別で見ると、「育児、介護を男女が共に担うための制度やサービスを整備する」は、男性で 27.5%、女性で 42.6%と、女性が 15.1 ポイント上回っています。
- 年代別で見ると、「男女が家事を分担できる条件や環境を整備する」は他の年代と比べて 30 代が高くなっています。

【問 10】「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたはどうお考えですか。あてはまる番号を1つ選んで○を付けてください。

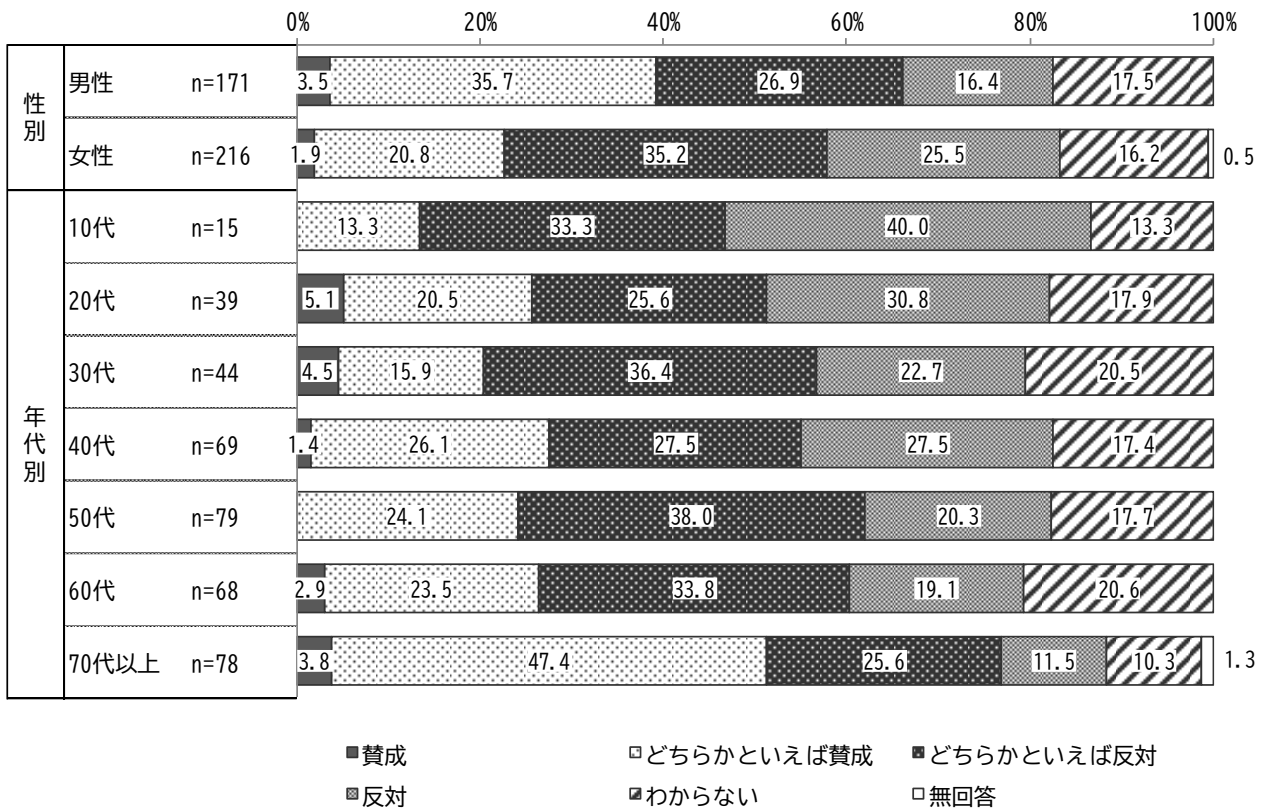
【全体】

図 12 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について



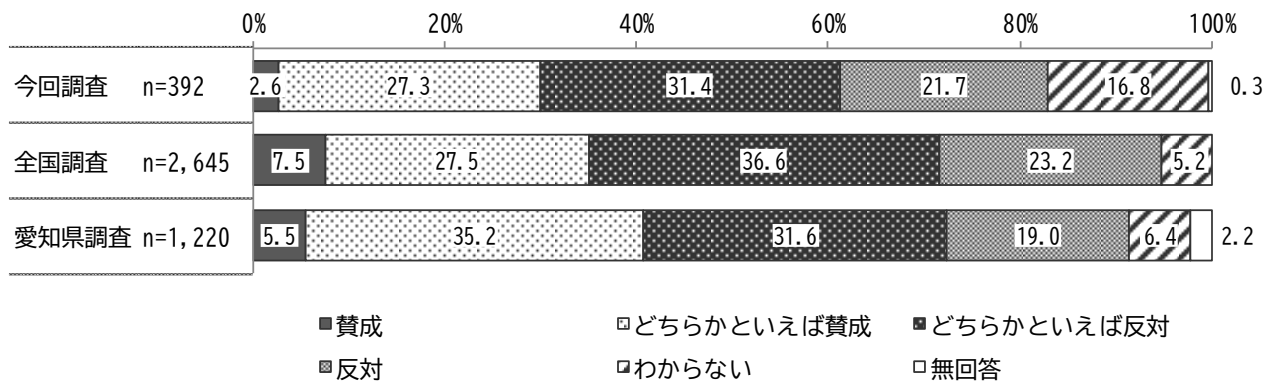
- 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方については、「どちらかといえば反対」が31.4%と最も高く、これに「反対」(21.7%)を合わせた“反対派”は53.1%となっています。一方で、“賛成派”(「賛成」+「どちらかといえば賛成」)は29.9%となっています。

【性・年代別】



- 性別でみると“賛成派”の割合は男性で39.2%、女性で22.7%と、男性が16.5ポイント上回っています。
- 年代別でみると、70代以上で“賛成派”の割合が他の年代に比べ高くなっています。

【国・愛知県との比較】

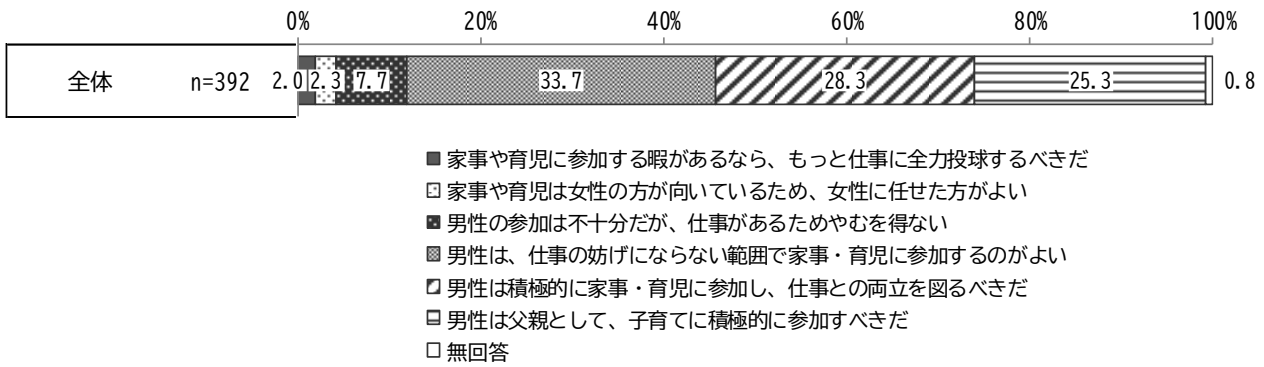


- “賛成派”の割合が、全国に比べて5.1ポイント、県に比べて10.8ポイント低くなっています。
- “反対派”の割合は、全国に比べて6.7ポイント低く、県に比べて2.5ポイント高くなっています。

【問 11】 あなたは、男性の家事・育児への参加をどのように思いますか。
 あてはまる番号を1つ選んで○を付けてください。

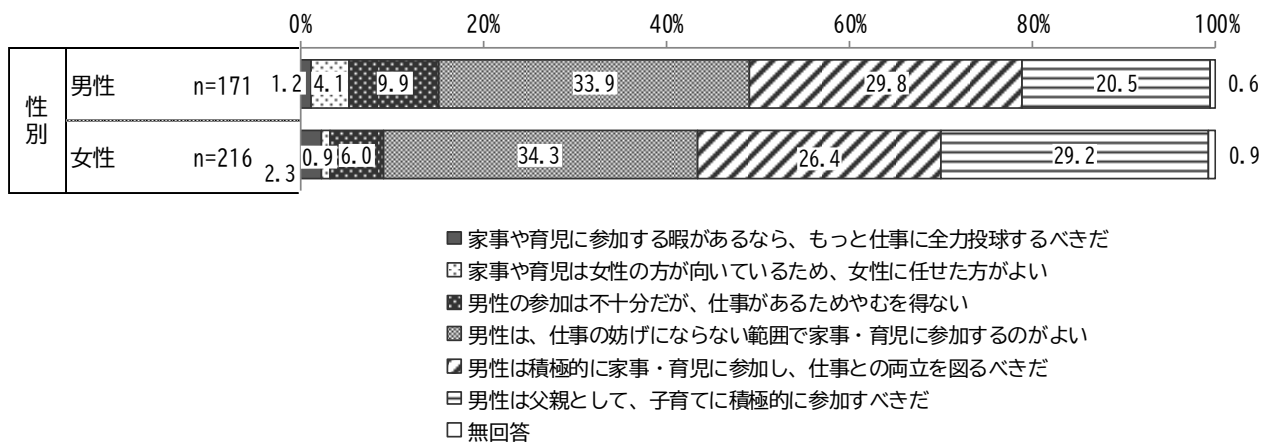
【全体】

図 13 男性の家事・育児への参加について



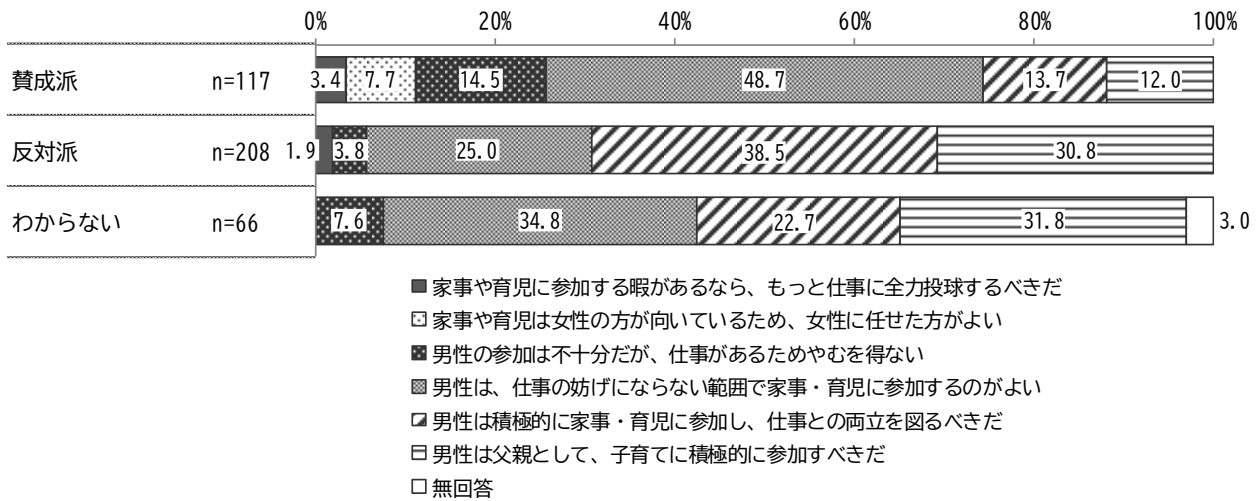
■ 男性の家事・育児への参加については、「男性は仕事の妨げにならない範囲で家事・育児に参加するのがよい」が 33.7%と最も高く、次いで「男性は積極的に家事・育児に参加し、仕事との両立を図るべきだ」が 28.3%、「男性は父親として、子育てに積極的に参加すべきだ」が 25.3%の順となっています。

【性別】



■ 性別でみると、「男性は父親として、子育てに積極的に参加すべきだ」では 8.7 ポイント、女性が男性を上回っています。

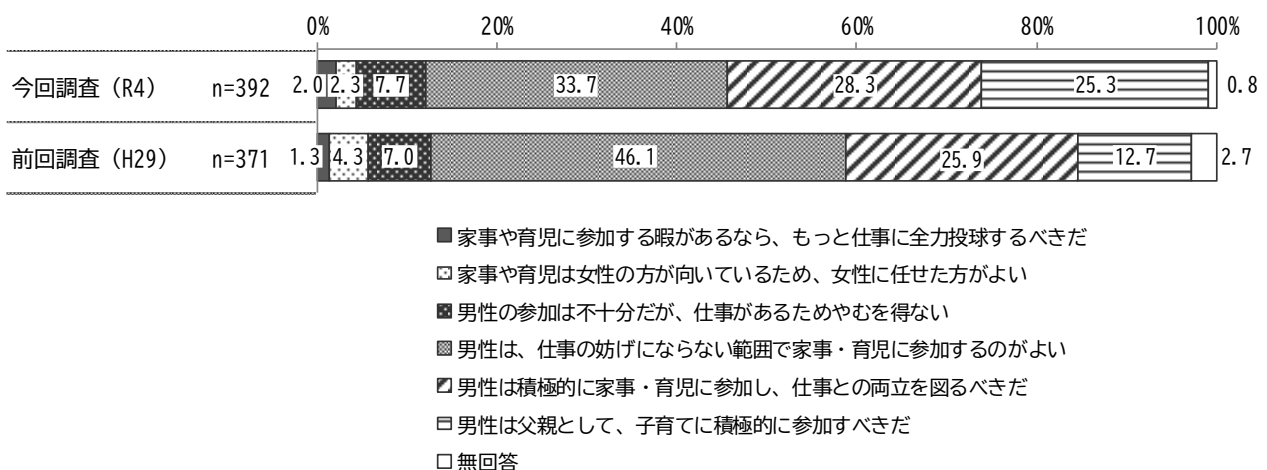
【家庭観別(問 10)】



※”賛成派(問 10 で「賛成」+「どちらかといえば賛成）」、「反対派(問 10 で「反対」+「どちらかといえば反対」)

- 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方別にみると、賛成派では「男性は仕事の妨げにならない範囲で家事・育児に参加するのがよい」が 48.7%と最も高く、仕事の妨げにならない範囲での家事・育児への参加が良いと考える意識が高くなっている傾向にあります。
- 反対派では「男性は積極的に家事・育児に参加し、仕事との両立を図るべきだ」が 38.5%と最も高く、次いで「男性は父親として、子育てに積極的に参加すべきだ」が 30.8%となっており、賛成派に比べ、反対派の方が男性は積極的に家事・育児へ参加をすべきだと考える傾向にあります。

【前回調査との比較】

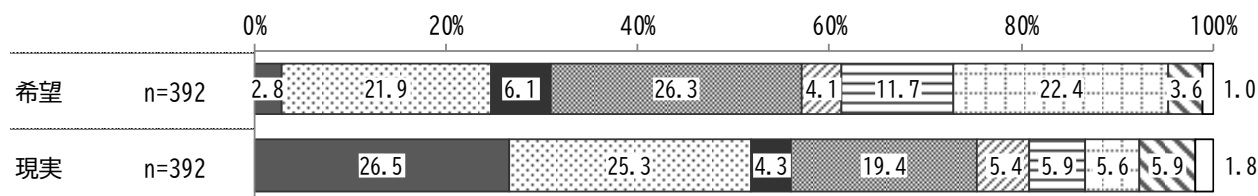


- 前回調査と比較すると、「男性は、仕事の妨げにならない範囲で家事・育児に参加するのがよい」は 12.4 ポイント減少したのに対し、「男性は父親として、子育てに積極的に参加すべきだ」は 12.6 ポイント増加しています。

【問 12】あなたは、暮らしの中での「仕事」、「家庭」、「地域・個人(付き合い、学習・趣味など)」の生活で何を優先しますか。(A、Bについてそれぞれ○を1つ付けてください)

【全体】

図 14 暮らしの中での優先度 (希望と現実)

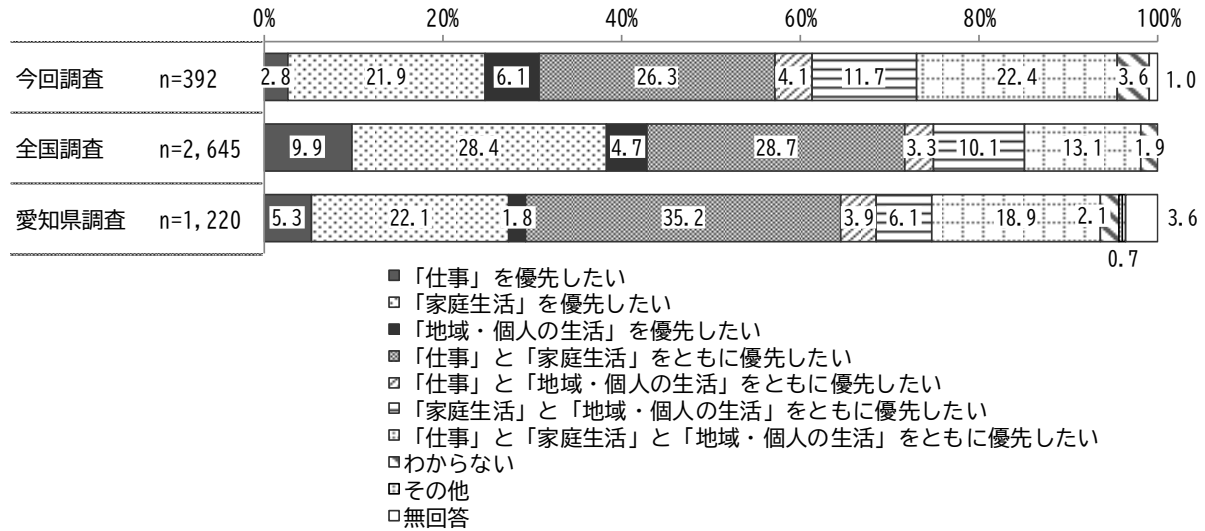


- 「仕事」を優先したい (している)
- 「家庭生活」を優先したい (している)
- 「地域・個人の生活」を優先したい (している)
- ▣ 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい (している)
- 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい (している)
- 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい (している)
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい (している)
- わからない
- 無回答

- 暮らしの中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度については、【希望】は、「仕事」と「家庭生活」をともに優先したいが 26.3%と最も高く、次いで「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したいが 22.4%、「家庭生活」を優先したいが 21.9%となっています。
- 【現実】は、「仕事」を優先しているが 26.5%と最も高く、次いで、「家庭生活」を優先しているが 25.3%、「仕事」と「家庭生活」をともに優先しているが 19.4%となっています。
- 「仕事」、「家庭」、「地域・個人の生活」の優先度の現実と希望については、「仕事」を優先したいが 2.8%となっているのに対し、現実では「仕事」を優先しているが 26.5%となっており、現実には希望と違って仕事を優先している状況がうかがえます。
- 希望の第2位にあげられている「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい人は 22.4%となっているのに対し、現実にできている人は 5.6%となっており、ここでも希望と現実の間に大きなギャップがみられます。

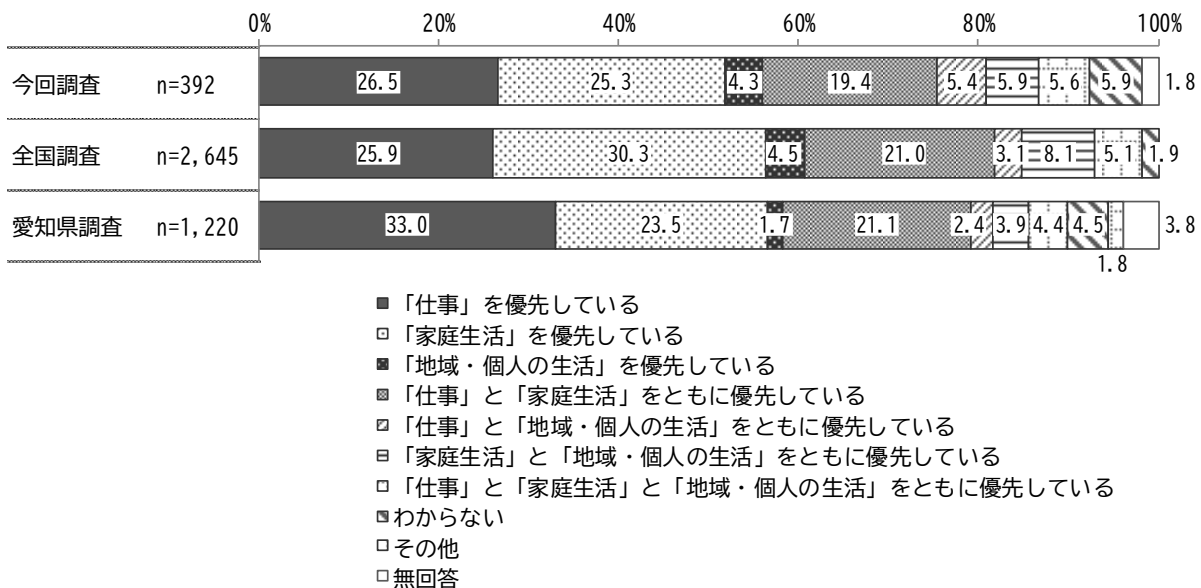
【国・愛知県との比較】

【希望】



- 「「仕事」を優先したい」「家庭生活」を優先したい」と回答した人は、全国に比べてそれぞれ 7.1 ポイント、6.5 ポイント低くなっているのに対し、「「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」とともに優先したい」と回答した人は 9.3 ポイント上回っています。
- 「「仕事」と「家庭生活」とともに優先したい」と回答した人は、県に比べて 8.9 ポイント低くなっているのに対し、「「家庭生活」と「地域・個人の生活」とともに優先したい」と回答した人は 5.6 ポイント上回っています。

【現実】



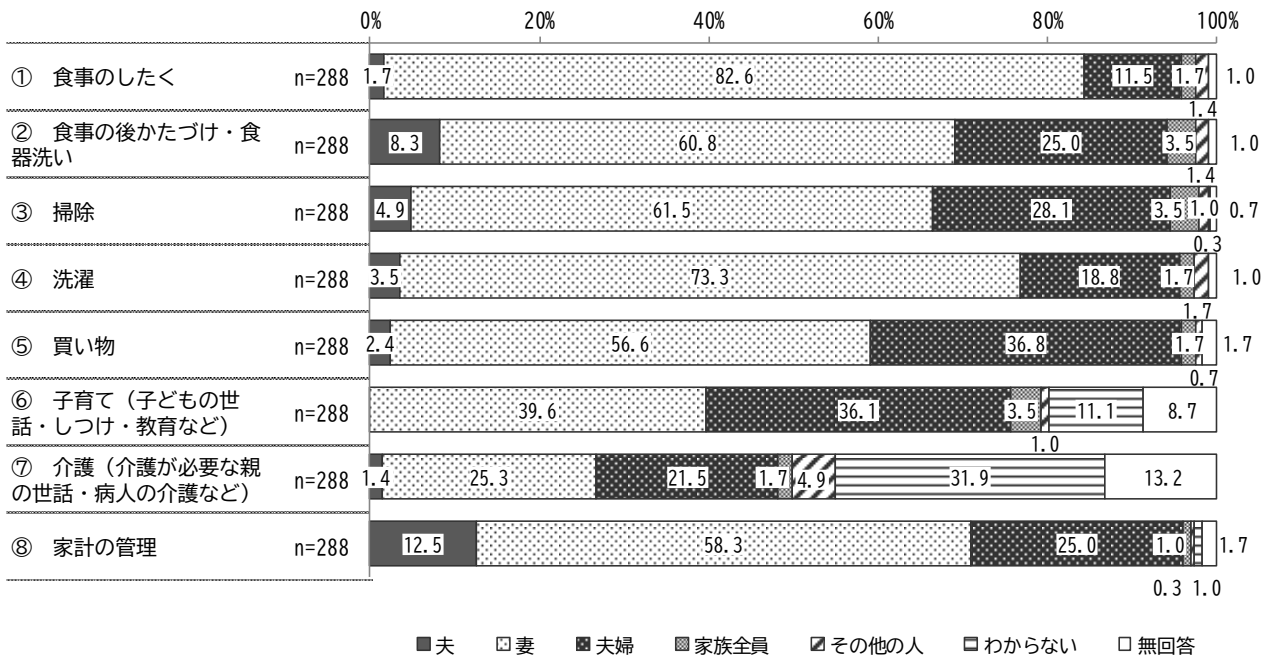
- 「「家庭生活」を優先している」と回答した人は、全国に比べて 5.0 ポイント低く、「「仕事」を優先している」と回答した人は県に比べて 6.5 ポイント低くなっています。

【現在、結婚している方(事実婚を含む)におたずねします。】

【問 13】 あなたの家庭では、次にあげる家事は主に誰が分担していますか。

①～⑧についてそれぞれ○を1つ付けてください。

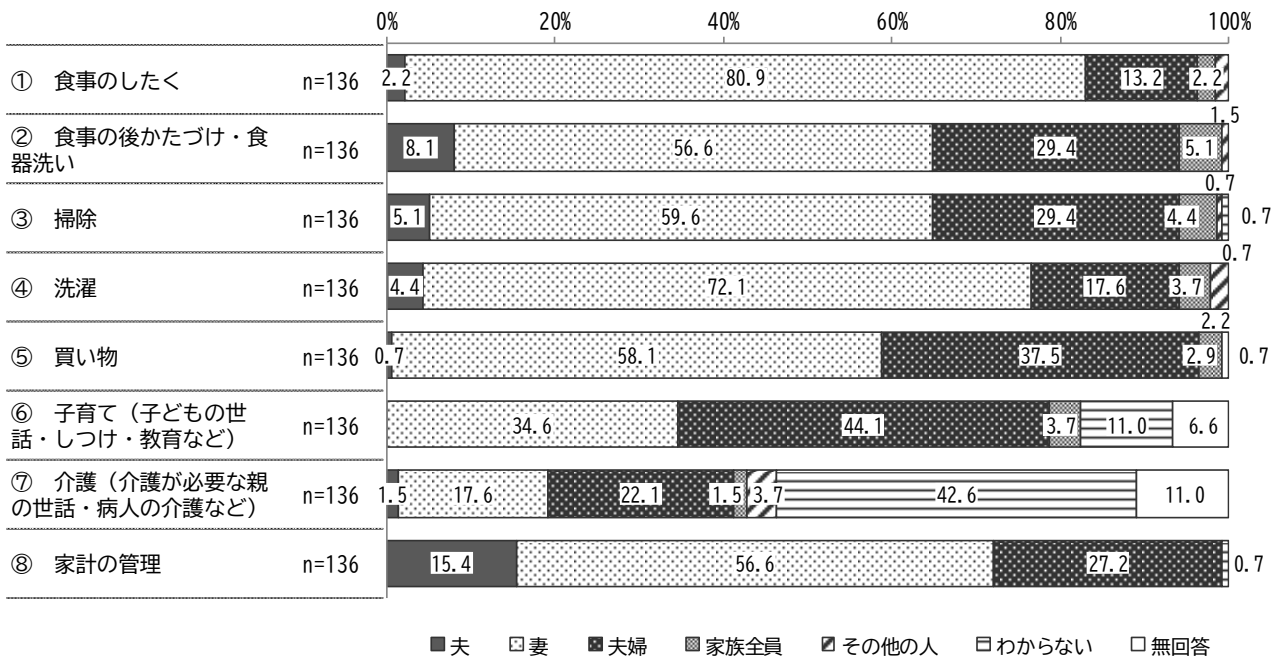
図 15 家庭における家事の分担について



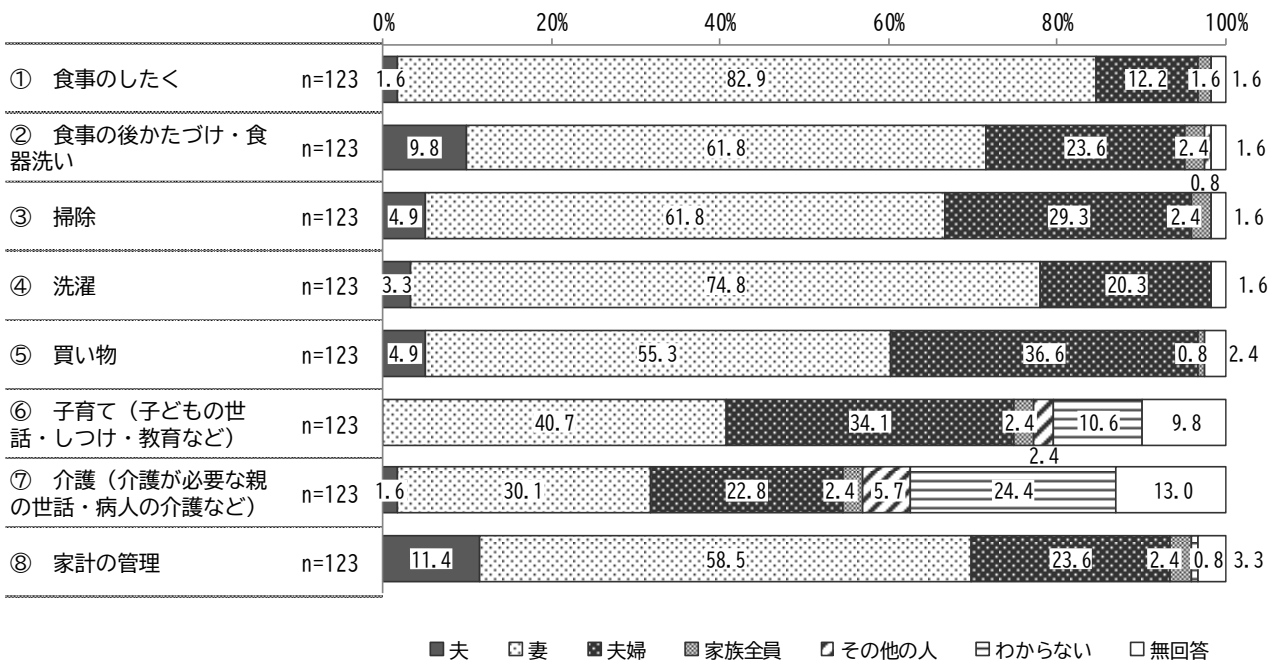
- 家庭の仕事の役割については、すべての項目で「妻」の占める割合が高くなっており、中でも「①食事のしたく」(82.6%)、「④洗濯」(73.3%)、「③掃除」(61.5%)、「②食事の後かたづけ・食器洗い」(60.8%)などでは、6割を超えています。
- ただし、「⑤買い物」(36.8%)、「子育て(子どもの世話・しつけ・教育など)」(36.1%)は、比較的「夫婦」の割合が高くなっています。
- 「⑦介護(介護が必要な親の世話・病人の介護など)」は、「わからない」と回答している人が 31.9%と他の項目に比べて高くなっています。

■ 【共働きの有無別】

<共働き>

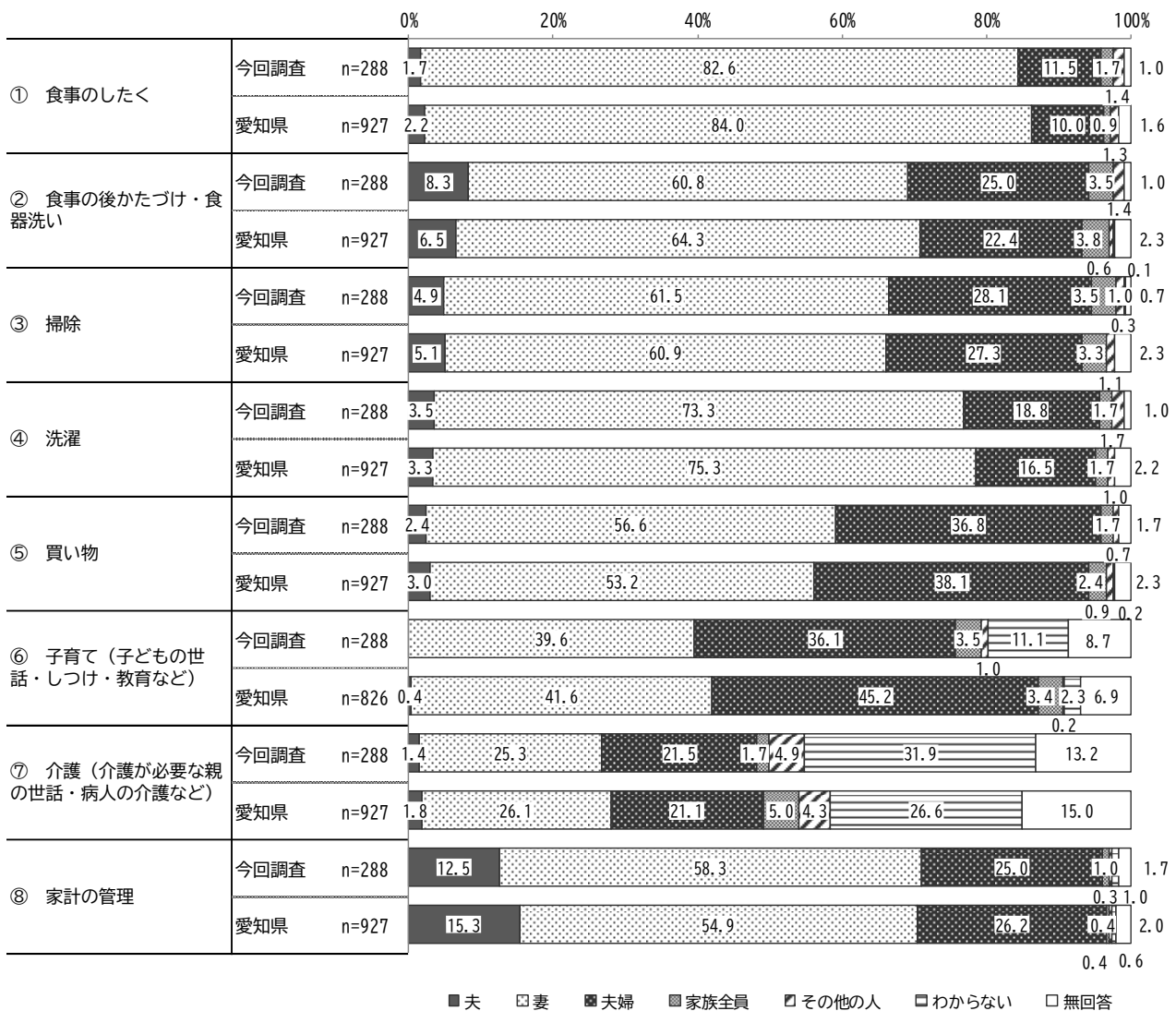


<共働き以外>



- 共働きの有無別でみると、共働き、共働き以外ともに大きな変化はみられず、働き方に関係なく、家事等の負担が女性に偏っていることがうかがえます。
- 「⑦介護(介護が必要な親の世話・病人の介護など)」は、「わからない」と回答している人が、共働きは42.6%、共働き以外で24.4%と、共働きが18.2ポイント上回っています。

【愛知県との比較】



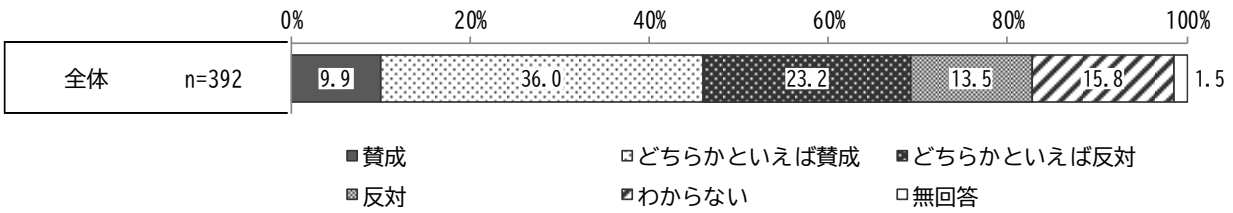
- 県の調査結果においても、多くの項目で「妻」の占める割合が高くなっています。
- 分担を「夫婦」と回答した人は、県では「⑥子育て(子どもの世話・しつけ・教育など)」が 45.2%で、市では「⑤買い物」が 36.8%と一番高くなっています。
- また、「⑥子育て(子どもの世話・しつけ・教育など)」を「夫婦」と回答した人は、県に比べて 9.1 ポイント低くなっています。
- 「⑦介護(介護が必要な親の世話・病人の介護など)」は、「わからない」と回答している人が県でも一番多くみられます。

【すべての方におたずねします。】

【問 14】「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく子育てする」という考え方をどう思いますか。あてはまる番号を1つ選んで○を付けてください。

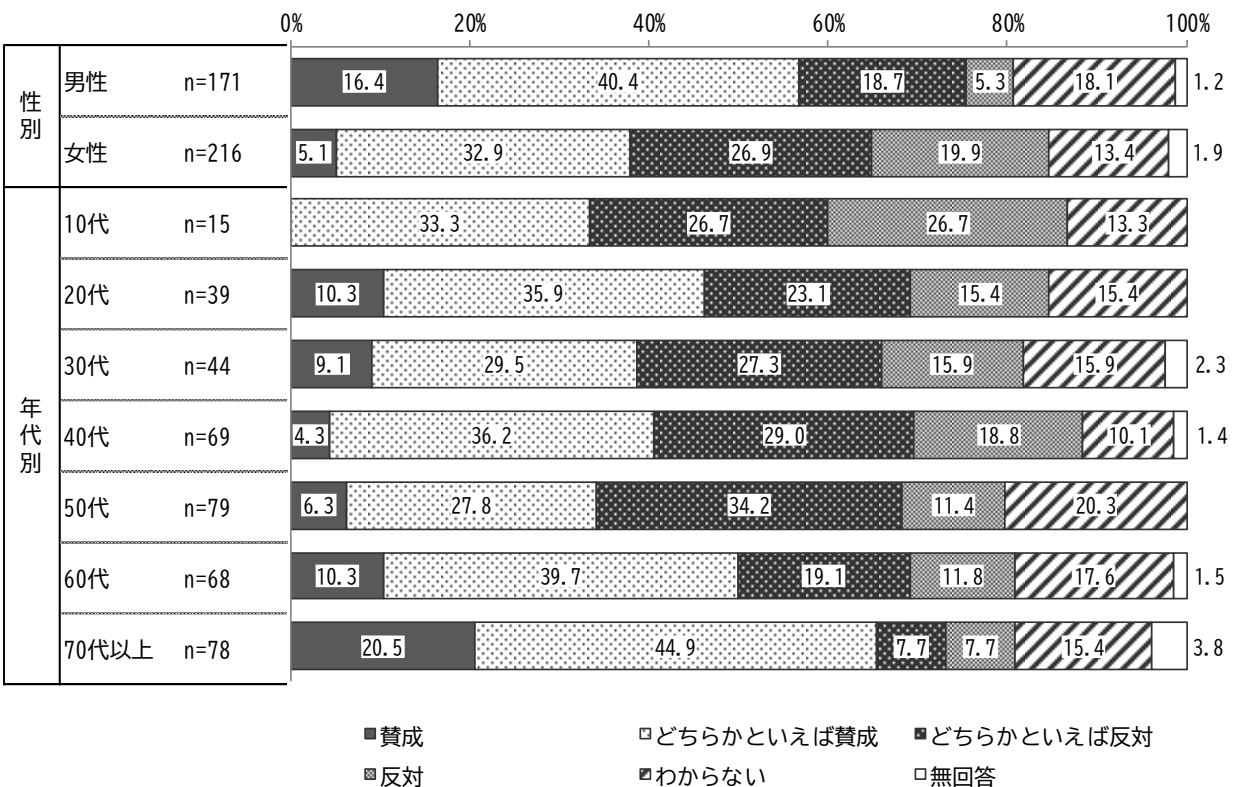
【全体】

図 16 「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく子育てする」という考え方について



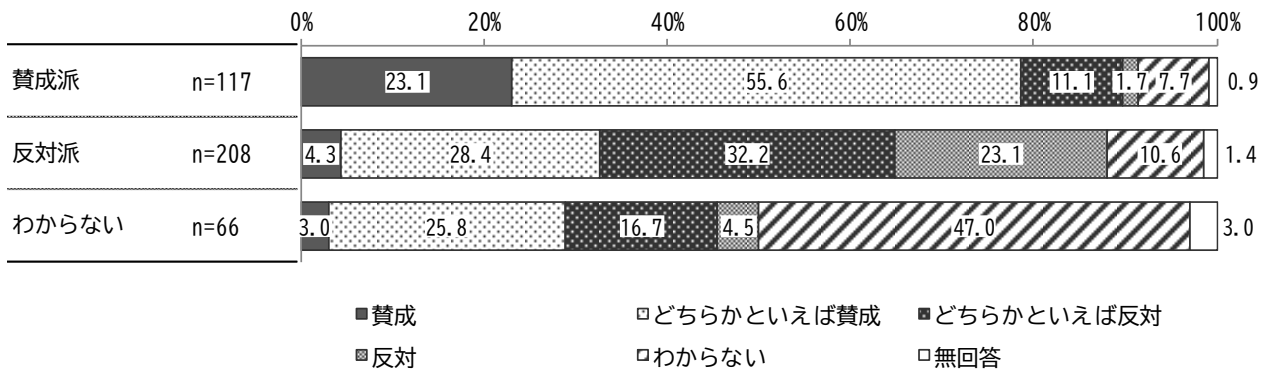
- 「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく子育てする」という考え方については、「どちらかといえば賛成」が 36.0%で最も高く、これに「賛成」(9.9%)を合わせた、“賛成”は 45.9%となっています。一方で、“反対”(「反対」+「どちらかといえば反対」)は 36.7%となっています。

【性・年代別】



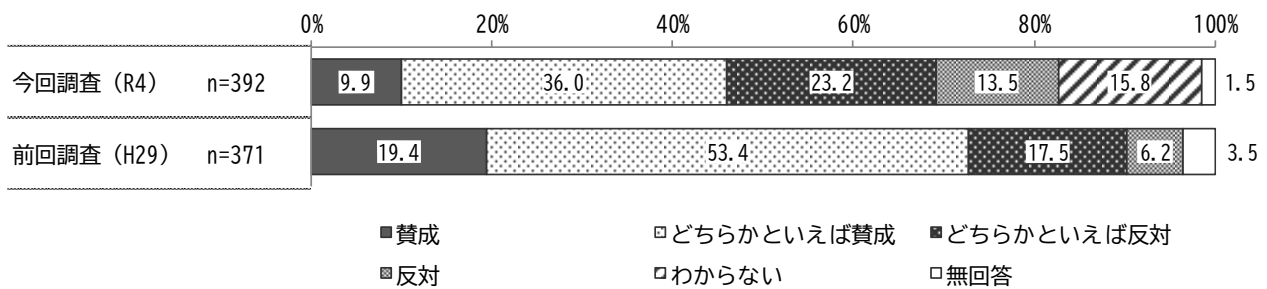
- 性別で見ると、“賛成”の割合は男性で 56.8%、女性で 38.0%と、男性が 18.8 ポイント上回っています。一方で、“反対”の割合は男性で 24.0%、女性で 46.8%と、女性が 22.8 ポイント上回っており、男女で意識の差がみられます。
- 年代別で見ると、“賛成”の割合は 60 代以上で増加傾向にあります。

【家庭観別(問 10)】



- 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方別にみると、賛成派では、「どちらかといえば賛成」が 55.6%で最も高く、これに「賛成」(23.1%)を合わせた、“賛成”は 78.7%となっています。一方で、反対派では 32.7%と、賛成派の半分以下となっています。

【前回調査との比較】



※今回調査から「わからない」という選択肢を追加していることから、分析結果はあくまで参考値とします。

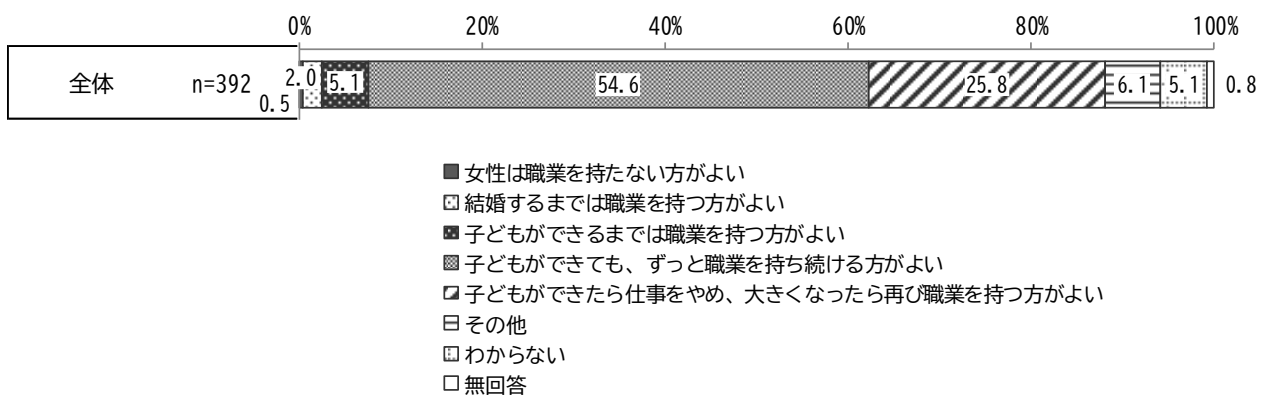
- 前回調査と比較すると、“賛成”の割合は 45.9%と前回に比べて 26.9 ポイント減少しています。一方で、“反対派”の割合は 13.0 ポイント増加しています。

C. 職業生活についておたずねします。

【問 15】 あなたは、女性が職を持つことについてどう思いますか。
あてはまる番号を1つ選んで○を付けてください。

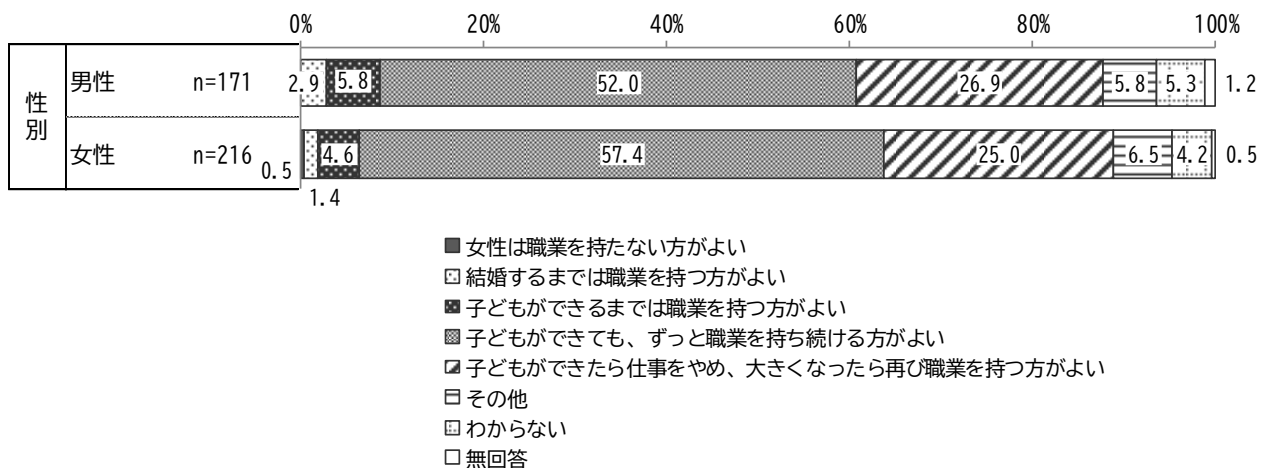
【全体】

図 17 女性が職業を持つことについて



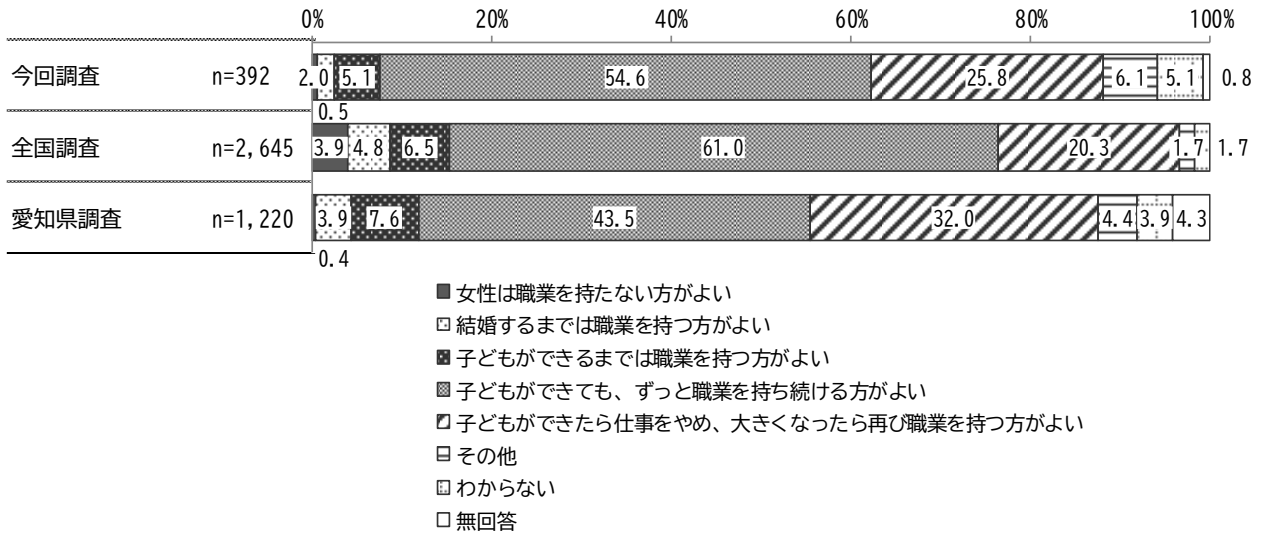
- 女性が職業を持つことについては、「子どもができて、ずっと職業を持ち続ける方がよい」が 54.6%と最も高く、次いで、「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」が 25.8%となっています。

【性別】



- 性別でみると、「子どもができて、ずっと職業を持ち続ける方がよい」が男女ともに最も高くなっています。

【国・愛知県との比較】



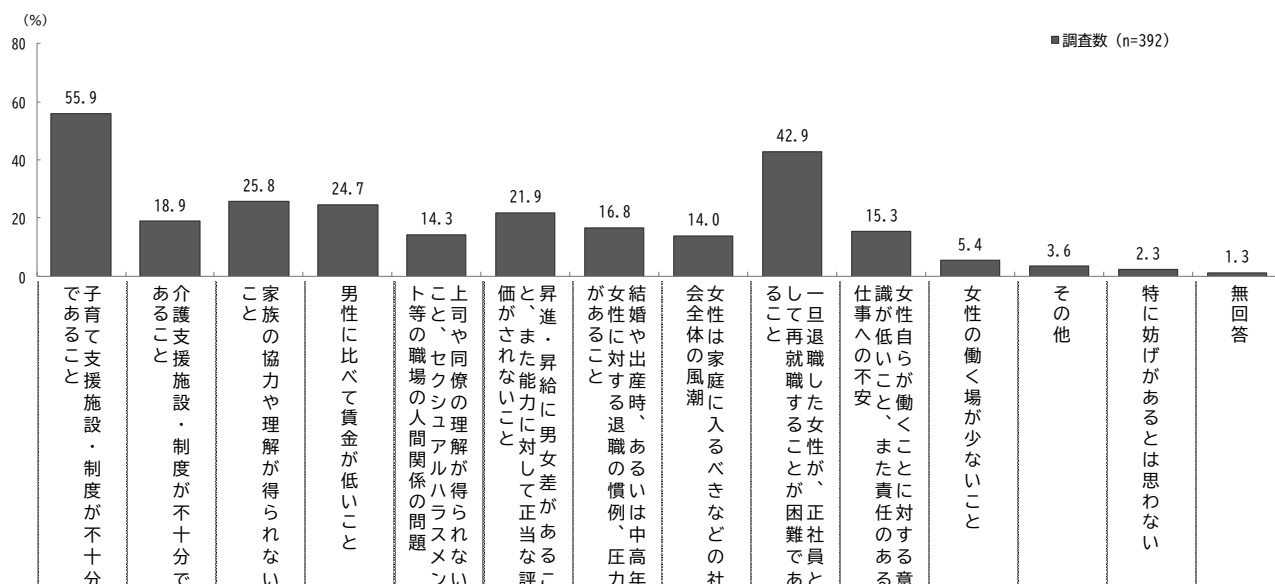
- 全国や県の調査と比較すると、「子どもができて、ずっと職業を持ち続ける方がよい」と回答した人は、全国を6.4ポイント下回っているのに対し、県を11.1ポイント上回っています。

【問 16】 あなたは、女性が職業に就いたり、仕事を続けるうえで妨げとなっているのは何だと思えますか。あてはまる番号を3つまで選んで○を付けてください。

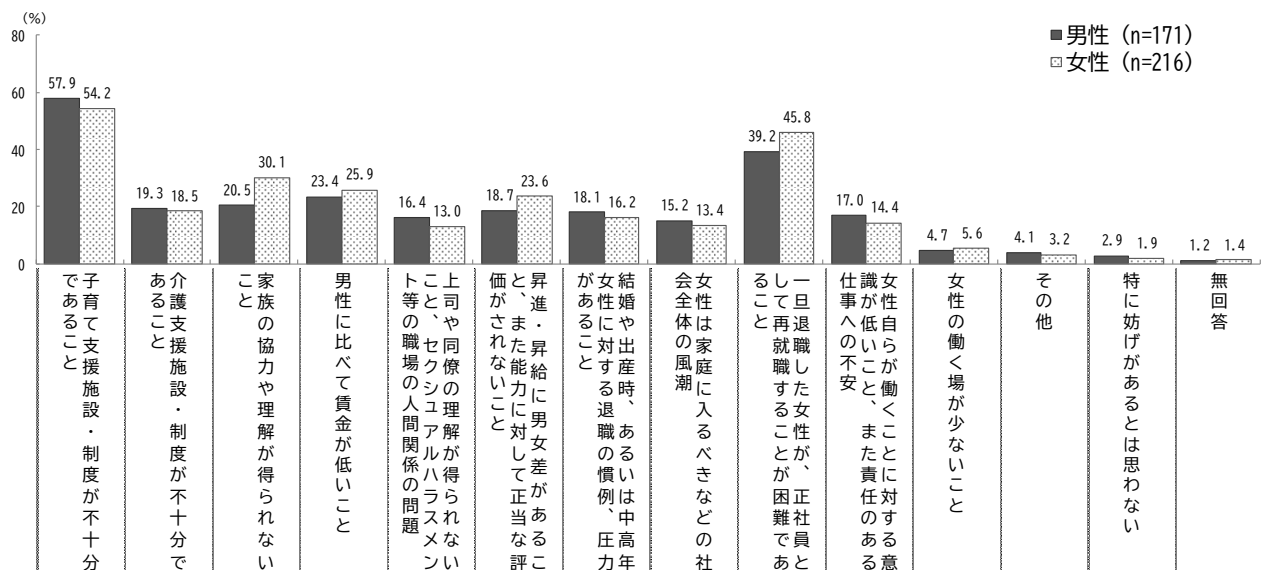
【全体】

図 18 女性が職業に就いたり、仕事を続けるうえで妨げとなっていること

- 女性が職業に就いたり、仕事を続ける上で妨げとなっていることは、「子育て支援施設・制度が不十分であること」が 55.9%と最も高く、次いで「一旦退職した女性が、正社員として再就職することが困難であること」が 42.9%、「家族の協力や理解が得られないこと」が 25.8%、「男性に比べて賃金が低いこと」が 24.7%、「昇進・昇給に男女差があること、また能力に対して正当な評価がされないこと」が 21.9%となっています。

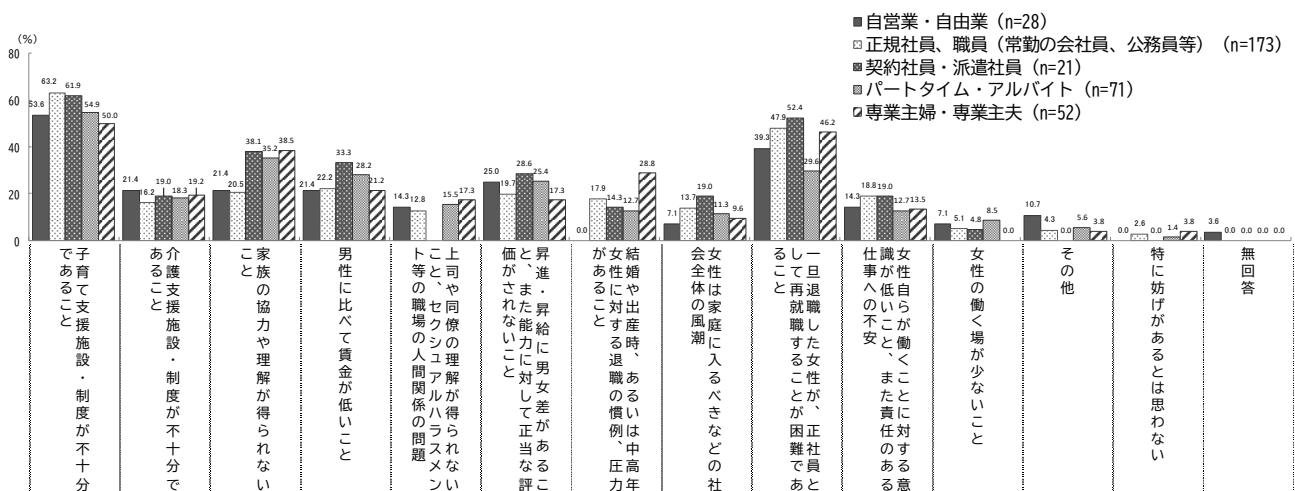


【性別】



- 性別でみると、男女とも「子育て支援施設・制度が不十分であること」「一旦退職した女性が、正社員として再就職することが困難であること」が上位2項目としてあげられています。また、「家族の協力や理解が得られないこと」は、男性で20.5%、女性で30.1%と、女性が9.6ポイント上回っています。

【職業別】



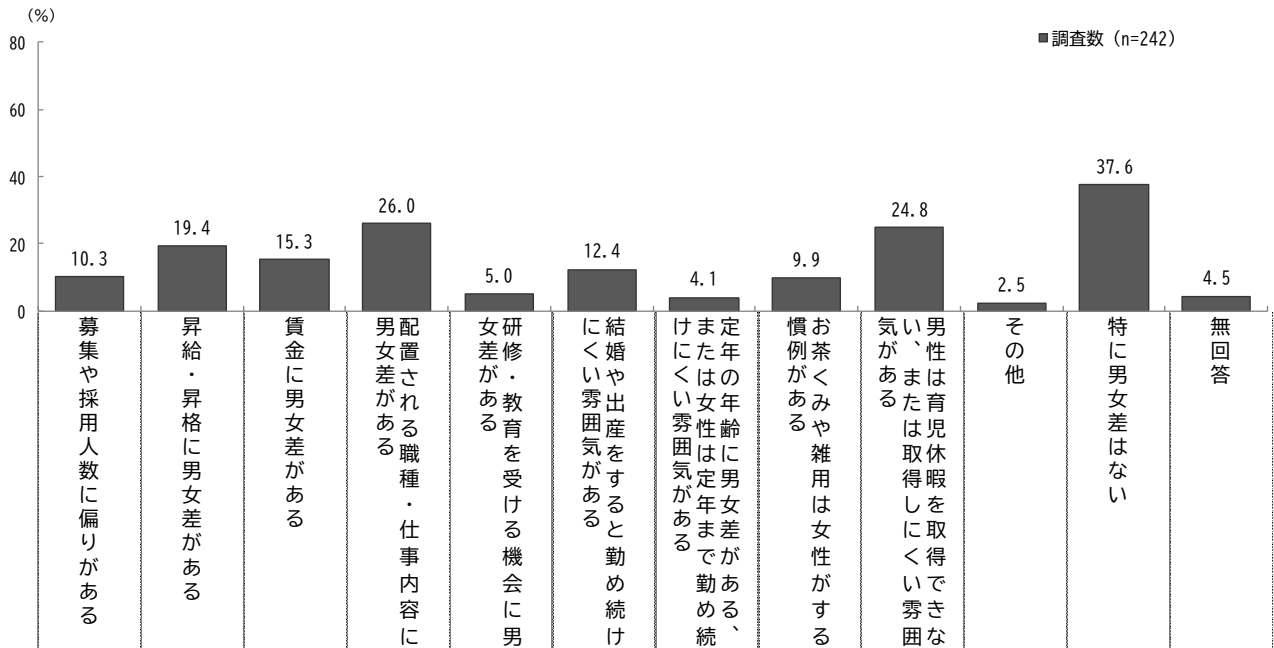
- 職業別でみると、「子育て支援施設・制度が不十分であること」は、どの職業でも最も高くなっています。
- 「家族の協力や理解が得られないこと」は、契約社員・派遣社員、パートタイム・アルバイト、専業主婦・専業主夫で高くなっています。
- 「一旦退職した女性が、正社員として再就職することが困難であること」は、正規社員、職員、契約社員・派遣社員、専業主婦・専業主夫で高くなっています。
- 「結婚や出産時、あるいは中高年女性に対する退職の慣例、圧力があること」は、専業主婦・主夫で高くなっています。

【現在、働いている方におたずねします。】

【問 17】 あなたの職場では、男女が平等でないと思うことはありますか。
あてはまる番号すべてに○を付けてください。

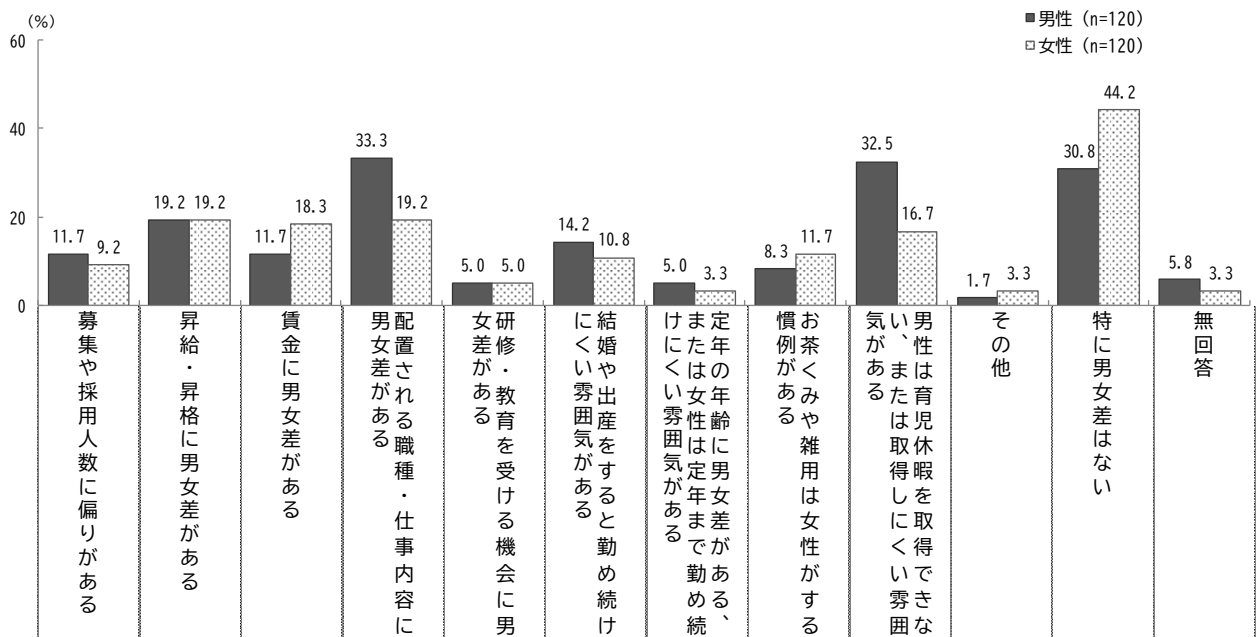
【全体】

図 19 職場における男女平等でないと思うこと



- 職場における男女平等ではないことについては、「特に男女差はない」が 37.6%と最も高くなっています。一方で、職場において男女が平等でないと感じている人では、「配置される職種・仕事内容に男女差がある」(26.0%)、「男性は育児休暇を取得できない、または取得しにくい雰囲気がある」(24.8%)、「昇給・昇格に男女差がある」(19.4%)などが高くなっています。

【性別】



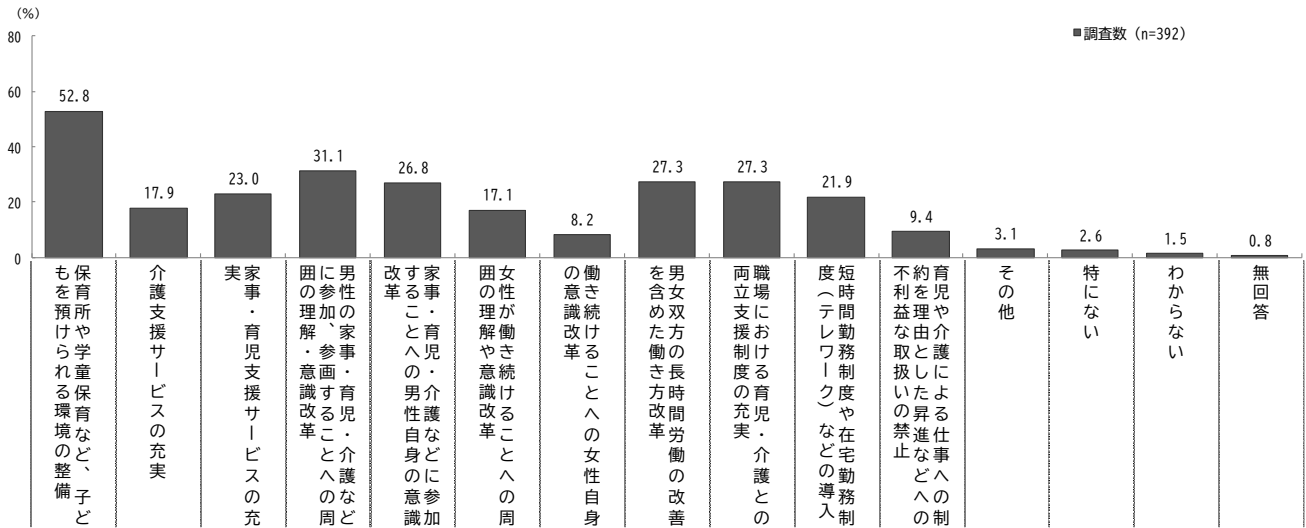
- 性別で見ると、男性では「配置される職種・仕事内容に男女差がある」、「男性は育児休暇を取得できない、または取得しにくい雰囲気がある」で女性と比べ 10 ポイント以上高くなっています。一方、女性では「特に男女差はない」「賃金に男女差がある」が男性に比べ高くなっており、男女で不平等感や不平等と感じる事柄に差がみられます。
- また、一般的に職場においては「男性の方が優遇されている」と感じている人(特に女性)が多いものの(問8②)、実際に働いている人を対象とした本設問では、「特に男女差はない」という意見が多くあり、特に男性よりも女性からの意見が多くなっています。

【すべての方におたずねします。】

【問 18】 あなたは、男女が離職せず同じ職場で働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なことは何だと思えますか。あてはまる番号を3つまで選んで○を付けてください。

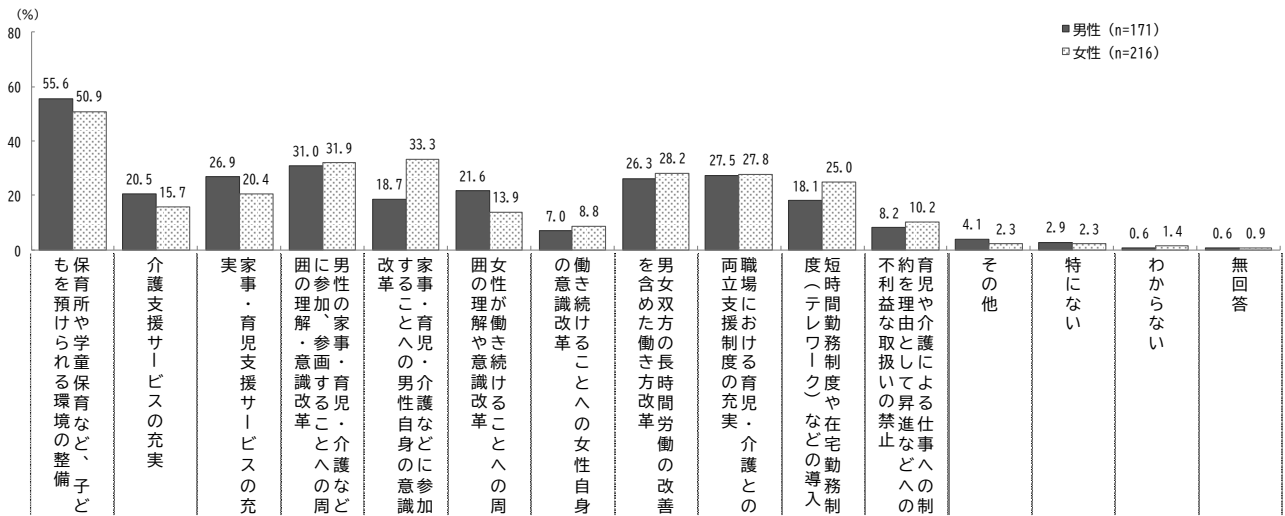
【全体】

図 20 男女が離職せず同じ職場で働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なこと



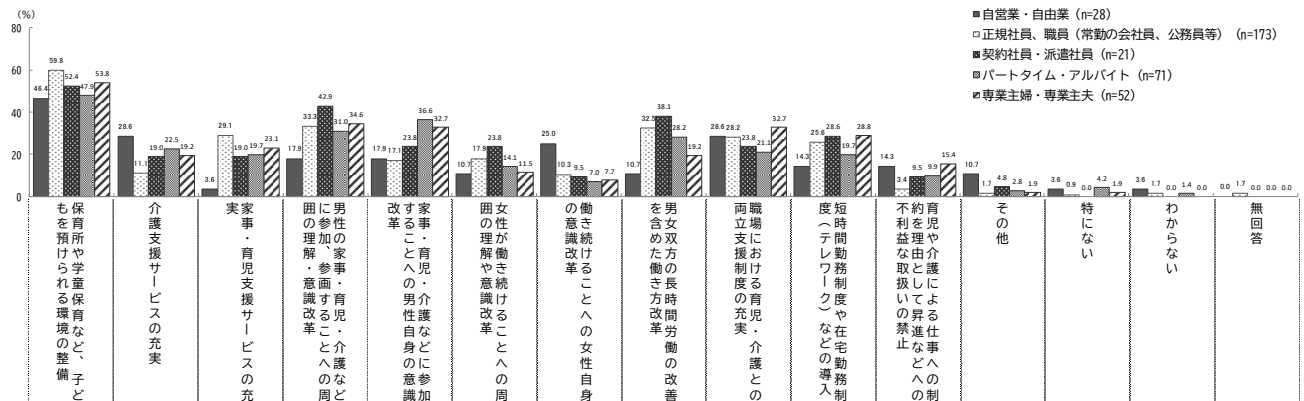
- 男女が離職せず同じ職場で働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なことについては、「保育所や学童保育など、子どもを預けられる環境の整備」が 52.8%と最も高く、次いで「男性の家事・育児・介護などに参加、参画することへの周囲の理解・意識改革」(31.1%)、「男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革」「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」(27.3%)、「家事・育児・介護などに参加することへの男性自身の意識改革」(26.8%)となっています。

【性別】



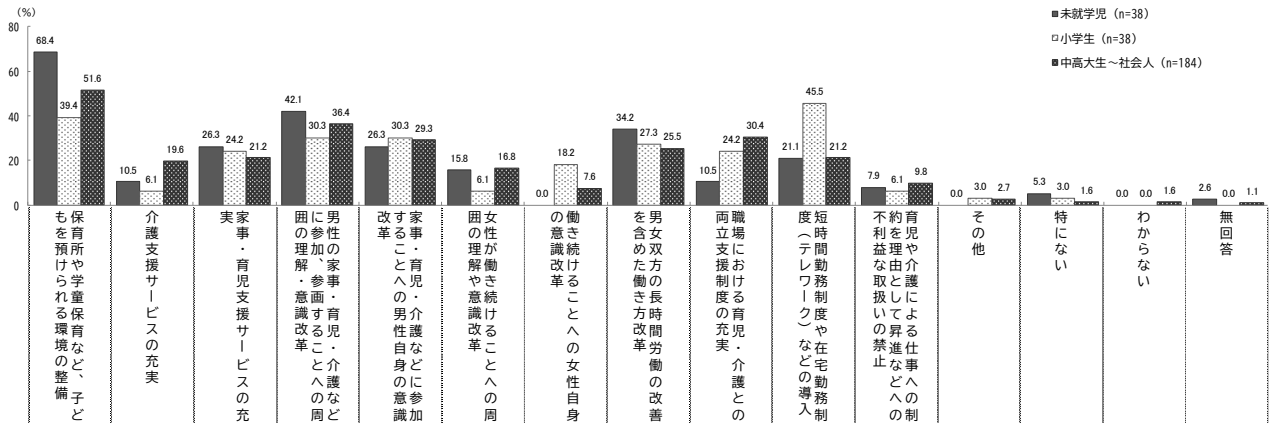
- 性別でみると、「保育所や学童保育など、子どもを預けられる環境の整備」が男女ともに最も高くなっています。また、「家事・育児・介護などに参加することへの男性自身の意識改革」は、男性で 18.7%、女性で 33.3%と、女性が 14.6 ポイント上回っています。

【職業別】



- 職業別でみると、「保育所や学童保育など、子どもを預けられる環境の整備」は、どの職業でも最も高くなっています。
- 「介護支援サービスの充実」「働き続けることへの女性自身の意識改革」は自営業・自由業で高くなっています。
- 「男性の家事・育児・介護などに参加、参画することへの周囲の理解・意識改革」「男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革」は、契約社員・派遣社員で高くなっています。
- 「家事・育児・介護などに参加することへの男性自身の意識改革」はパートタイム・アルバイト、専業主婦・専業主夫で高くなっています。

【末子の子どもの年齢別】



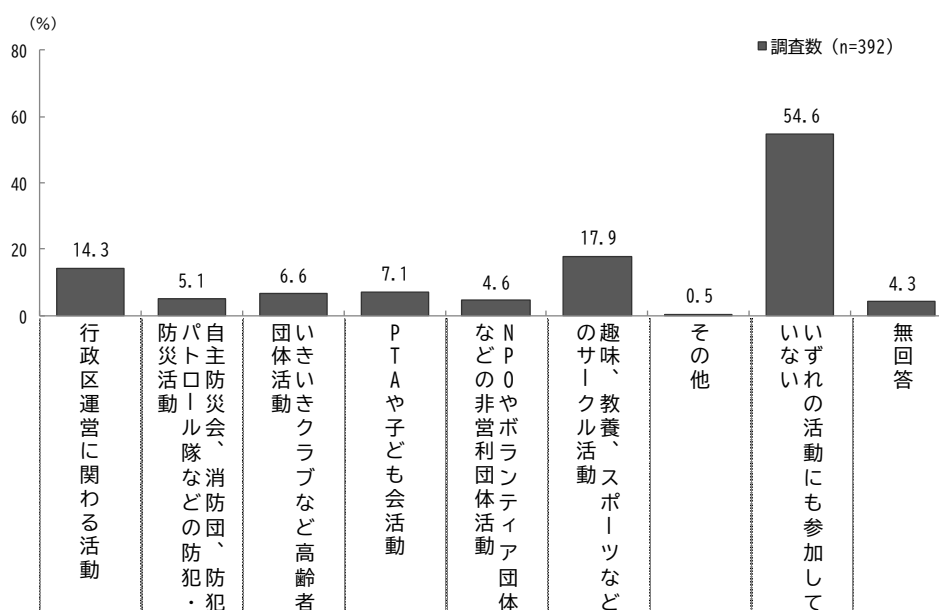
- 末子の子どもの年代別でみると、「保育所や学童保育など、子どもを預けられる環境の整備」は、どの保護者からもニーズが高く、特に未就学児の保護者からのニーズが高くなっています。
- 「男性の家事・育児・介護などに参加、参画することへの周囲の理解・意識改革」「男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革」などは未就学児の保護者からのニーズが高くなっています。
- 「短時間勤務制度や在宅勤務制度(テレワーク)などの導入」は小学生の保護者からのニーズが高くなっています。

D. 地域活動についておたずねします。

【問 19】 あなたは現在、次のような地域活動に参加していますか。あてはまる番号すべてに○を付けてください。※新型コロナウイルス感染症や災害等で休止中の活動については参加中とみなします。

【全体】

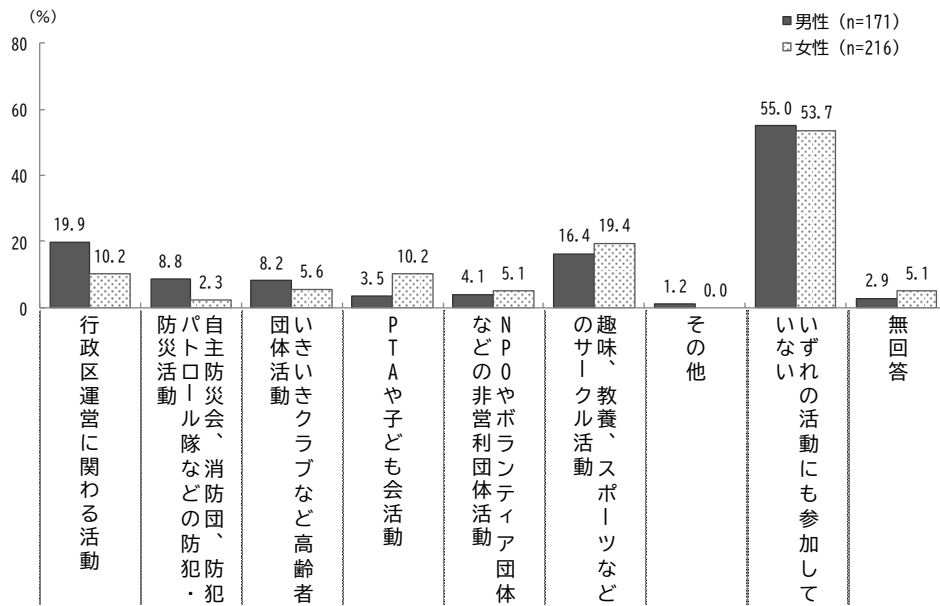
図 21 地域活動への参加



- 地域活動や社会活動に“参加している人”は、41.1%と約4割にとどまっており、「いずれの活動にも参加していない」が 54.6%と半数を超えています。参加している人では「趣味、教養、スポーツなどのサークル活動」が 17.9%と最も高く、次いで「行政区運営に関わる活動」が 14.3%となっています。

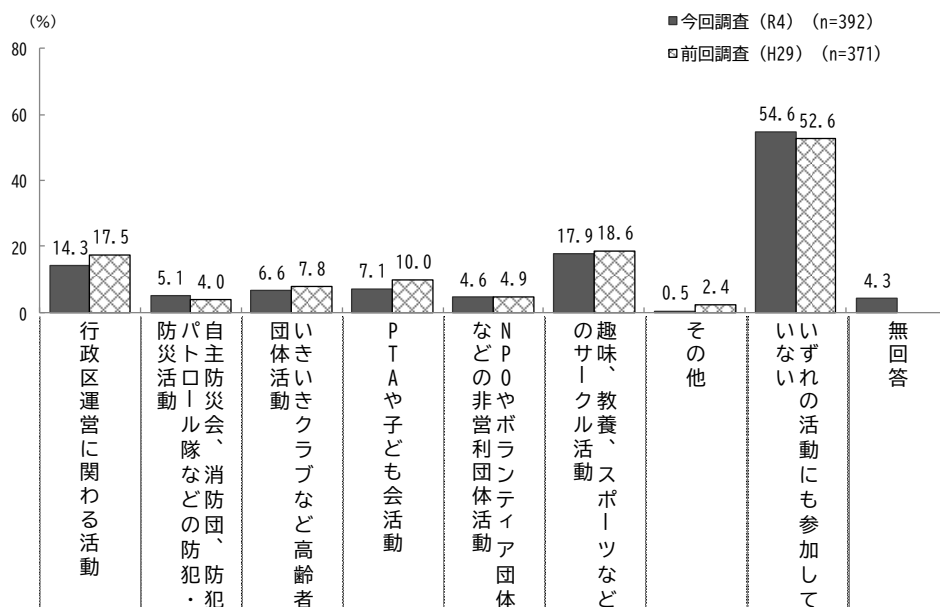
※ “参加している人”: (全体から「いずれの活動にも参加していない」と「無回答」を除いた割合)

【性別】



- 性別で見ると、男性は「行政区運営に関わる活動」、「自主防災会、消防団、防犯パトロール隊などの防犯・防災活動」でそれぞれ女性より 5 ポイント以上高くなっています。一方、女性は「PTA や子ども会活動」で男性より 6.7 ポイント高くなっています。

【前回調査との比較】



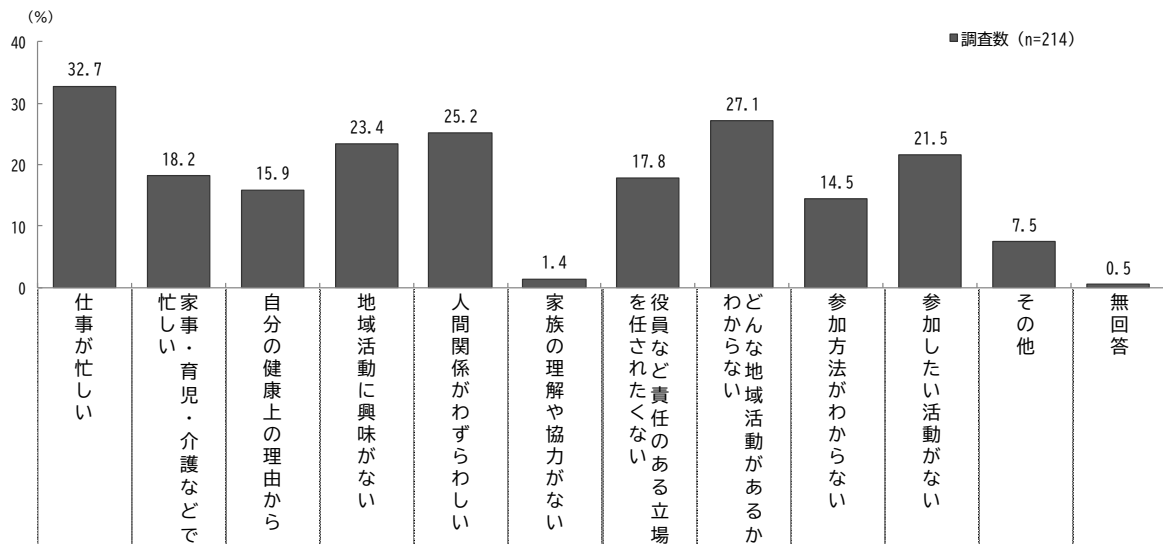
- 前回調査と比較してみると、「いずれの活動にも参加していない」が半数以上を占めており、特に大きな変化はみられません。

【問 19 で「8. いずれの活動にも参加していない」と回答した方におたずねします。】

【問 19—1】 いずれの活動にも参加しなかった理由は何ですか。
あてはまる番号すべてに○を付けてください。

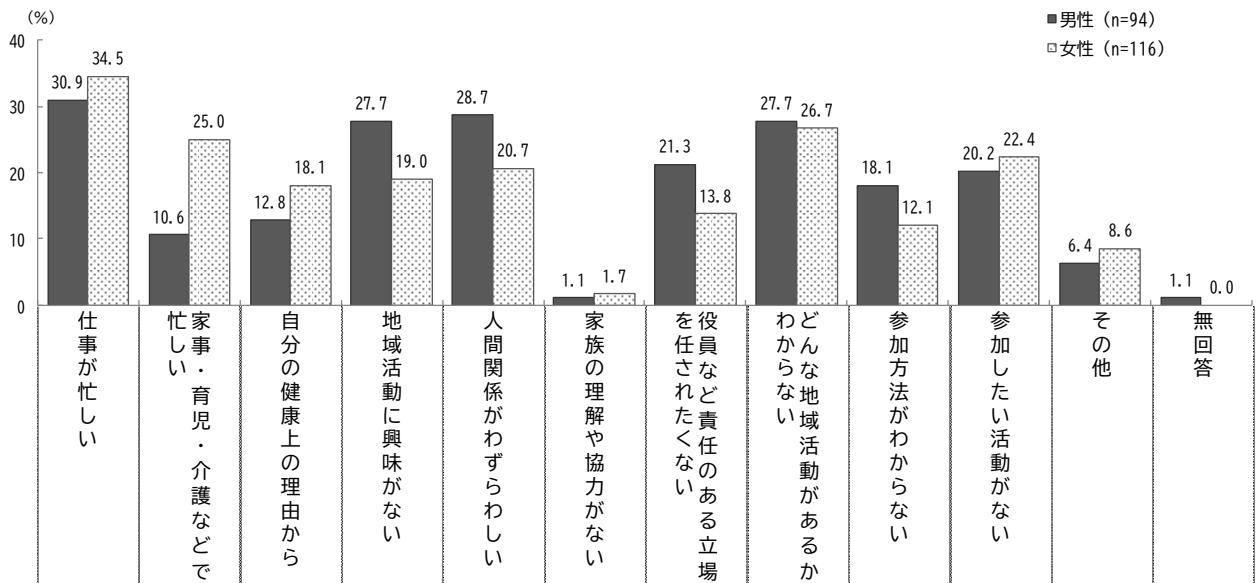
【全体】

図 22 地域活動へ参加しなかった理由



- いずれの活動にも参加しなかった理由については、「仕事が忙しい」が 32.7%と最も高く、次いで「どんな地域活動があるかわからない」(27.1%)、「人間関係がわずらわしい」(25.2%)、「地域活動に興味がない」(23.4%)、「参加したい地域活動がない」(21.5%)の順となっています。

【性別】



- 性別で見ると、「仕事が忙しい」が男女ともに最も高くなっています。また、女性では「家事・育児・介護などで忙しい」が25.0%と、男性より14.4ポイント高くなっています。一方で、「地域活動に興味がない」「人間関係がわずらわしい」「役員など責任のある立場を任せられたくない」「参加方法がわからない」などでは、男性が女性を5.0ポイント以上上回っています。

【年代別】

		調査数	問19-1 いずれの活動にも参加しなかった理由											
			仕事が忙しい	家事・育児・介護などで忙しい	自分の健康上の理由から	地域活動に興味がない	人間関係がわずらわしい	家族の理解や協力がでない	役員など責任のある立場を任せられたくない	どんな地域活動があるかわからない	参加方法がわからない	参加したい活動がない	その他	無回答
調査数		214	32.7	18.2	15.9	23.4	25.2	1.4	17.8	27.1	14.5	21.5	7.5	0.5
年齢	10代	14	7.1	-	-	28.6	-	-	14.3	50.0	14.3	28.6	7.1	7.1
	20代	28	28.6	25.0	3.6	17.9	21.4	-	7.1	50.0	32.1	21.4	-	-
	30代	29	44.8	41.4	3.4	34.5	24.1	6.9	17.2	34.5	20.7	13.8	6.9	-
	40代	33	48.5	27.3	6.1	30.3	24.2	-	21.2	24.2	9.1	21.2	6.1	-
	50代	47	34.0	14.9	19.1	10.6	19.1	2.1	14.9	19.1	10.6	31.9	12.8	-
	60代	31	35.5	6.5	25.8	25.8	38.7	-	19.4	12.9	6.5	19.4	3.2	-
	70代以上	32	15.6	6.3	40.6	25.0	37.5	-	28.1	18.8	12.5	12.5	12.5	-

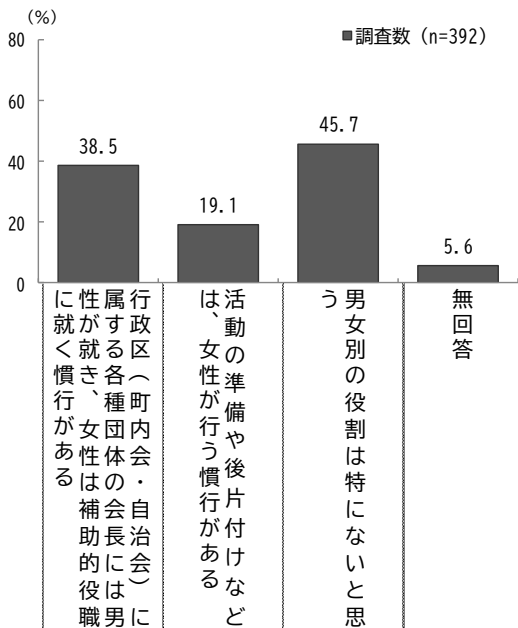
- 年代別で見ると、「どんな地域活動があるかわからない」は10～20代で、「家事・育児・介護などで忙しい」「仕事が忙しい」「地域活動に興味がない」は30～40代で、「人間関係がわずらわしい」は60代以上で、「自分の健康上の理由から」は70代以上で高い傾向にあります。

【すべての方におたずねします。】

【問 20】あなたが地域活動の中で男女の役割分担について思うことは何ですか。
あてはまる番号すべてに○を付けてください。

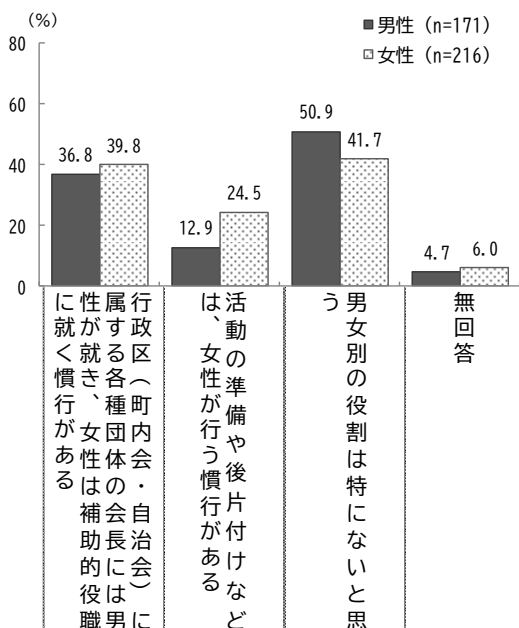
【全体】

図 23 地域活動の中で男女の役割分担について



- 地域活動の中で男女の役割分担については、「男女別の役割は特にないと思う」が 45.7%と最も高くなっています。一方で、何らかの男女の役割分担があると感じている人は、「行政區(町内會・自治會)に屬する各種團體の會長には男性が就き、女性は補助的役職に就く慣行がある」が 38.5%、「活動の準備や後片付けなどは、女性が行う慣行がある」が 19.1%となっています。

【性別】

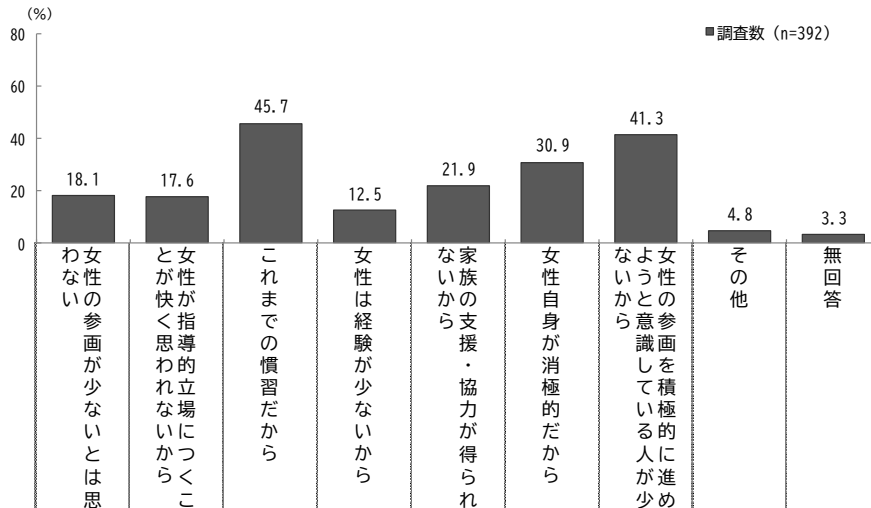


- 性別で見ると、「男女別の役割は特にないと思う」が男女ともに最も高くなっているものの、男性が女性を 9.2 ポイント上回っています。
- 「活動の準備や後片付けなどは、女性が行う慣行がある」では、女性が男性を 11.6 ポイント上回っています。

【問 21】 地域活動において、企画や方針決定過程への女性の参画が少ない主な理由は何だと思えますか。あてはまる番号を3つまで選んで○を付けてください。

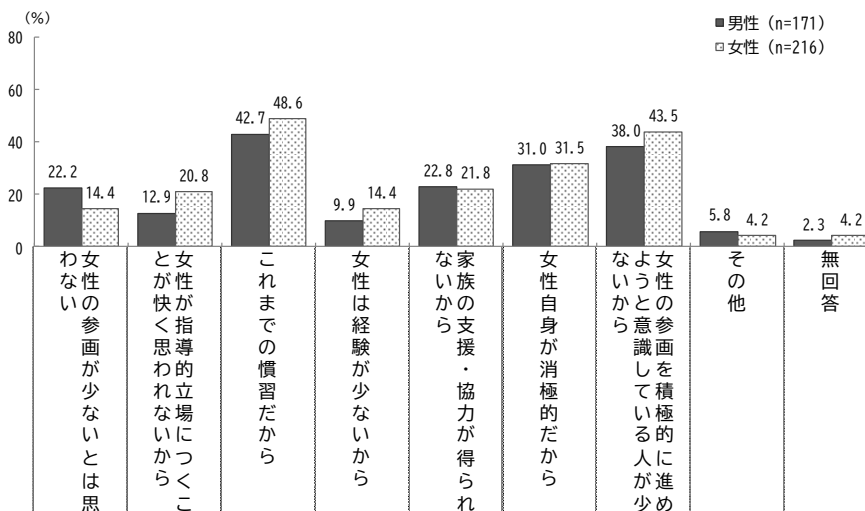
【全体】

図 24 地域活動において、企画や方針決定過程への女性の参画が少ない主な理由



- 地域活動において、企画や方針決定過程への女性の参画が少ない主な理由については、「これまでの慣習だから」が 45.7%と最も高く、次いで「女性の参画を積極的に進めようを意識している人が少ないから」が 41.3%、「女性自身が消極的だから」が 30.9%となっています。

【性別】

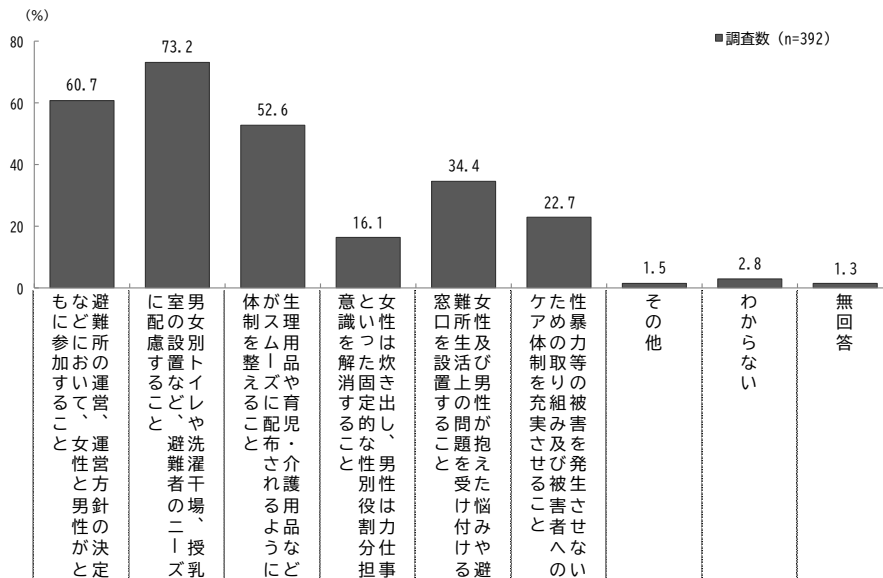


- 性別でみると、「これまでの慣習だから」が男女ともに最も高くなっています。一方で、「女性が指導的立場につくことが快く思われないから」「女性の参画を積極的に進めようを意識している人が少ないから」では、女性が男性より5ポイント以上高くなっています。
- 「女性の参画が少ないとは思わない」では、男性が女性より7.8ポイント高くなっています。

【問 22】 災害時の避難所運営について、男女共同参画の視点からあなたはどのようなことが必要だと思いますか。あてはまる番号を3つまで選んで○を付けてください。

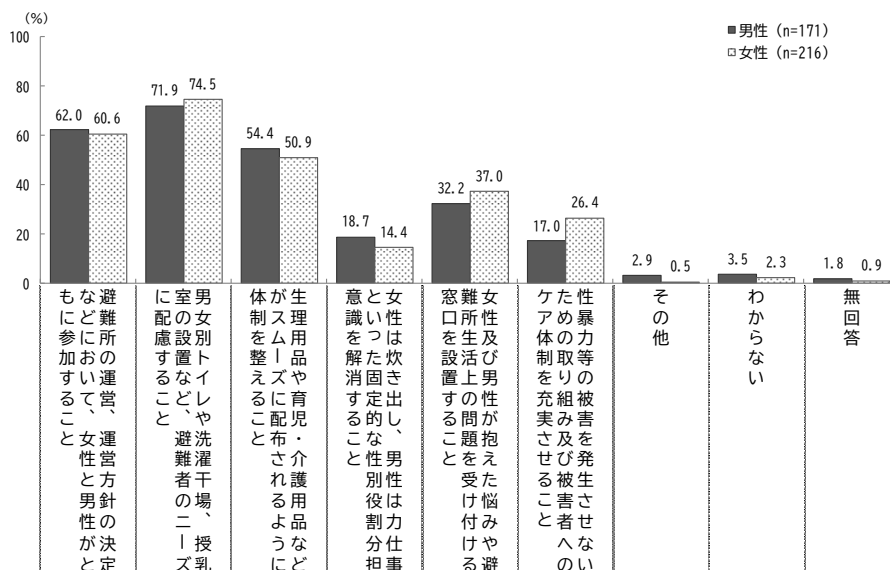
【全体】

図 25 災害時の避難所運営について、男女共同参画の視点から必要だと思うこと



■ 災害時の避難所運営で男女共同参画の視点から必要な取組については、「男女別トイレや洗濯干場、授乳室の設置など、避難者のニーズに配慮すること」が 73.2%と最も高く、次いで「避難所の運営、運営方針の決定などにおいて、女性と男性がともに参加すること」が 60.7%、「生理用品や育児・介護用品などがスムーズに配布されるように体制を整えること」が 52.6%となっています。

【性別】



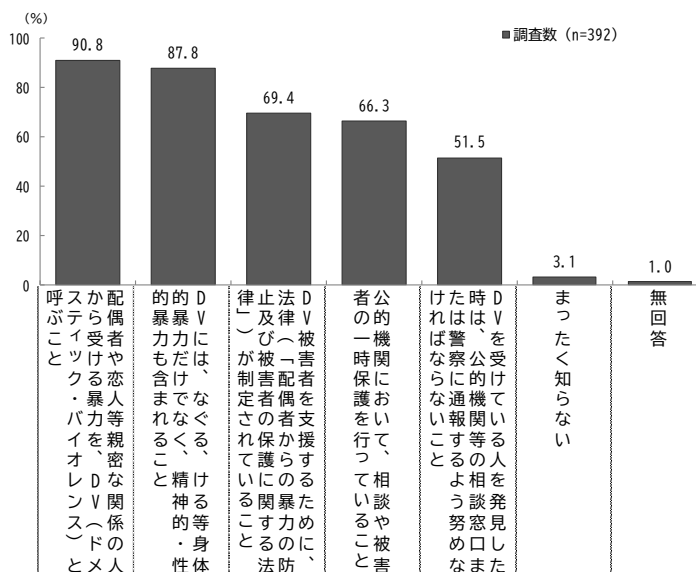
■ 性別でみると、「性暴力等の被害を発生させないための取り組み及び被害者へのケア体制を充実させること」が女性では 26.4%と、男性より 9.4 ポイント高くなっています。

E. 配偶者や恋人からの暴力(DV)についておたずねします。

【問 23】 あなたは、DV(ドメスティック・バイオレンス)に関する次のことを知っていましたか。
あてはまる番号すべてに○を付けてください。

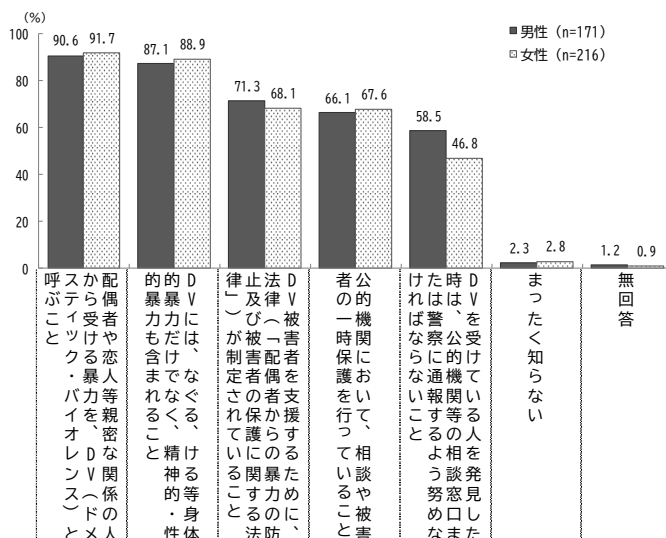
【全体】

図 26 DVに関することで知っていること



- DVに関することで知っていることについては、「配偶者や恋人等親密な関係の人から受ける暴力をDV(ドメスティック・バイオレンス)と呼ぶこと」が 90.8%と最も高く、次いで「DVには、なぐる、ける等身体的暴力だけでなく、精神的・性的暴力も含まれること」が 87.8%、「DV被害者を支援するために、法律(「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」)が制定されていること」が 69.4%、「公的機関において、相談や被害者の一時保護を行っていること」が 66.3%となっています。

【性別】

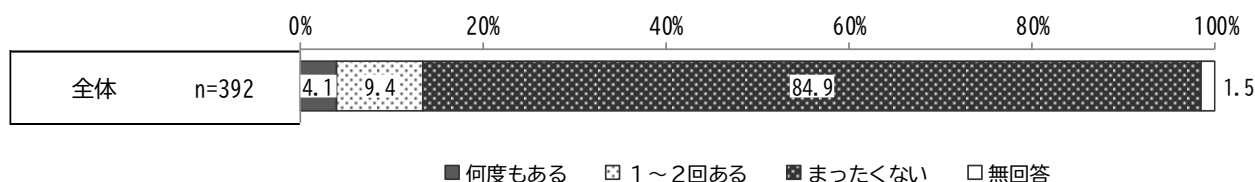


- 性別でみると、「DVを受けている人を発見した時は、公的機関等の相談窓口または警察に通報するよう努めなければならないこと」では、男性の 58.5%に対し、女性は 46.8%と 11.7 ポイントの差があります。

【問 24】 あなたは、配偶者・パートナー・恋人との間において、DV を受けた経験がありますか。
あてはまる番号を1つ選んで○を付けてください。

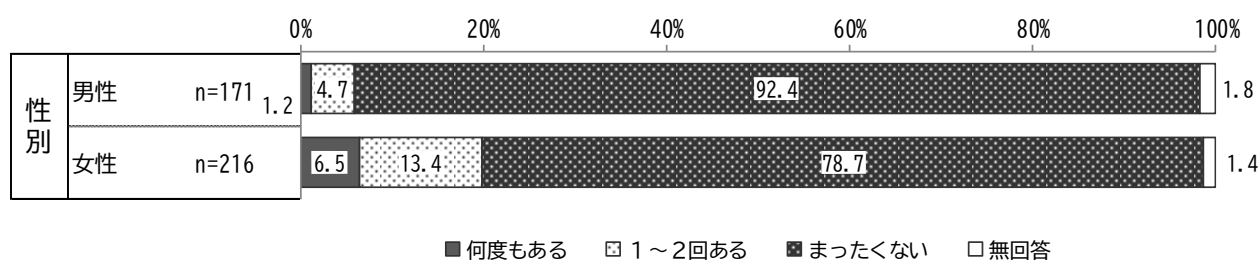
【全体】

図 27 DVを受けた経験



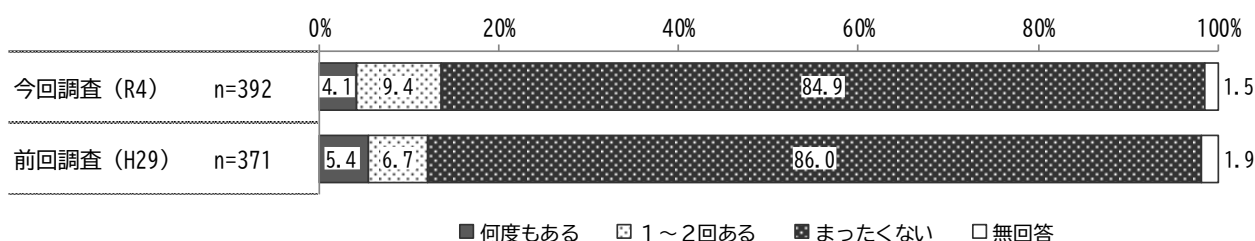
- 配偶者・パートナー・恋人から暴力の被害経験については、「何度もある」が 4.1%、「1~2回ある」が 9.4%となっており、13.5%が配偶者等から何らかの暴力を受けたことがあると回答しています。

【性別】



- 性別でみると、“何らかのDVを受けたことがある”人(「何度もある」+「1~2回ある」)は、男性では 5.9%、女性では 19.9%となっており、女性が男性の約3倍以上となっています。

【前回調査との比較】



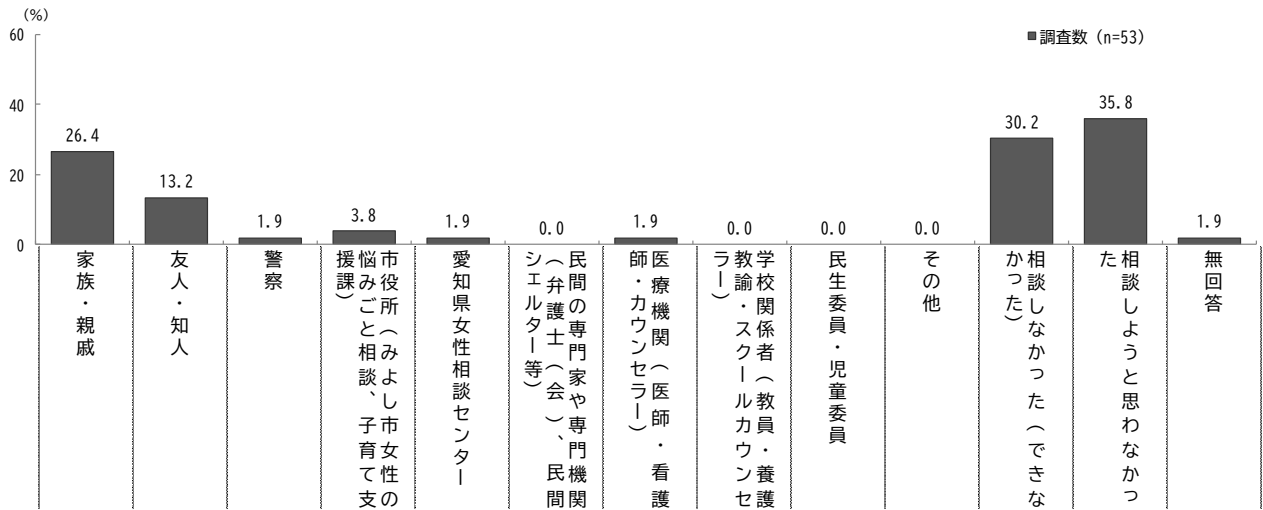
- 前回調査と比較してみると、“何らかのDVを受けたことがある”人はやや増加している程度であり変化はみられません。

【問 24 で「1. 何度もある」、または「2. 1～2回ある」と回答した方におたずねします。】

【問 25】あなたは、暴力を受けたときに、誰(どこ)に相談をしましたか。
あてはまる番号すべてに○を付けてください。

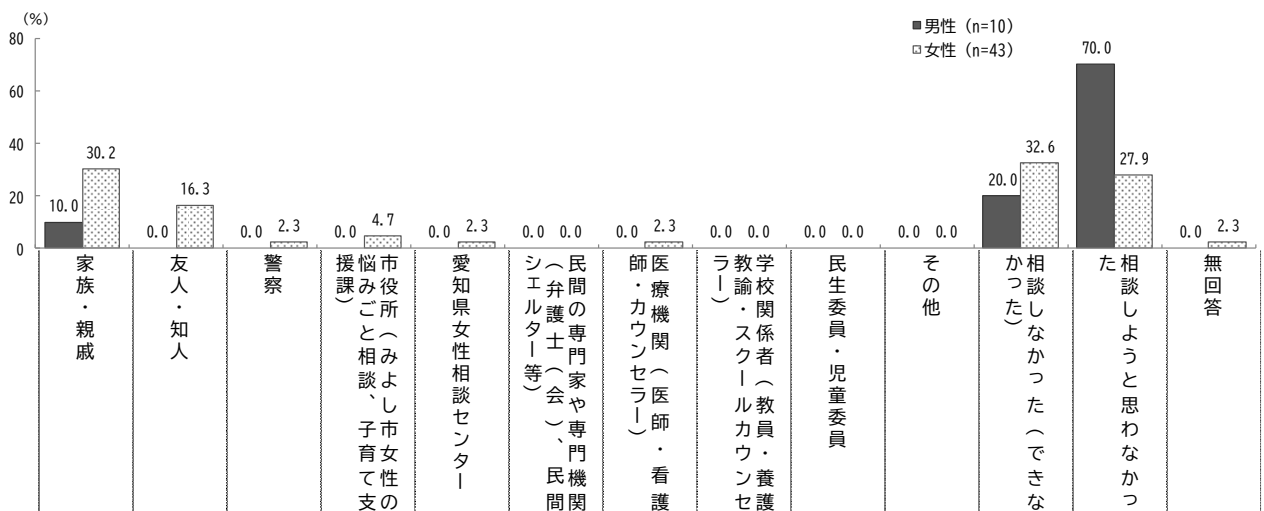
【全体】

図 28 暴力を受けた時に相談したところ



■ 暴力を受けた時の相談については、「相談しようと思わなかった」が最も高く、次いで「相談しなかった(できなかった)」となっており、全体の 66.0%(35 人)が相談していない現状があります。一方で、相談している人では「家族・親戚」、「友人・知人」などの身近な人とどまっています。

【性別】



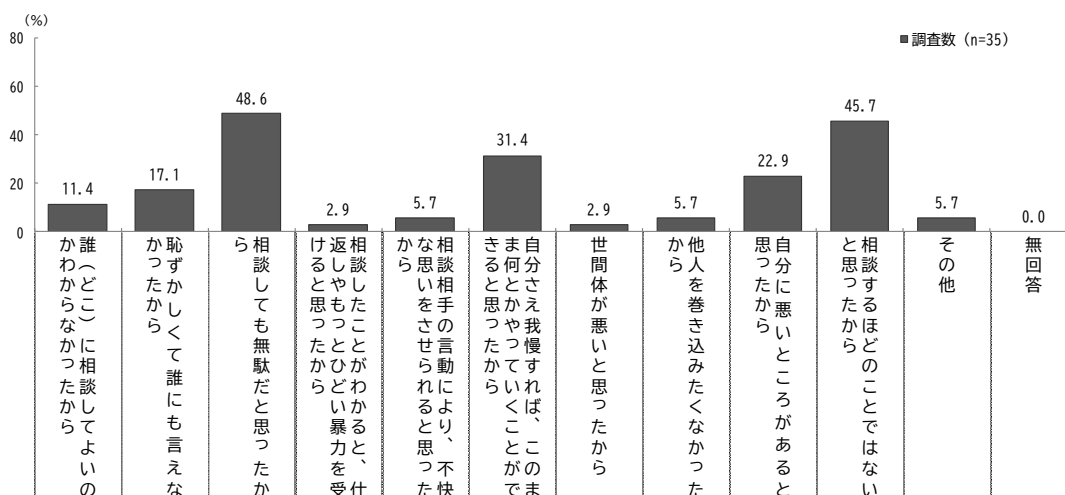
■ 性別でみると、特に男性で「相談しようと思わなかった」が、女性と比較して非常に高くなっています。

【問 25 で「11. 相談しなかった(できなかった)」「12. 相談しようと思わなかった」と回答した方におたずねします。】

【問 25-1】 その理由は何ですか。あてはまる番号すべてに○を付けてください。

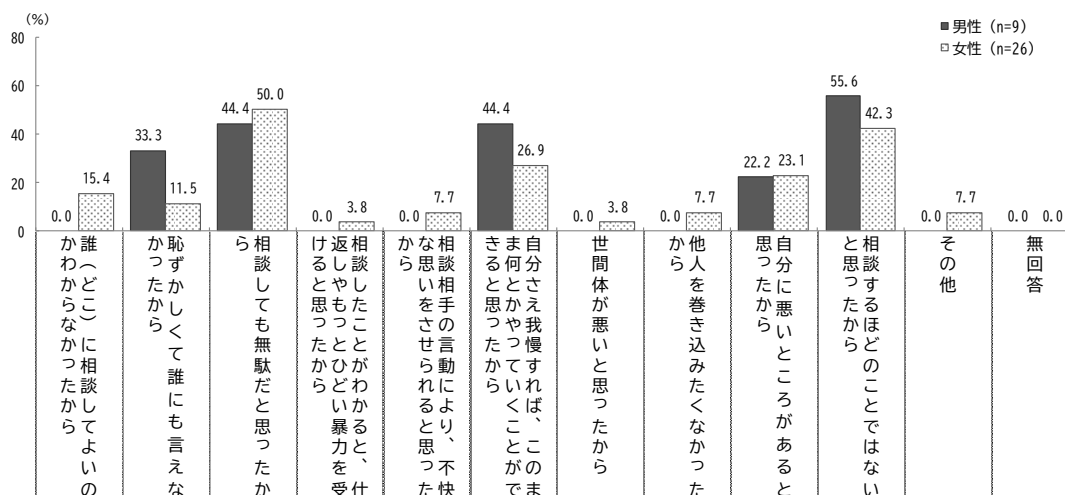
【全体】

図 29 相談しなかった、しようと思わなかった理由



■ 相談しなかった理由についてたずねてみると、「相談しても無駄だと思ったから」が最も高く、次いで「相談するほどのことではないと思ったから」、「自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思ったから」、「自分に悪いところがあると思ったから」となっています。

【性別】



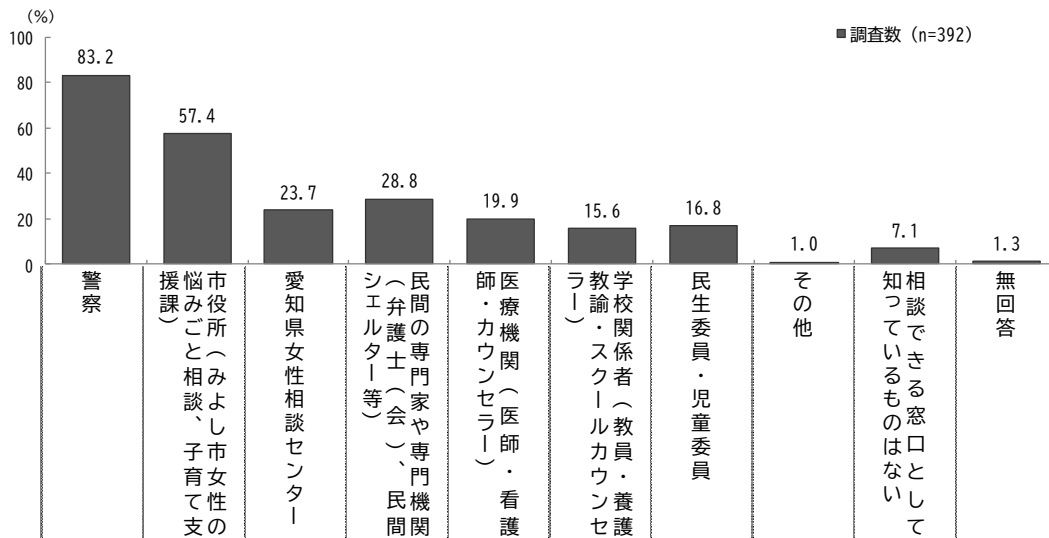
■ 性別でみると、男性では「相談するほどのことではないと思ったから」、女性では「相談しても無駄だと思ったから」が最も高くなっています。また、「自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思ったから」「自分に悪いところがあると思ったから」などで女性に比べ男性の割合が高くなっています。

【すべての方におたずねします。】

【問 26】 配偶者や恋人からの暴力について相談できる窓口のうち、あなたが知っているものはどれですか。あてはまる番号すべてに○を付けてください。

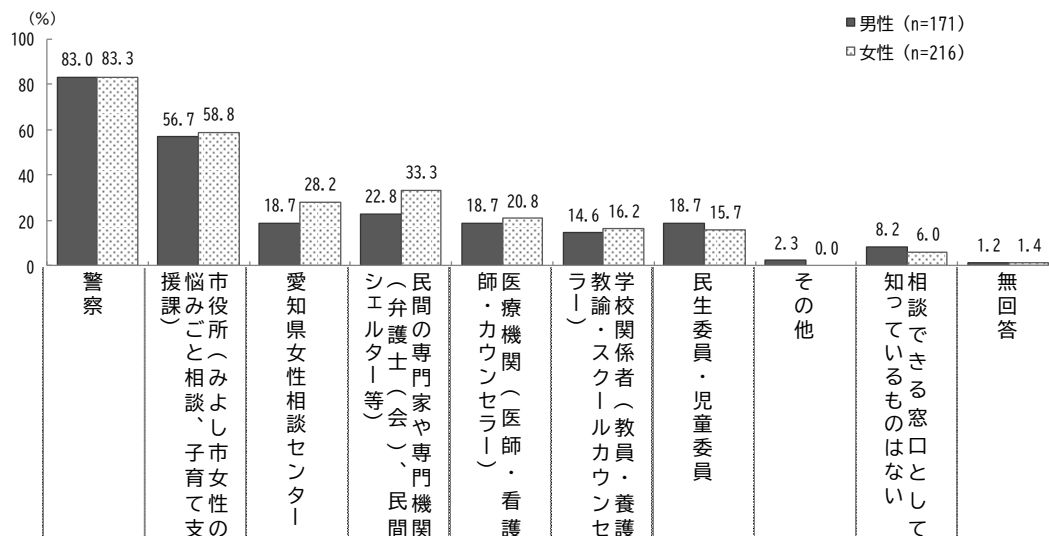
【全体】

図 30 DVの相談窓口で知っているところ



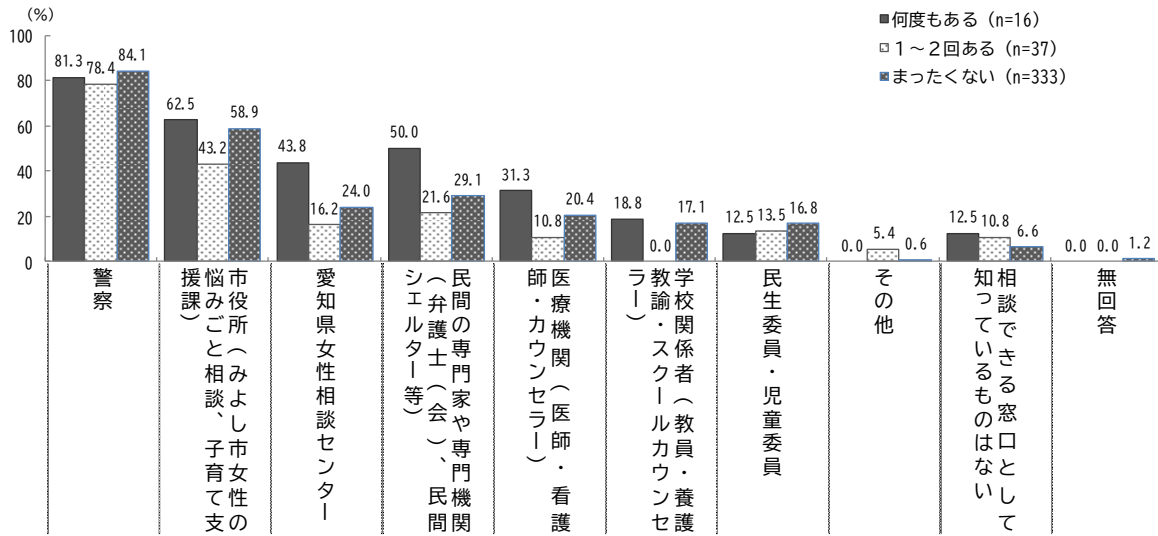
■ DVについて相談窓口の認知については、「警察」が 83.2%と最も高く、次いで「市役所(みよし市女性の悩みごと相談、子育て支援課)」が 57.4%となっており、DV の相談窓口としてはこの両者が双璧であり、「民間の専門家や専門機関(弁護士(会)、民間シェルター等)」(28.8%)、「愛知県女性相談センター」(23.7%)などあとに続くものを大きく引き離しています。

【性別】



■ 性別でみると、「警察」が男女ともに最も高く、「愛知県女性相談センター」「民間の専門家や専門機関(弁護士(会)、民間シェルター等)」で女性の認知度がやや高くなっています。

【DV 被害経験別】

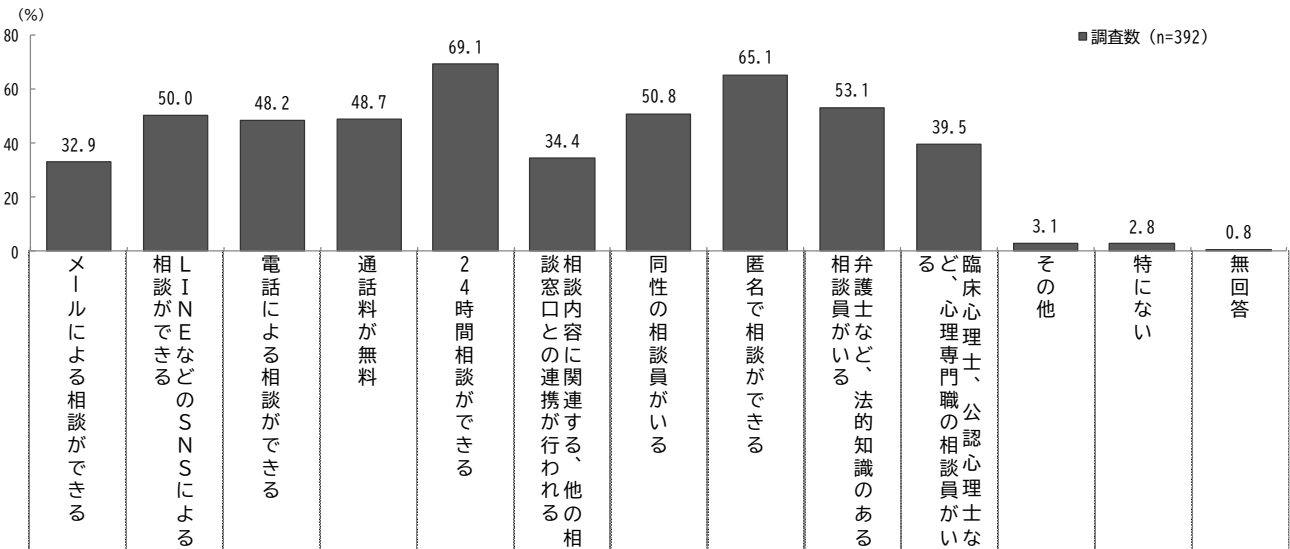


- DV 被害経験別に見ると、「愛知県女性相談センター」「民間の専門家や専門機関（弁護士（会）、民間シェルター等）」などは、被害経験者がまったくない人を大きく上回っているものの、全体としてあまり認知度は変わらず、被害経験者の中でも「相談できる窓口として知っているものはない」と回答している人もいることから、さらなる周知が必要と考えられます。

【問 27】 DV 被害者が相談しやすくなるために必要なことはなんですか。
あてはまる番号すべてに○を付けてください。

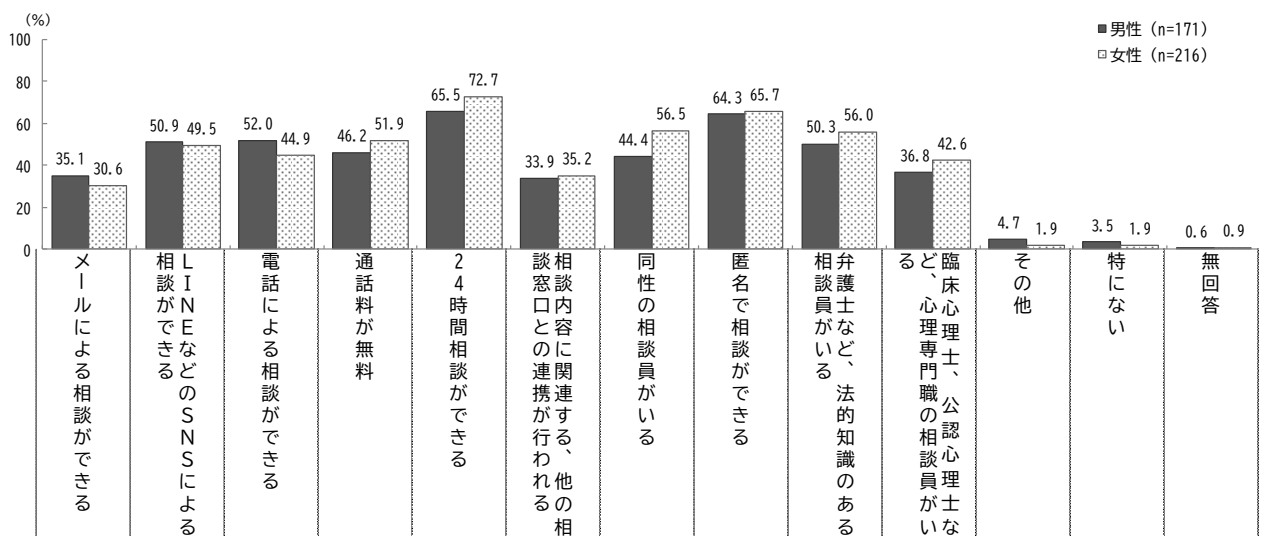
【全体】

図 31 DV 被害者が相談しやすくなるために必要なこと



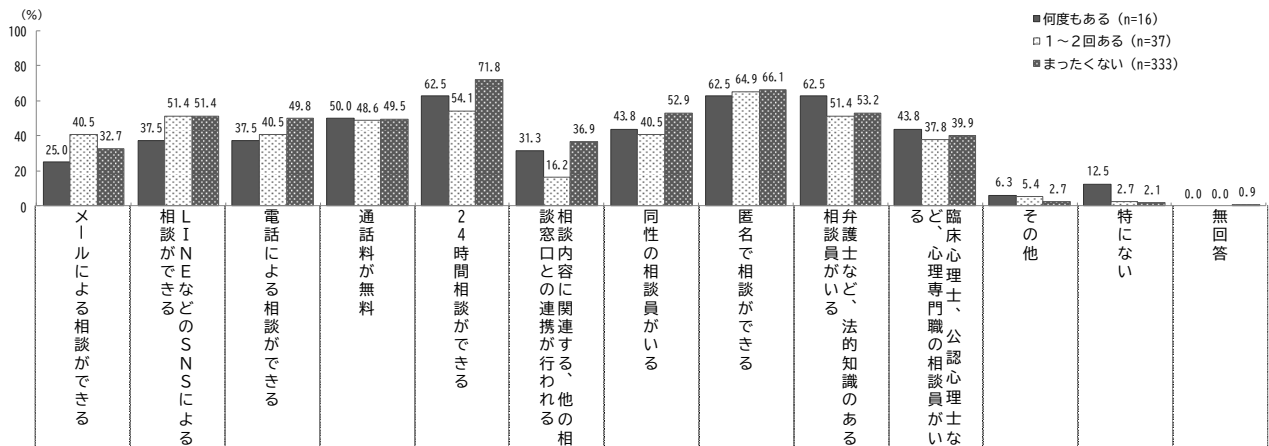
■ DV被害者が相談しやすくなるために必要なことについては、「24 時間相談できる」が 69.1%で最も高く、次いで「匿名で相談ができる」が 65.1%、「弁護士など、法的知識のある相談員がいる」が 53.1%、「同性の相談員がいる」が 50.8%、「LINEなどのSNSによる相談ができる」が 50.0%となっています。

【性別】



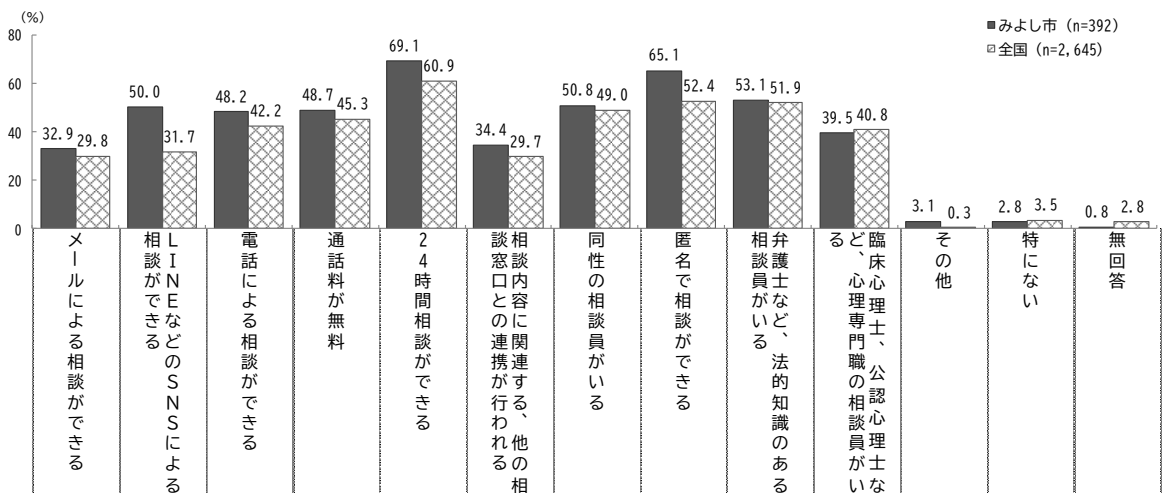
■ 性別でみると、男女とも「24時間相談できる」が最も高くなっています。また、「同性の相談員がいる」では 12.1 ポイント、女性が男性を上回っています。

【DV 被害経験別】



- DV 被害経験別にみると、被害経験を問わず、「24 時間相談ができる」「匿名で相談ができる」が全体として高くなっており、「弁護士など、法的知識のある相談員がいる」では DV 被害経験が「何度もある」方の割合がやや高くなっています。

【国との比較】



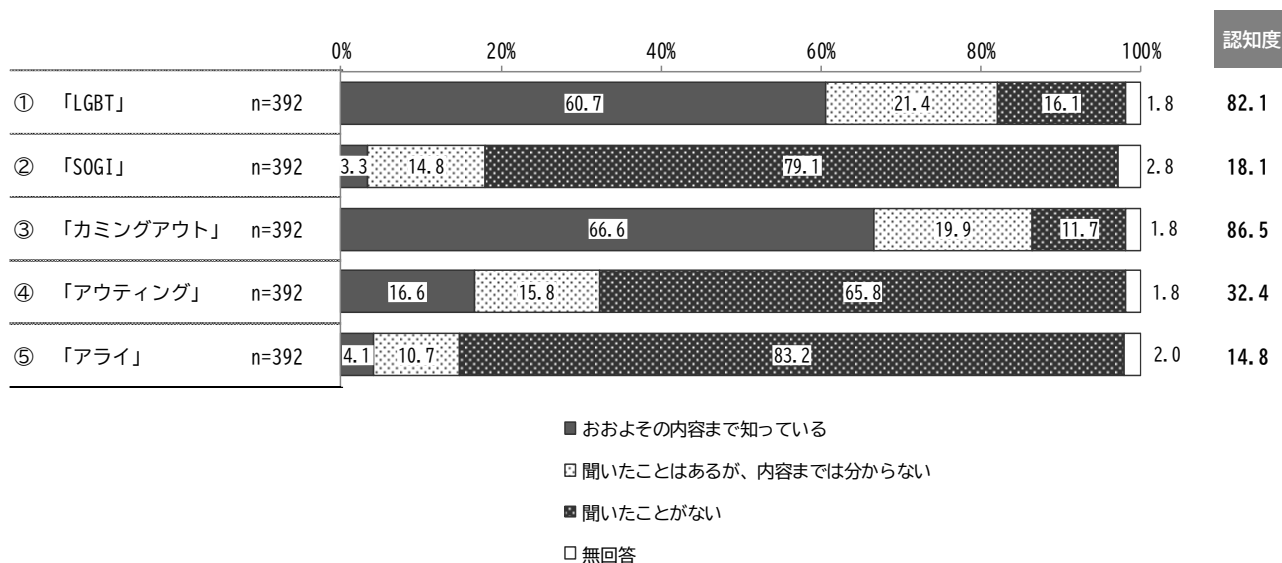
- 全国の調査と比較すると、「24 時間相談ができる」をはじめとする上位4項目の順位に差はみられません。
- また、「LINEなどのSNSによる相談ができる」「匿名で相談ができる」と回答した人は、全国を 10 ポイント以上上回っています。

F. 性の多様性のあり方についておたずねします。

【問 28】 次の言葉の中で、あなたが知っている、または聞いたことがあるものはどれですか。
(①～⑤についてそれぞれ○を1つ付けてください)

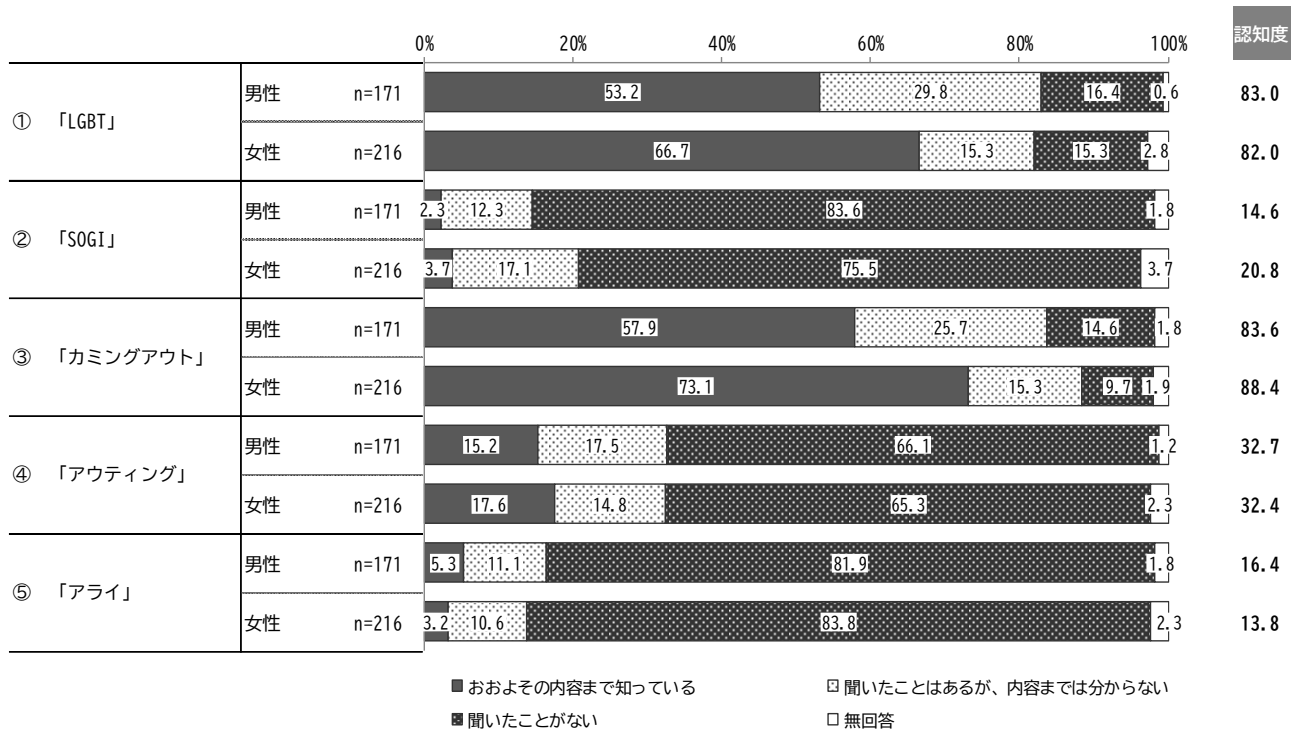
【全体】

図 32 性的少数者に関する言葉の認知度



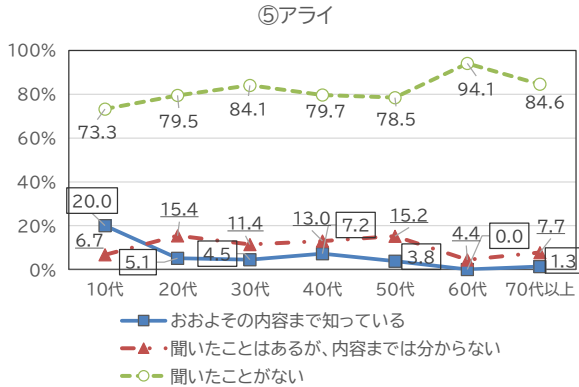
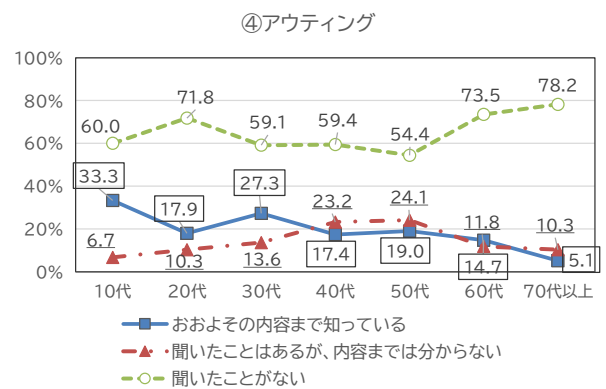
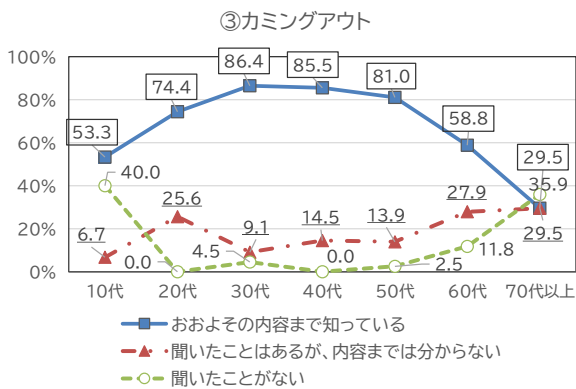
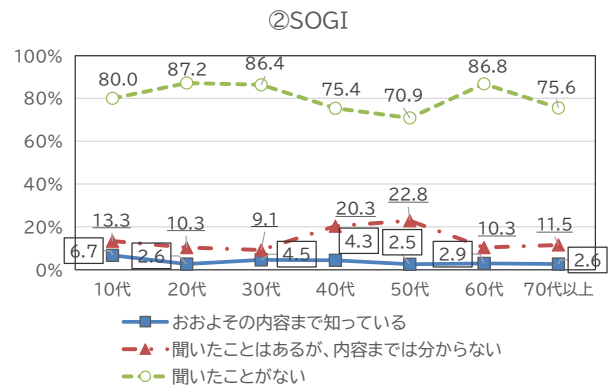
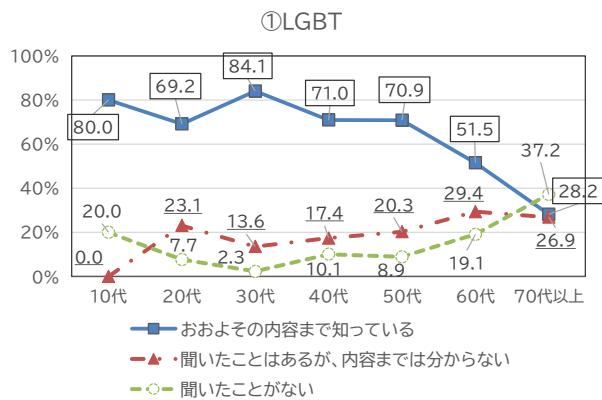
- 「①LGBT」については、「おおよその内容まで知っている」が 60.7%と最も高く、これに「聞いたことはあるが、内容までは分からない」(21.4%)を合わせた、言葉の認知度は8割強(82.1%)となっています。一方で、「聞いたことがない」は 16.1%となっています。
- 「②SOGI」については、「聞いたことがない」が 79.1%と最も高くなっています。一方で、「おおよその内容まで知っている」(3.3%)と「聞いたことはあるが、内容までは分からない」(14.8%)を合わせた、言葉の認知度は約2割(18.1%)となっています。
- 「③カミングアウト」については、「おおよその内容まで知っている」が 66.6%と最も高く、これに「聞いたことはあるが、内容までは分からない」(19.9%)を合わせた、言葉の認知度は9割弱(86.5%)となっています。一方で、「聞いたことがない」は 11.7%となっています。
- 「④アウティング」については、「聞いたことがない」が 65.8%と最も高くなっています。一方で、「おおよその内容まで知っている」(16.6%)と「聞いたことはあるが、内容までは分からない」(15.8%)を合わせた、言葉の認知度は3割強(32.4%)となっています。
- 「⑤アライ」については、「聞いたことがない」が 83.2%と最も高くなっています。一方で、「おおよその内容まで知っている」(4.1%)と「聞いたことはあるが、内容までは分からない」(10.7%)を合わせた、言葉の認知度は1割半ば(14.8%)となっています。

【性別】



- 性別でみると、「①LGBT」「③カミングアウト」の認知度は性別に関係なく、8割を超えており、「おおよその内容まで知っている」の割合はどちらも女性の方が10ポイント以上高くなっています。一方で、その他の用語の認知度は3割以下となっています。

【年代別】

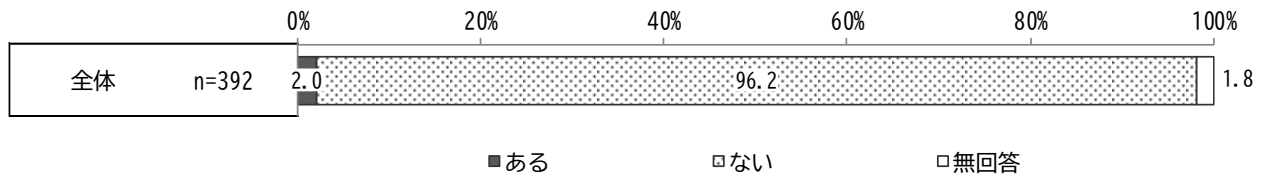


- 年代別で見ると、「①LGBT」は 10～50 代まで幅広い年齢層で認知度が高く、60 代以上から認知度が下がります。
- 「③カミングアウト」は 30～50 代で認知度高くなっています。
- 「②SOGI」「④アウティング」「⑤アライ」は年齢に関係なく、認知度が低くなっています。

【問 29】 あなたは今までに性的指向や性自認について悩んだことはありますか。
あてはまる番号を1つ選んで○を付けてください。

【全体】

図 33 性的指向や性自認で悩んだ経験

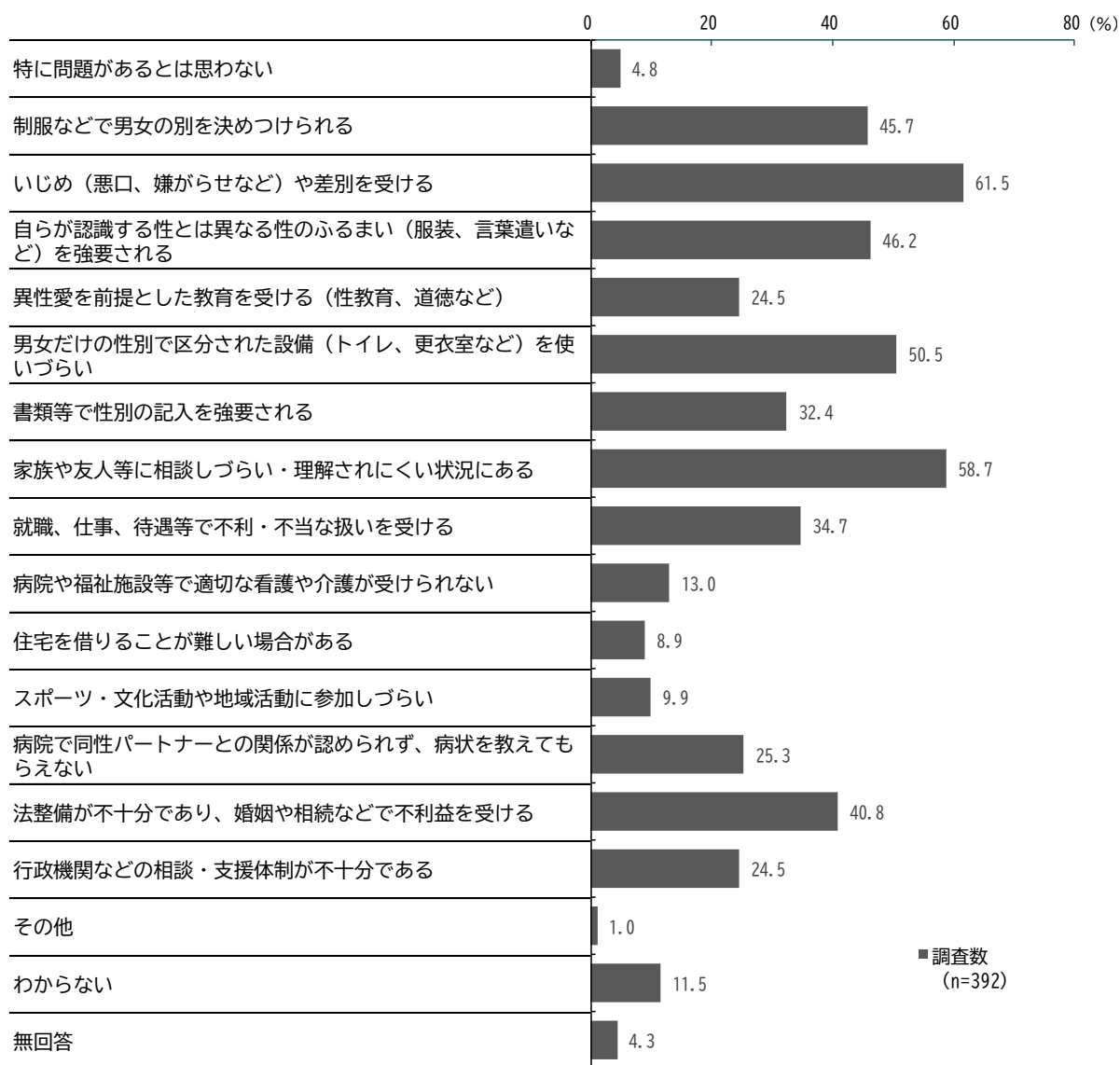


- 性的指向や性自認で悩んだ経験については、「ある」が2.0%、「ない」が96.2%となっています。

【問 30】 あなたは現在、LGBT など性的少数者の方々がどのような問題に直面していると思いますか。あてはまる番号すべてに○を付けてください。

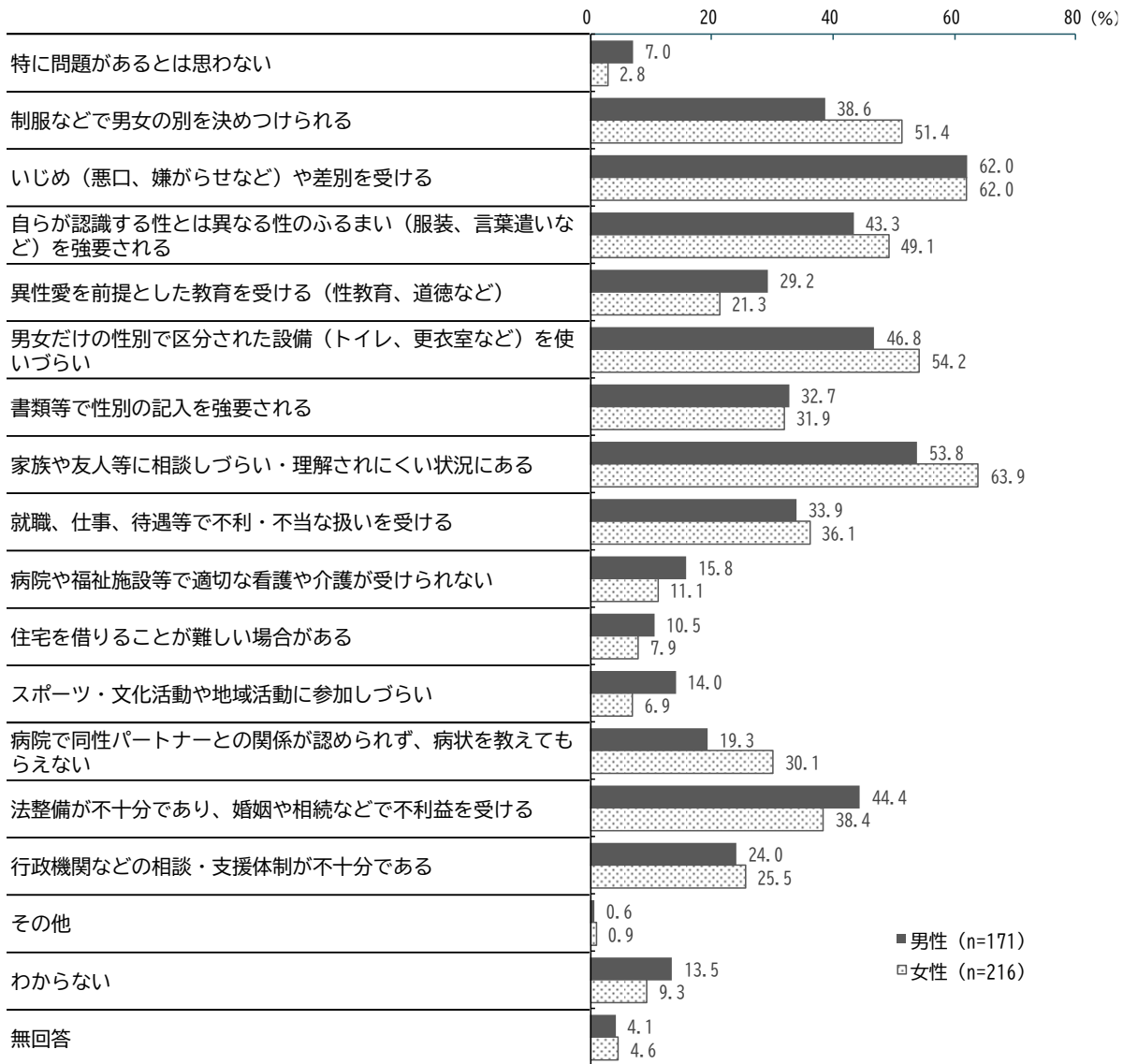
【全体】

図 34 LGBT など性的少数者の人たちが直面している問題について



- LGBTなど性的少数者の人たちが直面している問題については、「いじめ(悪口、嫌がらせなど)や差別を受ける」が 61.5%と最も高く、次いで「家族や友人等に相談しづらい・理解されにくい状況にある」が 58.7%、「男女だけの性別で区分された設備(トイレ、更衣室など)を使いづらい」が 50.5%、「自らが認識する性とは異なる性のふるまい(服装、言葉遣いなど)を強要される」が 46.2%、「制服などで男女の別を決めつけられる」が 45.7%となっています。

【性別】

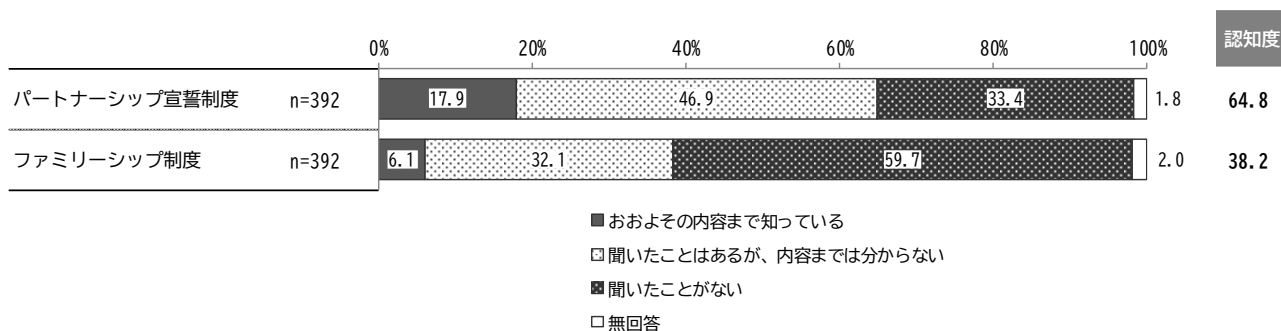


- 性別で見ると、男女とも「いじめ（悪口、嫌がらせなど）や差別を受ける」「家族や友人等に相談しづらい・理解されにくい状況にある」が上位2項目としてあげられています。
- 全体的に男性に比べ女性の割合が高くなっており、中でも「制服などで男女の別を決めつけられる」「家族や友人等に相談しづらい・理解されにくい状況にある」「病院で同性パートナーとの関係が認められず、病状を教えてもらえない」などは男性を10ポイント程度上回っています。
- 男性に比べ女性の割合が高くなっている中で、「異性愛を前提とした教育を受ける（性教育、道徳など）」「スポーツ・文化活動や地域活動に参加しづらい」「法整備が不十分であり、婚姻や相続などで不利益を受ける」では男性が女性を6～7ポイント上回っています。

【問 31】 あなたは次の制度について知っていますか。
 (①~②についてそれぞれ○を1つ付けてください)

【全体】

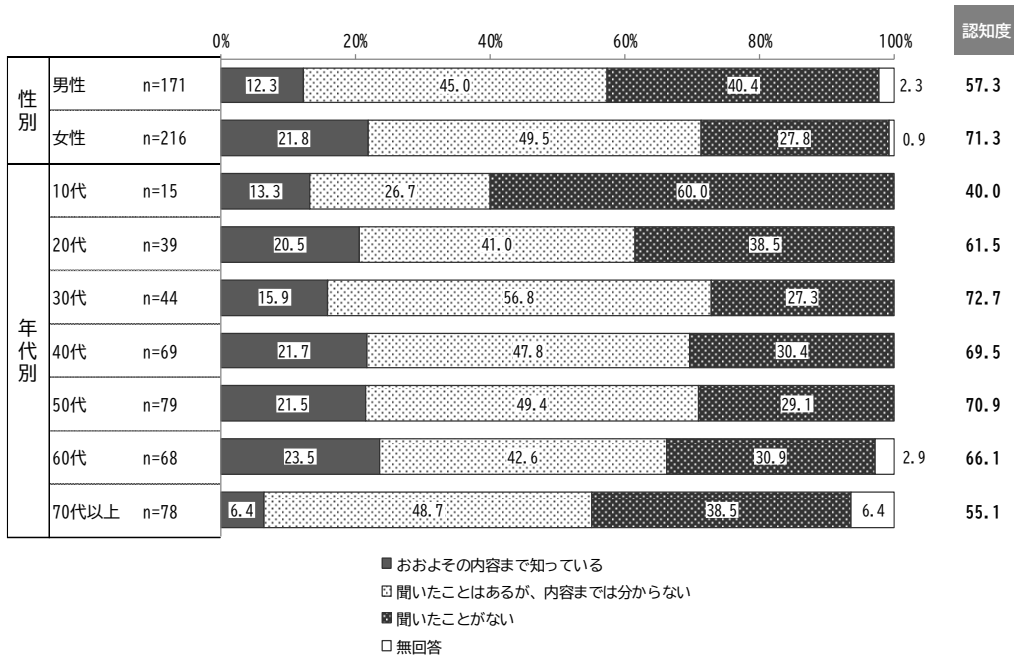
図 35 パートナーシップ宣誓制度、ファミリーシップ制度の認知度



- 「パートナーシップ宣誓制度」については、「聞いたことはあるが、内容までは分からない」が 46.9%と最も高く、これに「おおよその内容まで知っている」(17.9%)を合わせた、言葉の認知度は6割半ば(64.8%)を占めています。一方で、「聞いたことがない」は 33.4%となっています。
- 「ファミリーシップ制度」については、「聞いたことがない」が 59.7%と最も高くなっています。一方で、「おおよその内容まで知っている」(6.1%)と「聞いたことはあるが、内容までは分からない」(32.1%)を合わせた、言葉の認知度は約4割(38.2%)となっています。

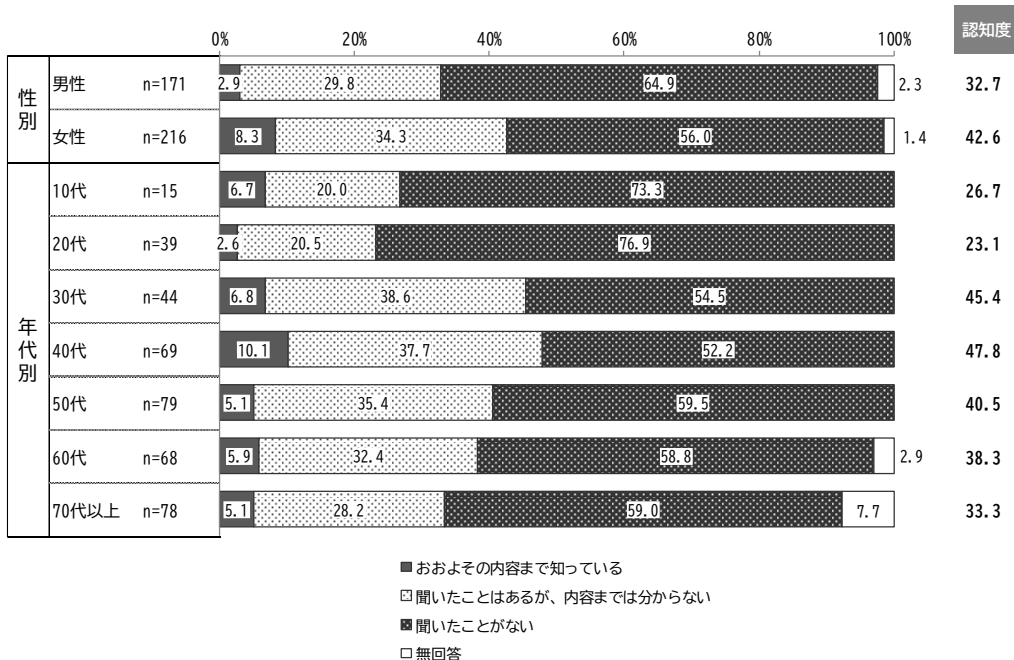
【性・年代別】

＜パートナーシップ宣誓制度＞



- 性別で見ると、男性の認知度は57.3%、女性の認知度は71.3%となっており、女性が14.0ポイント上回っています。
- 年代別で見ると、10代や70代以上に比べ、20～60代で認知度がやや高い傾向があります。

＜ファミリーシップ制度＞

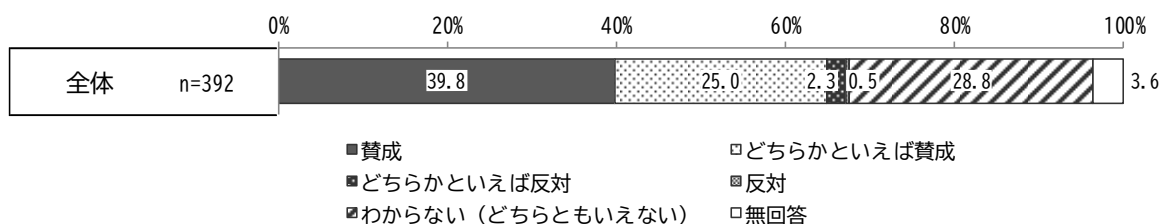


- 性別で見ると、男性の認知度は32.7%、女性の認知度は42.6%となっており、女性が9.9ポイント上回っています。
- 年代別で見ると、認知度は30～50代で他の年代と比べて高い傾向にあります。

【問 32】本市では令和4(2022)年 10 月からパートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度を開始します。本市がこの制度を導入することについて、どう思いますか。あてはまる番号を1つ選んで○を付けてください。

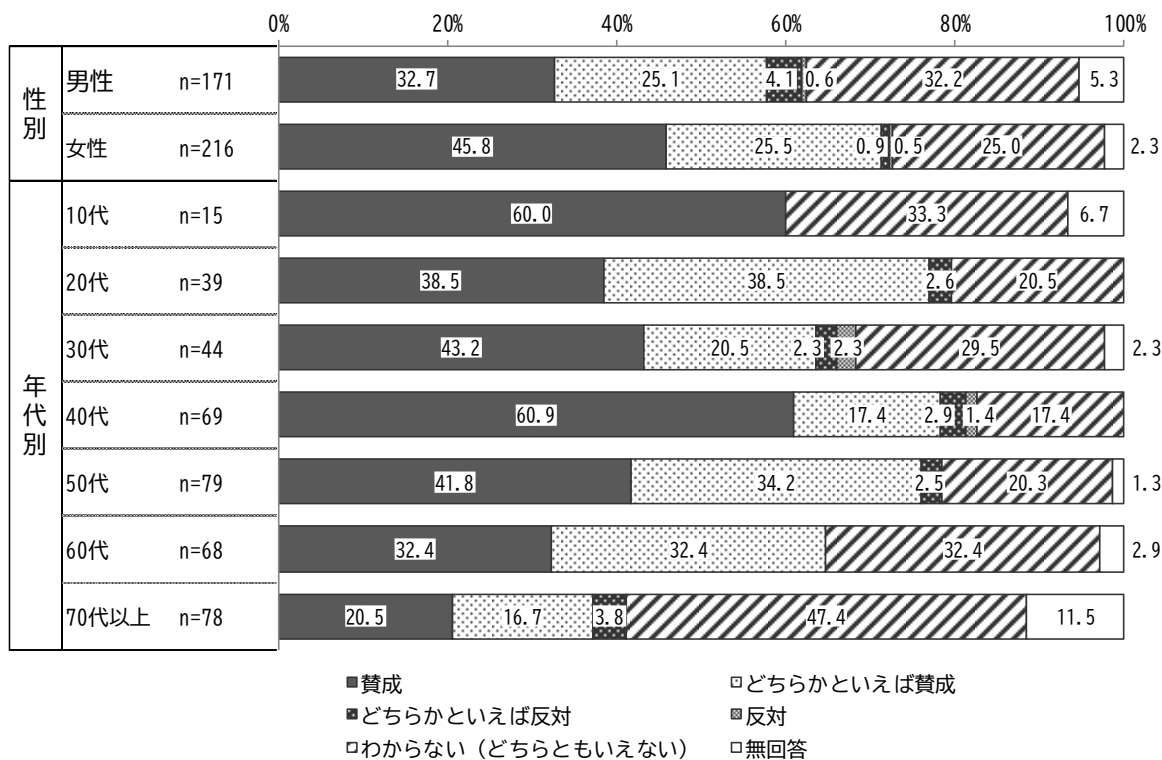
【全体】

図 36 みよし市がパートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度を開始することについて



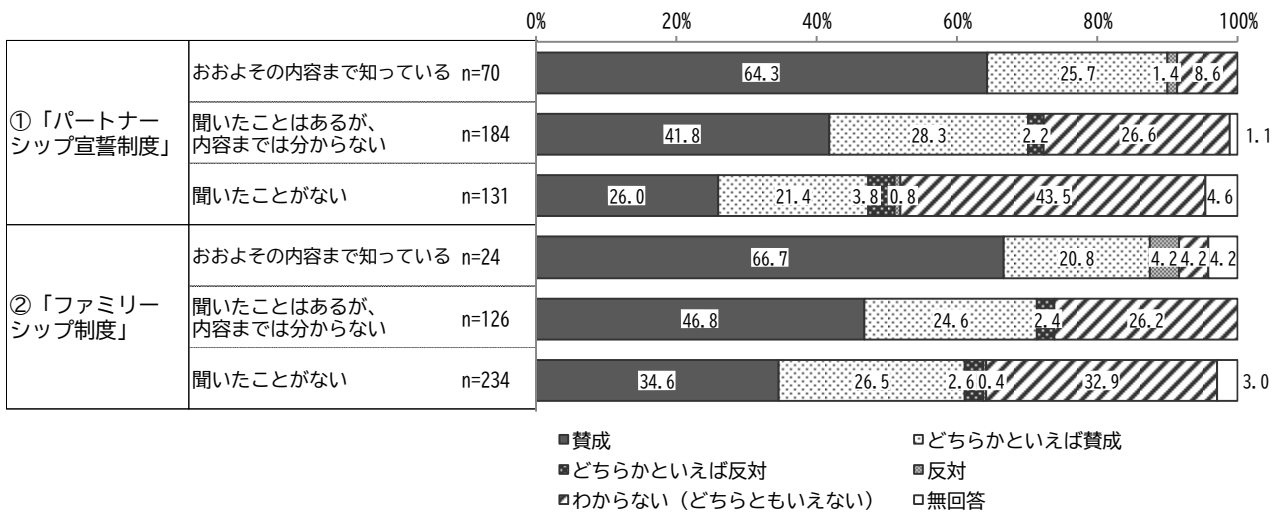
■ 令和4(2022)年 10 月からみよし市が開始するパートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度については、「賛成」が 39.8%で最も高く、これに「どちらかといえば賛成」(25.0%)を合わせた、「賛成派」は 64.8%となっています。一方で、「反対派」(「反対」+「どちらかといえば反対」)は 2.8%とわずかとなっており、「わからない(どちらともいえない)」が約3割となっています。

【性・年代別】



■ 性別で見ると、「賛成派」は男性で 57.8%、女性で 71.3%と、女性が 13.5 ポイント上回っています。
 ■ 年代別で見ると、20 代、40～50 代では「賛成派」の割合が高くなっています。70 代以上では、「わからない(どちらともいえない)」が一番高くなっています。

【パートナーシップ宣誓制度・ファミリーシップ制度の認知度別】



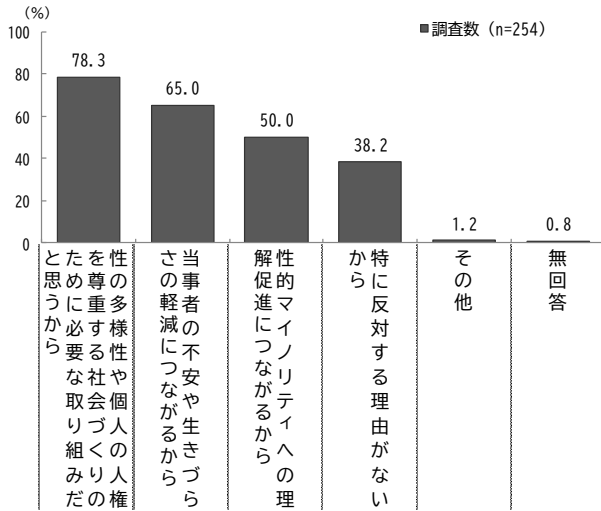
- パートナーシップ宣誓制度・ファミリーシップ制度の認知度別でみると、言葉の認知度が高いほど“賛成派”の占める割合も高くなる傾向にあります。反対に、認知度が低いほど、「わからない(どちらともいえない)」の割合が高くなっています。

【問 32 で「1. 賛成」「2. どちらかといえば賛成」と回答した方におたずねします。】

【問 32—1】 どのような理由からですか。あてはまる番号すべてに○を付けてください。

【全体】

図 37 制度開始に賛成の理由



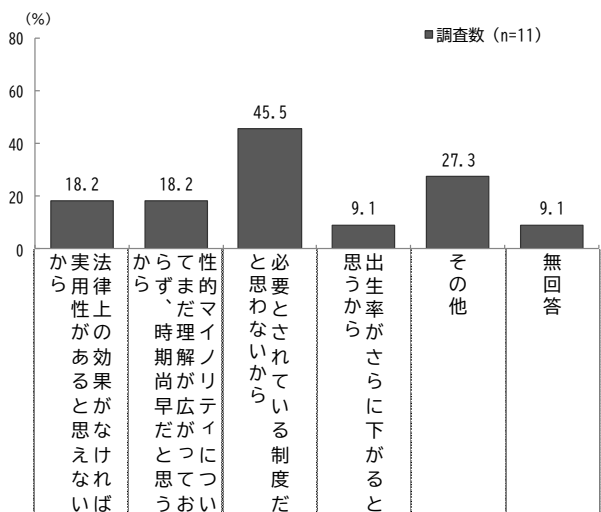
■ 制度の開始に賛成の理由については、「性的多様性や個人の権利を尊重する社会づくりのために必要な取り組みだと思ふから」が 78.3%と最も高く、次いで「当事者の不安や生きづらさの軽減につながるから」が 65.0%、「性的マイノリティへの理解促進につながるから」が 50.0%となっています。

【問 32 で「3. どちらかといえば反対」「4. 反対」と回答した方におたずねします。】

【問 32—2】 どのような理由からですか。あてはまる番号すべてに○を付けてください。

【全体】

図 38 制度開始に反対の理由



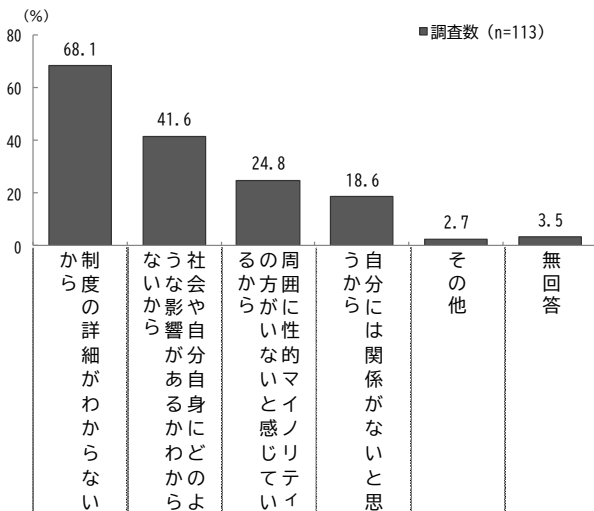
■ 制度の開始に反対の理由については、「必要とされている制度だと思わないから」が最も高くなっています。

【問 32 で「5. わからない(どちらともいえない)」と回答した方におたずねします。】

【問 32—3】 どのような理由からですか。あてはまる番号すべてに○を付けてください。

【全体】

図 39 制度開始についてわからない(どちらともいえない)理由



■ 制度開始についてわからない(どちらともいえない)理由は、「制度の詳細がわからないから」が 68.1%と最も高く、次いで「社会や自分自身にどのような影響があるかわからないから」が 41.6%、「周囲に性的マイノリティのいないと感じているから」が 24.8%となっています。

性の多様性を認め合う社会をつくるための取り組みや、パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度について、ご意見等ありましたらご記入ください。

性別	年代別	意見
男性	20代	性的少数者の方々は婚姻関係になりたいのでは。中途半端なパートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度を開始したことで市がやってやった感を出して、婚姻制度の検討には動いてくれなくなるといったことがないようにしていただきたい。
	30代	0 か 100 ではなく、グラデーションができること自体は良いことだと思う。ただ差別者が優遇されるのには歓迎しかねるので、良い塩梅がみつかればうれしい。(優遇というのは「今まで差別されていたから、明らかに社会で困ることをしても黙認する」というのも含む)
	30代	あって問題があるわけじゃないので賛成です。これで誰かが心理的に救われるならやるべきだと思います。
	30代	性的マイノリティへの配慮が必要であるのは疑いがないが、マジョリティが異性愛者であり、その前提を否定し、それを前提にしない社会システムの構築は難しいと考える。また、性的マイノリティに対する歴史的扱いは、キリスト教の強い西洋と東洋ではかなり異なり、欧米追従型の法規制は文化的に不適切であり、日本の文化に合わせて独自の権利保護が必要と考える。
	50代	パートナーシップ、ファミリーシップ宣誓制度を開始していることを知らない。もっと宣伝すべきではないか。
	60代	性の多様性は自分には全く無関係の話ではあるが、そのことで悩んでいる人が存在しているなら、行政はその人を保護してあげる必要がある。
	60代	10月からの開始について市民の方はどこまで認知しているのでしょうか。良い悪いではなく、説明が不十分ではと思います。
	60代	必要なことだと思うけど、身近にないと普段から考える機会が無いです。
	60代	地域の中で必要な対策は取るべきではあるが、問題ない人々へ刺激を与えることで、更に陰湿な被害にあってはならない。その一方で、刺激を与えることで過渡に LGBT の方々が増加するような制度であってもいけないと思う。
	70代以上	明るい社会にしましょう。
	70代以上	性というのは男女の2種類だけでなく、遺伝子の組み合わせでたくさんありうるという科学的な事実をもっと啓蒙すべきである。レズビアンとかゲイを性癖と思っているバカな政治家がいる。
	70代以上	多様性は現代社会の悩み。

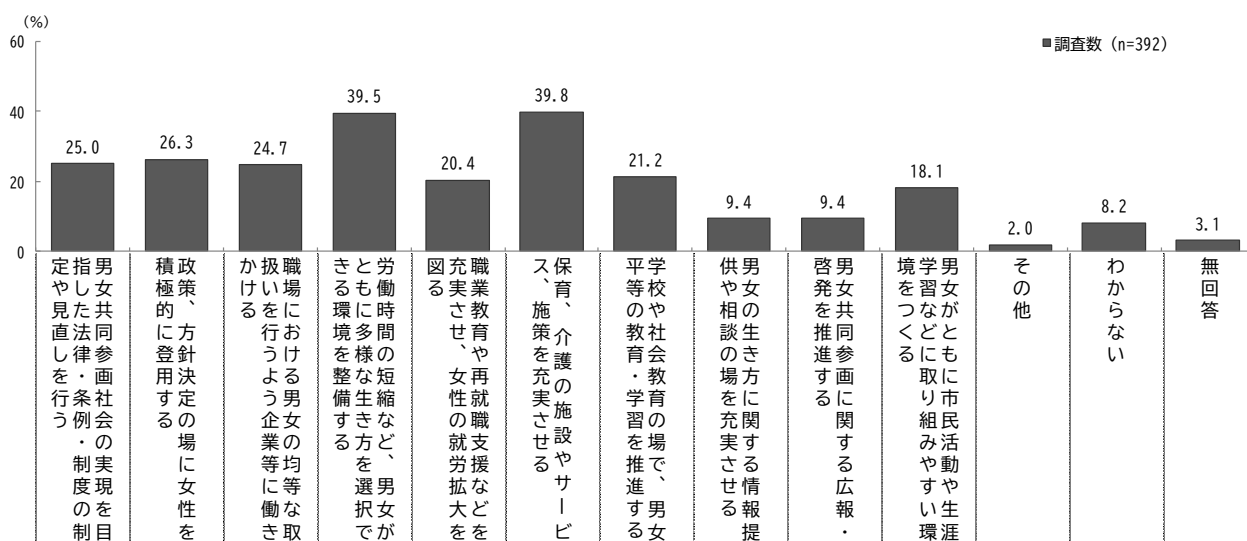
性別	年代別	意見
女性	10代	このアンケートをやって初めてこの制度が導入されること知ったので、全市民に対する周知を徹底すべきだと思う。決して年齢で区別せず、保育所や幼稚園、子ども園に通う子どもたちや小学生・中学生に対しても、この制度がみよし市に存在することを知らせるべき。
	20代	みよし市民にも、要望があるなら導入すれば良いと思う。あればいいなという制度なので、要望もない制度を急いで整備するよりも優先することがあれば、後回しにしても良いと考える。
	20代	ファミリーシップの子どもが学校に行った時に周りからも家族の在り方が認められるように、差別されたりしないように子どもへの教育も必要と考えます。
	30代	当事者だけでなく、家族(特に子ども)が不利益を被らないようにしてあげて欲しい。子どもを蔑ろにしてまで親の多様性を尊重する必要があるとは思わない。
	30代	素晴らしい取り組みだと思います。全ての方が生きやすいみよし市になる事を願います。
	40代	生物学的な男女以外を行政が認める事は危険な行為だと思っているので、教育の場や行政の支援制度に過度に組み込まないでほしい。差別は LGBTQ 以外にもあってはならない。昨今は LGBTQ ばかりが特別視され、特別扱いされていると感じている。
	50代	一人でも安心して幸せな生活を。
	50代	性的マイノリティの方が少数ならば、現代社会が生きづらくないよう、個人の人権を尊重する社会づくりが必要かもしれないが、今後、大人数になってくると、社会的に問題が生じるかもしれないと思う。現代の若者が結婚しない傾向にあるので、ますます少子化が進むのではないかと心配だ。
	50代	性の多様性は大切だと思いますが、マイノリティではない人の気持ちや権利も大切にすべきだと思う。例えば、体が男性で心が女性だからと言って、女性の更衣室やトイレを使うべきではないと思います。マイノリティもごり押しをするべきではないと思う。生物的に男性ならある意味強者であると思います。
	50代	世間的に認められる社会になると、今度は性の乱れ・争いも起きてくるから 浮気・不貞に対しての厳しい取り締まりなども並行して考えてほしい。昔と比べて SNS やアプリなどで簡単に恋愛ごっこが出来てしまう世の中なので、性の問題がかなり乱れてきているのが明白。恋愛がさらに表立って自由化するならば、それに対する規律も取り決めていかないとただの性の乱れになりかねない。
	50代	個人のことなのでよくわからず申し訳ないですが、差別や偏見を持ちたくないと思っているので、そういった制度があることで理解が深まるのではないのでしょうか。けれど、あまり聞いたことのない制度なので、もっと広く知られるよう活動をした方がいいかと思います。
	50代	どんな人のことであっても偏り過ぎないようにしてほしい。
	60代	昭和の時代とは違い、今の時代は、いろんな人がいて、私が生まれた時、結婚した時そして今の時とは、明らかに目に映るものが違います。そんな今の社会なので、多くの人が、希望するなら賛成するものだと思います、ただそういう人を認めてあげて、パートナーシップ等生きやすくしてあげたいとは思いますが、どうぞ、どうぞという取り組みは、ちょっとどうかと思います。そっとして欲しいのではないのかなと思います。ただ、相手が入院した時、結婚制度の事とか、そういう窓口の人が制度を親身になって、相談にのってくれる窓口があれば心強いと、私は思います。
70代以上	周りにはそういうことで悩んでいる人はいないと思いますが、これからは多様性を重んじていかないといけないと思います。	

G. 男女共同参画プランの推進体制についておたずねします。

【問 33】 男女共同参画社会の形成を推進するために、みよし市は特にどのようなところに力を入れていくべきだと思いますか。あてはまる番号を3つまで選んで○をつけてください。

【全体】

図 40 男女共同参画社会の形成を推進するために、みよし市が力を入れるべきこと



- 男女共同参画の実現のために今後、みよし市に望むことをたずねてみると、「保育、介護の施設やサービス、施策を充実させる」が 39.8%と最も高く、次いで「労働時間の短縮など、男女がともに多様な生き方を選択できる環境を整備する」が 39.5%、「政策、方針決定の場に女性を積極的に登用する」が 26.3%、「男女共同参画社会の実現を目指した法律・条例・制度の制定や見直しを行う」が 25.0%、「職場における男女の均等に働きかけを行うよう企業等に働きかける」が 24.7%となっています。

【性・年代別】

		問33 男女共同参画社会の形成を推進するために、みよし市として力を入れるべきこと													
調査数		男女共同参画社会の実現を目指した法律・条例・制度の制定や見直しを行う	政策、方針決定の場に女性を積極的に登用する	職場における男女の均等な取扱いを行うよう企業等に働きかける	労働時間の短縮など、男女がともに多様な生き方を選択できる環境を整備する	職業教育や再就職支援などを充実させ、女性の就労拡大を図る	保育、介護の施設やサービス、施策を充実させる	学校や社会教育の場で、男女平等の教育・学習を推進する	男女の生き方に関する情報提供や相談の場を充実させる	男女共同参画に関する広報・啓発を推進する	男女がともに市民活動や生涯学習などに取り組みやすい環境をつくる	その他	わからない	無回答	
調査数	392	25.0	26.3	24.7	39.5	20.4	39.8	21.2	9.4	9.4	18.1	2.0	8.2	3.1	
性別	男性	171	27.5	31.0	21.1	33.3	18.1	38.6	19.9	10.5	11.7	22.2	3.5	7.6	2.3
	女性	216	23.1	23.1	27.3	44.9	22.7	41.2	21.8	8.3	7.9	15.3	0.9	7.9	3.7
年齢	10代	15	13.3	6.7	26.7	40.0	6.7	20.0	26.7	20.0	-	6.7	26.7	-	
	20代	39	15.4	15.4	33.3	51.3	15.4	35.9	23.1	15.4	5.1	20.5	2.6	12.8	-
	30代	44	20.5	22.7	29.5	52.3	27.3	47.7	25.0	13.6	9.1	11.4	2.3	2.3	-
	40代	69	33.3	14.5	31.9	44.9	18.8	37.7	27.5	5.8	1.4	15.9	2.9	7.2	1.4
	50代	79	29.1	32.9	25.3	40.5	21.5	39.2	20.3	10.1	13.9	15.2	1.3	7.6	1.3
	60代	68	25.0	36.8	19.1	35.3	23.5	47.1	19.1	5.9	10.3	26.5	1.5	2.9	2.9
	70代以上	78	23.1	32.1	15.4	24.4	19.2	37.2	14.1	7.7	11.5	21.8	1.3	11.5	10.3

- 性別でみると、「労働時間の短縮など、男女がともに多様な生き方を選択できる環境を整備する」が男性では33.3%、女性では44.9%となっており、女性が男性を11.6ポイント上回っています。
- 年代別でみると、20代や30代で「労働時間の短縮など、男女がともに多様な生き方を選択できる環境を整備する」が高く、30代や60代で「保育、介護の施設やサービス、施策を充実させる」が高くなっています。

【末子の子どもの年齢別】

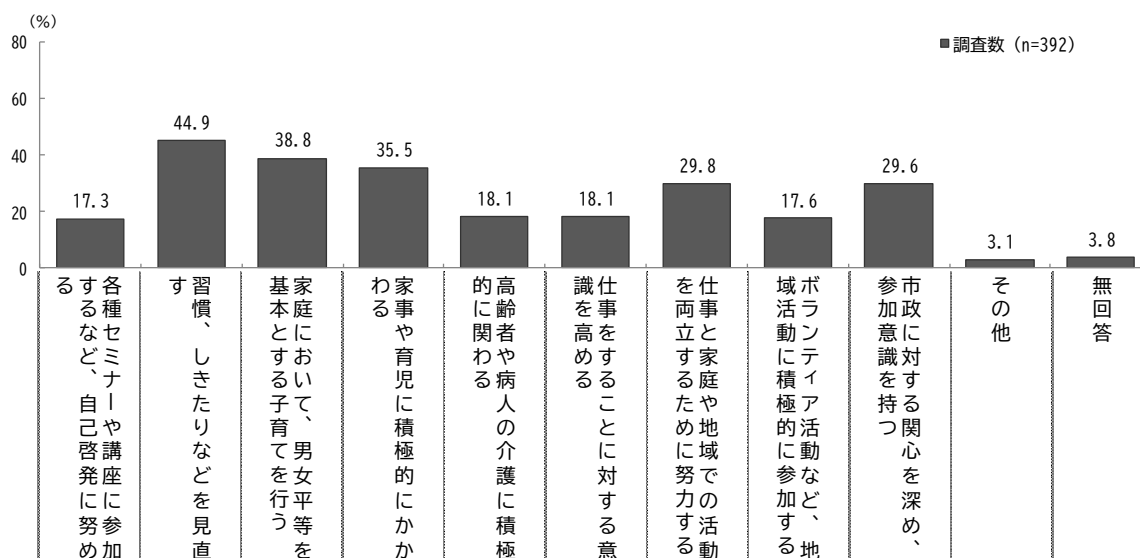
		問33 男女共同参画社会の形成を推進するために、みよし市として力を入れるべきこと													
調査数		男女共同参画社会の実現を目指した法律・条例・制度の制定や見直しを行う	政策、方針決定の場に女性を積極的に登用する	職場における男女の均等な取扱いを行うよう企業等に働きかける	労働時間の短縮など、男女がともに多様な生き方を選択できる環境を整備する	職業教育や再就職支援などを充実させ、女性の就労拡大を図る	保育、介護の施設やサービス、施策を充実させる	学校や社会教育の場で、男女平等の教育・学習を推進する	男女の生き方に関する情報提供や相談の場を充実させる	男女共同参画に関する広報・啓発を推進する	男女がともに市民活動や生涯学習などに取り組みやすい環境をつくる	その他	わからない	無回答	
調査数	282	27.0	28.0	23.8	41.1	20.6	41.5	18.1	7.4	9.6	18.8	2.1	6.7	3.9	
子どもの年齢	未就学児	38	18.4	18.4	21.1	55.3	18.4	60.5	21.1	15.8	2.6	10.5	5.3	2.6	2.6
	小学生	33	42.4	12.1	27.3	48.5	21.2	36.4	21.2	6.1	9.1	18.2	3.0	3.0	-
	中高生～社会人	184	27.2	32.1	25.0	39.1	20.7	38.0	18.5	4.9	12.0	20.1	1.6	8.7	3.3
	その他	22	18.2	36.4	13.6	31.8	18.2	40.9	9.1	18.2	4.5	18.2	-	4.5	13.6

- 末子の子どもの年代別でみると、「労働時間の短縮など、男女がともに多様な生き方を選択できる環境を整備する」は未就学児、小学生の保護者からのニーズが高くなっています
- 「男女共同参画社会の実現を目指した法律・条例・制度の制定や見直しを行う」は小学生の保護者からのニーズが高くなっています。
- 「保育、介護の施設やサービス、施策を充実させる」は未就学児の保護者からのニーズが高くなっています。

【問 34】 あなたは市民として、「男女共同参画社会」の形成を推進するために何をすべきだと思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

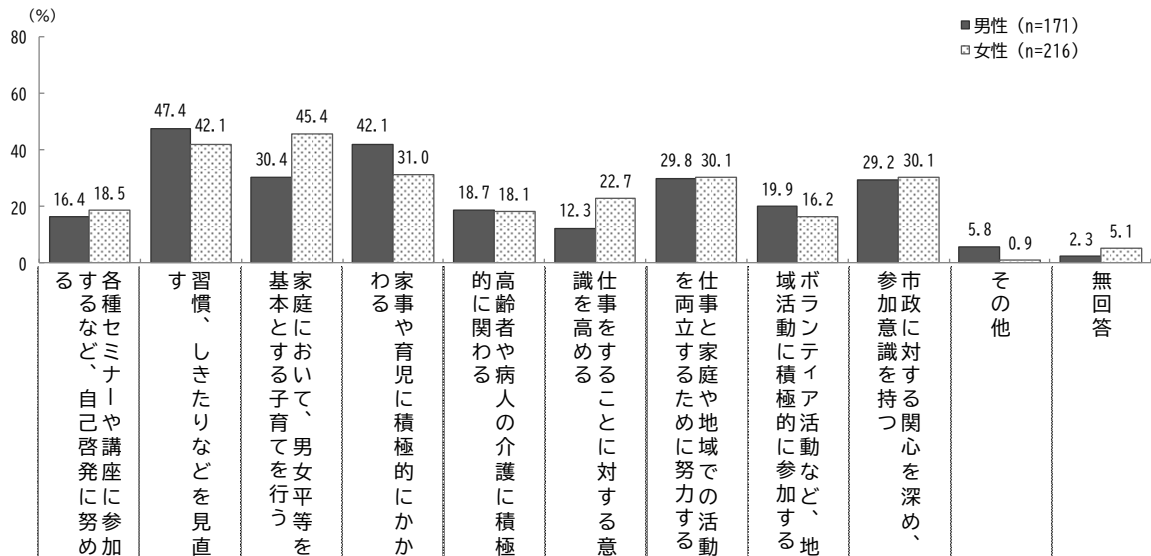
【全体】

図 41 市民が男女共同参画社会の形成を推進するためにすべきこと



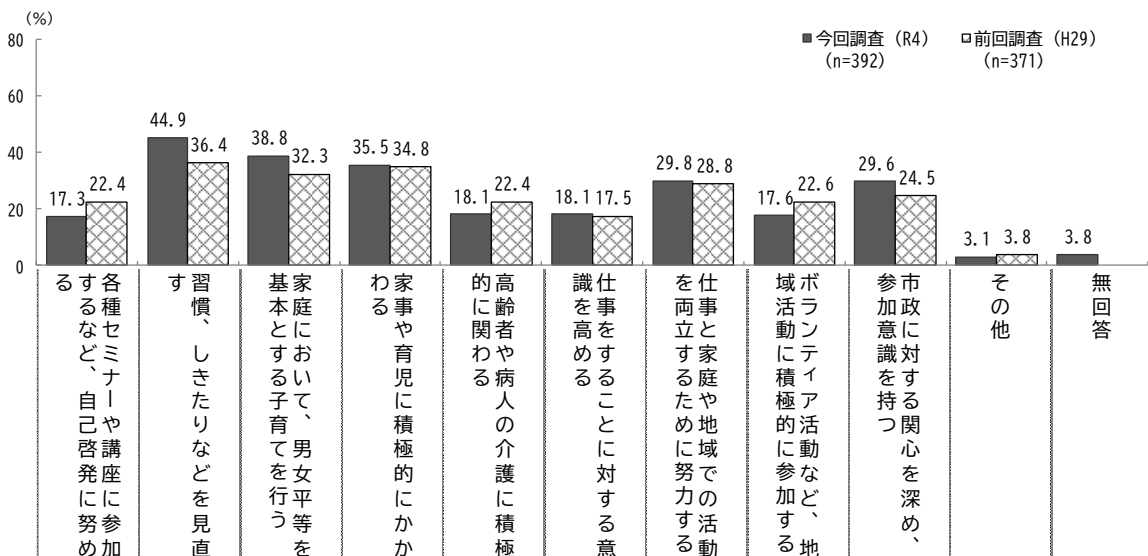
- 男女共同参画の実現のために今後、市民がすべきことについては、「習慣、しきたりなどを見直す」が 44.9%と最も高く、次いで「家庭において、男女平等を基本とする子育てを行う」が 38.8%、「家事や育児に積極的にかかわる」が 35.5%、「仕事と家庭や地域での活動を両立するために努力する」が 29.8%、「市政に對する関心を深め、参加意識を持つ」が 29.6%となっています。

【性別】



- 性別でみると、男性では「習慣、しきたりなどを見直す」、女性では「家庭において、男女平等を基本とする子育てを行う」が最も高くなっています。また、「家事や育児に積極的にかかわる」は、男性が女性を11.1ポイント上回っているのに対し、「家庭において、男女平等を基本とする子育てを行う」「仕事をするに対する意識を高める」は、女性が男性をそれぞれ15.0ポイント、10.4ポイント上回っています。

【前回調査との比較】



- 前回調査と比較すると、「習慣、しきたりなどを見直す」「家庭において、男女平等を基本とする子育てを行う」「市政に対する関心を深め、参加意識を持つ」などは、前回調査を5.0ポイント以上上回っています。

H. ご意見・ご要望(自由記述)

【問 35】 その他ご意見、ご要望がありましたら自由にご記入ください。

その他、意見・要望等を下記に示します。

男女共同参画の意識について		
性別	年代別	意見
男性	40代	女性の社会参加は個人の自由。家庭で話し合うこと。家庭にいるべきや、働くべきなど、偏った意見で傷つく人がいる。もっと自由な働き方、賃金の保障があると、安心して男性も子育てに参加できる。妻も働いているが、子育てのブランクなどがあり、賃金が低く、同じ正社員なのに率先して子どものことや家庭のことをやらないといけないという固定観念がある。
女性	40代	どんな対象者であっても居場所となる場の提供、選択肢を増やし、支援できる内容の情報提供を常日頃から発信してほしい。子どもの頃から差別意識を持たない環境づくり。それに伴って大人の意識、捉え方も平等意識に変わるように努める必要がある。
女性	50代	家庭での意識(特に夫側)が変わらないので、なかなか良い状況は望めない。
職場環境について		
男性	30代	女性が就業することが多い保育士や介護士、看護師の給料が上がって欲しい。
制度や社会全般について		
男性	20代	そもそもの話、私たち 20代のほとんどは女性が不遇な扱いをされている時代を知らない。むしろ女性に対して配慮するあまり、厚遇されているようにすら感じる。(男性が不遇な扱いをされているとは思わないが)現状のままでも、女性を不遇に扱ってきた世代が抜ければ自ずとそういった声は無くなると思う。女性への配慮が加速するあまりに男性が不遇に扱われる時代が来ないことを切に願う。
男性	30代	男女の性別に関係なく得意なことをやればいいと思います。周りの人と違うことをしたい(例えば、現場仕事に女性が就いたり)人はそれなりに努力している。何もせずに男女の壁を壊すのは不可能だと考える。古くからある慣習、しきたりは完全に消えるには時間がかかりすぎる。
男性	60代	人々の平等も男女平等も「平等」を目指すことに問題がある気がする。一方人々の協力、男女の協力により、みんなでより良い社会・より良い暮らし・より幸せになるようにすべきと考える。平等の実現は、それぞれの人の経済力、男女の差もある中では困難だと思う。皆で協力しあう社会の実現の方が、楽しくなると思う。
男性	60代	性差やそこから適切となる男女の役割を一定程度、明確化し、これを認識した上で、人体の性差をなくすこと自体が平等の目標ではなく、どうなると男女が平等と言えるのか十分議論すべきと考えます。男女の機会平等は必須ですが、男性らしさ、女性らしさは不要ではないはずです。男女平等、性の多様性を認め合うことが社会、市民生活に影響を及ぼす良い点や悪い点を具体化する必要があります。
男性	70代以上	最近では女性の方が強いから、男性をもっと大切にすること、本当の恋をすること。結婚を大事にすること。憲法をよく理解すること。

性別	年代別	意見
男性	70代以上	男女雇用機会均等と言っても、すべてにおいて男女平等ということではない。男と女は遺伝学的に同じではない。女性は女性ホルモンで支配され、男は男性ホルモンで支配されている。女性ホルモンは優しさを生み出し、男性ホルモンは攻撃性を生み出す。この生物学的な性質に反する職業に就かせるべきではなく、ここはきちんと法律で制限すべきである。本人の意志に関わらず、例えば、女性自衛官の戦闘任務、スナイパーは人を殺すことを目的とする。これは本人が希望しても法律で禁止すべきである。他にも生きているものを殺す仕事は禁止すべきである。
女性	20代	仕事をして生活をするだけで毎日忙しく、お互いが一杯一杯のため、余裕がないことが相手を思いやれない1番の原因かなと、このアンケートを記入していて思いました。今、私自身子どもがいませんが、子どもができて仕事が今まで通りできずに収入が減ることで、生活に影響がでると思うと前向きになれません。
女性	20代	妊娠、出産が女性しかできないように、どうしても平等にできない部分があると思います。そのため、それらを経ても不自由なく社会復帰できるような制度やサービスが充実したら良いなと個人的に思います。
女性	30代	家族それぞれがどのような役割を持ち、どのように家庭を運営していくかは、全て各家庭それぞれのルールがあるかと思います。専業主婦や主夫、兼業主婦や主夫、どんな形態であっても、誰に何を言われる事はなく、皆それぞれが違ってそれがいい。そんな市になってほしいと思います。
女性	40代	平等の言葉1つでもすべての人が同じ平等と感じとっているわけではないので、そもそもここで書かれている平等とはどう考えているのか。みよし市としての平等とはを市民が知ると良い。
女性	40代	市の行事、学校行事が多々あり仕事に支障が出ます。収入源がある家庭はいいですが下請けの1番下にいる家庭では生きるため子を育てるために収入を増やすしかないのに、それぞれの家庭環境に合ったスタイルでやれるようにしてほしい。稼いだら稼いだだけ税金引かれるのも納得いかない。離婚したくてもできるような市の協力が無い。ずっと我慢しかない生き地獄。正社員になれる年齢の幅をもっと広げて頂きたい。
女性	40代	能力のある人を引きずり下ろすような組織的な嫌がらせがあるため、その事実がわかった女性が出世することを望まない傾向があります。組織に所属している一部の人達を優遇するような状況があってはならないと思います。男性の場合はその組織に入る人が多く、それ以外は有望な人でも退職していきます。教育の場ではほぼ平等であるが、会社に入った途端に女性の評価が低くなるのがおかしいと思います。もともとそうでなかったとしても、仕事の都合上、男性と同じ仕事をしたり、男性以上のことをしても給料や役職などで評価されない。育児休暇取得前には給料を上げないように決めているのではないかと思うような状況があった。もしシングルマザーになってしまったら、女性の賃金面で生活していけるのか、子育てと仕事との両立ができるのか、不安に思います。なので、もともとの女性の賃金を上げる必要があります。男性も女性も終身雇用を堅持するのではなく、もっと流動的でよいと思っていて、中途採用でも男性でも女性でもしっかり評価するようにする。また女性が意思決定の場にもっといる必要がありますが、女性的な視点と男性的な視点で違いがあるので、全く同数でなくてもいいが、今よりは確実に増えないといけない。男性の長時間労働もなくして、誰もが働きやすい環境にして、女性と男性の労働時間を同じくらいにする。また女性が多く担っている事務的な仕事への評価を上げる意識を持つ。現在は専業主婦でいますが、嫌がらせなどがなければ、本当は仕事を続けたかったです。男女ともに有能な人が活躍できて、無駄な嫌がらせに時間を取られることなく生産性を上げ、やりがいを持って仕事ができるような環境になればいいなと思います。

性別	年代別	意見
女性	50代	男女の別ではなく、向き不向きや個人の思いに寄り添う社会になればいいのではないかと思います。家事や子育てがしたい、好きだという男性がいれば主夫になったらいいし、女性でもバリバリ働きたい人もいれば家事育児がしたい、好きな人もいるのだから無理に働かなくても専業主婦でいいではないですか。専業主婦に対しても、なんだか差別的なものを感じます。専業主婦がいけないみたいな偏見や暇でいいわね的な扱いやそういったことも含めて偏見差別のない社会になって欲しいです。
女性	60代	男女の平等について、男性、女性が全く同じ土俵に着くのではなく、男性、女性の特性を活かすべきだと思う。しかし、男性、女性の枠に入らない方々も受け入れていくことが男女平等だと思います。
女性	70代以上	私は80代で女は家庭、男は仕事という時代に育ちましたが、その時はそれで良いと思って暮らしてきました。でも男女はそれぞれ特性があり、子どもを産む、そして育てる特に3歳位までは女性が担った方が子どもの心も安定すると思います。そして、その後また職場にもスムーズに戻れる世の中になればと思います。また、介護は夫婦ですのような制度の世の中になればと思います。性別は関係なく得意分野で仕事をし、互いに尊敬し合い生きていける世の中になればと思います。
教育について		
女性	10代	自分がどちらかという、「男女平等を基本とする子育て」をしてもらっていたけど、自分の性自認で悩むまではLGBTなどの価値観を知らなかったから、知っていたら実際より悩みが軽くなっていたかもしれないと思うと、価値観として学校で教えたりすべきではと思った。教えてほしかった。男女平等は具体的なゴールが見えない。どこを目指しているのかも知らないけど、男＝女ではないと思う。男、女はあくまで1つの区分であって不等号で表すものなのかと思う。正直、個人間の問題だと思うが、個人ではどうにもできないから制度とかができるのだろうし、よりよくできるように頑張りましょう。
女性	70代以上	みよし市の学校も防犯、防寒上のためにも女子もズボン着用の選択ができるようにしてください。
アンケートについて		
男性	40代	アンケートの結果が良い方向に反映されることを願います。
男性	70代以上	アンケート調査の項目が多すぎて大変。もう少し簡単にまとめてほしい。
男性	70代以上	設問が多すぎる(半分くらいがよい)。設問の内容が広がりすぎ。もっと限定した方がよい。
女性	50代	このアンケートがどう活かされるのか、わかりません。
市の施策について		
男性	40代	学童保育や部活動など、みよし市はまだまだ改善できる対策があるように思う。介護についてもサービスの充足が必須である。性的マイノリティの方も含め、市民が住みやすい市になってほしい。
女性	40代	私には大学生の子どもがいます。地方から結婚を機にみよし市に来て、誰も頼る人がいない中、子育てをしてきました。体調が悪くとも言えず、預けるところもなく、年少になるまで働かず、家計のやりくりをしながら仕事のキャリアも全て捨ててきました。現在は保育料もいらぬ、預けるところも充実してうらやましい限りです。キャリアを捨てた分、仕事もやっとならなくなった頃には年齢もいって、再就職も厳しく、すごく損していると思います。大学生にも優しいみよし市であってほしいと思いますが、現実化する頃には卒業しているのだろうなと思言えずじまいです。名鉄電車も高く駅も遠い。送り迎えがいる分、働く時間も思い切り働けない。みよし丘ループだけバスがあって、その他はないのか。どこに住んでも平等なみよし市を望みます。

性別	年代別	意見
女性	50代	大学生等生活応援品支給事業実施の件、大変ありがたく喜んでおります。みよし市に住んでいて良かったと思いますし、皆が安心して生活できるよう、今後もみよし市の発展を切に願っています。
女性	50代	母子家庭・父子家庭が増えているので、どのような支援があるのか分かりやすくしてほしい。よく所得制限を少しでも超えてしまって、母子手当や母子医療がなくなった・減額になったと聞くのですが、その計算さえ給料明細の総所得か、保険料など天引きされた手取りかなど基準が明確に分かるものがなく、役所へ問い合わせたり足を運んだりで手間がかかる。フタを開けたら年間100円オーバーしてしまっていた、という事態にあった方もいるのでは。自分はどれだけ働けば所得オーバーにならないか簡単に計算してくれるアプリの開発などお願いしたい。
女性	60代	近頃は北部地区に人がたくさん入って来ているので、北部開発がすごくて南部の方は、何もしてもらえないイメージがあります。トラックの中継工場が、通学路にも沢山出ています。車の町だからこそ、児童の安全を守る取り組みを、ちゃんとして欲しいです。
DV・ハラスメントについて		
女性	40代	女性に対する暴力等、女性に対することばかりでしたが、男性に対する〇〇がない時点で、男女平等と思えません。暴力では女性は男性にかなわないですが、言葉、言い方は女性の方がきついのでは。
地域における男女共同参画について		
女性	50代	30年前よりみよし市に住んでいます。地域のつながりが薄くなってきています。公園の遊具より小学生、中学生、高校生がボール遊びができる公園、自然な緑地公園を増やしてほしいです。午前中が老人の憩いの場、午後は若い人たちが自由に憩えるイギリスの公園のようなイメージです。
人権について		
女性	50代	多様性の時代なので、男性が外で働き、女性が家庭を守るといった従来の考え方ももちろん賛成です。自分はそう育ってきているので。性や力といった男女差や平等にはならないこともあります。そういったお互いの違いを認めた上で人権の守られた社会になっていくといいと思います。
女性の積極的な社会進出について		
男性	30代	決定権を持つ人が女性になるのが一番重要だと思います。そろそろ女性のみよし市長が誕生することを期待しています。小山市長には、女性市長候補や議員候補を育てるための支援や制度整備をお願いしたいです。女性の政治参加を支援することを不平等という意見もありますが、それは男女平等が実現していればの話だと思います。不平等の現状で支援しないのであれば、それは不平等を認めていることと同じではないでしょうか。
男性	40代	そもそも、市議会議員に女性がいない時点で、おかしい。まずは、議員がどう思っているのか、どうしようとしているのか宣言すべきだ。
女性	40代	男女の別なく、子供を持ちたい人が安心して持ち、誰もが機会の平等を失う事なく仕事や趣味にチャレンジできる社会を望んでいます。議員の半分を女性にはなく、立候補したい人の機会平等を行政は担保してください。私個人は保育園に子供を預けていますが、今の就園条件では、『少し仕事を休んで疲労回復したいが子供が退園になるから休めない』ことがとても困っています。私の周りでは月60時間以上の勤務に悩む人が少なくありません。
女性	70代以上	どの問題も本人次第だと思う。結婚して子どもがいても本人が働きたいと思う気持ちがあれば1日数時間でも働ける気がする。

パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度について		
男性	70代以上	10月よりパートナーシップ、ファミリーシップ宣誓制度を開始するとのことですが、もっとすべての人にある程度、内容を理解した上で進めた方がいいと思います。
その他、意見・要望について		
男性	10代	さんさんバスの数を増やしてほしい。選挙時のみよし丘駅での早朝からの議員の人による演説はうざいので止めさせてほしいです。
男性	20代	男女共同参画社会もちろん大事だが、それよりも先に見直すべきところがあると思う。コロナ関係の支援にしても1部の業種だけが手厚い支援を受けて、その他の業種には特にないだけではなく、必死に努力して営業を続けるために頑張った人間が支援されず、何の努力もしていない人間が支援されているのはおかしい。なぜ生きていくために努力して店を守ろうとしている人間に基準の甘い支援がなく、逆に何の努力もしていない人間がゆるゆるの審査で書類を出すだけで通る支援を受けられるのか意味が分からない。これでは努力している人間がバカみたいだ。行政はきちんと時間がかかってもきちんと調べてほしい。
男性	30代	男女問題⇒各家庭の枠割分担、各々の理解。ジェンダー問題⇒各々理解を深める。個別問題として被差別者であろうとダメなものダメという。その他の問題(労働環境の改善、賃上げ、税金が高すぎる)の方が緊急性は高いと思う。
男性	30代	冷戦以後超大国として、経済・軍事面はもとより、倫理面でも世界を牽引してきた米国はトランプ政権以来その牽引力を大きく失った。男女平等の面でもこのような牽引役を失った今、日本は独自に社会倫理を成熟、実行する必要がある。みよし市がその成熟の発信点となることを期待します。
男性	50代	受け皿を作り促進して社会を形成することは、とても良いことだと思います。平時においては理想通り進み、うまくことが運ぶように見えるが、深いところは表にはなかなか上がってこないことが多いと思う。非常時には平時に出ないものが出て、それが個人の本質、それは変わらないと思うので、その本質に従って伸ばすことが役目は違うにしろ、社会を形成する一人になる自覚が出ると思うので、男女で同じことをするのが平等ではないと感じる。平時以外の人々をこれまでたくさん会い、見てきた経験から、個人がよりよく生きられるようサポートできる方向に受け皿となればと思います
男性	50代	性の多様性を重視する社会になっているが、当事者はごく少数(不明)。その少数の為に多大な人・モノ・金・時間・情報を費やす事はどうなのかを考えて頂きたい。それよりもっと多数の人が直面している問題(例:物価高)に対処して頂きたい。
男性	60代	このアンケートは私の母(87歳)宛に届きましたが、母は老人ホームに入居中で回答ができないため、私が自分のこととして回答しました。
女性	60代	子どもさんで食事ができない人がいますよね。生活が大変なのでしょうか。それとも両親が2人ともお仕事を夜が遅くなったり、子どもとい時間がないからでしょうか。
女性	60代	長引くコロナ禍で幸せの形への意識も変わった気がします。シニア世代として、未来を生き継ぐ若い方や、子どもたちが一人も取り残されることなく、幸せを感じられる社会を願い、自分も何かできることはないかと思っている一人です。シニア世代が地域サポートに貢献できる場所が増えるといいと思います。困っている人がいたらお互い様で、自然体で声をかけあい、性別とか障がい等に関係なく、様々な選択肢があって、自分の希望に沿った道が見つけることができる、そんな温かい行政と人の町、みよし市になってほしいと思います。

みよし市男女共同参画社会に関するアンケート調査

【調査結果報告書】

発 行 : みよし市
発行年月 : 令和5年3月
編集・発行 : みよし市 市民協働部 協働推進課
〒470-0295
みよし市三好町小坂 50 番地
電 話 : (0561) 32-8025
e-mail: kyodo@city.aichi-miyoshi.lg.jp

